

79-1101



1200501294104

79
01



始



2/3021



鹿兒島縣教育會編纂

薩隅日地理參考

鹿兒島縣教育會發行



薩隅日地理纂考序

79-110

掛卷者畏禰禮抒天照大御神能皇孫尊廼天降坐計留時爾葦原能千五百
 秋乃瑞德國者吾子孫農君多流倍伎能國奈里云々天津日嗣乃榮坐牟事
 天地登共爾窮無流倍之止詔給比之大御言乃灼焉久八百万代能今爾至
 里槻乃木能彌都々藝々仁榮坐上天下爾國登云國多耳安例抒毛更仁並
 國無久以止母々々々女泥太久尊伎國者此大御國邇奈母安里氣流其我
 中爾毛日向國波大御神能生坐都法本都御國有賀上爾皇孫命毛同國有
 留高千穗乃穗觸岳仁天降坐豆次々乃大宮所亦御陵所毛此三國內爾阿
 里豆豐葦原乃中都國能開初都留始乃國爾之安禮婆大御國乃中仁天毛
 殊耳女泥多久尊者此三乃國々爾豆其者御々代々能神典爾甚委敷記傳
 太流遠其助登須倍伎書波和銅能御世諸國爾勅安利豆奉良之女給比之

風土記奈留乎其書早久失豆今僅爾遺禮留出雲常陸能風土記袁見留爾
御々代々乃神典爾漏多留神代能古事袁毛淺芽原委曲爾記之傳豆甚母
女傳太伎書爾之安禮婆此三國々乃風土記能今毛遺里多良武仁波遠伎
神代乃跡母委敷傳利奈牟遠疾久失豆世爾傳良邪留波位登毛口惜久歎
加之久奈矣今般其風土記爾做比薩摩大隅日向農國々乃中奈流神代農
舊蹟余里始豆神社及山陵或名山勝地或古城古戰場產物仁至迄記豆奉
良之女給布固余里其任爾堪受止云閉杼毛強豆辭難久斯者物勢之奈里
計利然有者薩摩國鹿兒島爾始利豆大隅國爾涉里日向國諸縣郡爾畢禮
里合豆二十卷餘八卷名附豆地理纂考止云我輩心能限乎盡登言杼毛書
乃林乃槩無久之豆筑波嶺能此面彼面耳惑比端山繁山多杼々々之祁禮
婆且者漏且者謬多可留倍之若是袁母捨受之豆後乃世萬傳遺良牟仁波
世仁類無伎幸比奈良牟加之明治四年正月十五日樺山資雄等謹述

凡例

○日本書紀孝德天皇大化二年詔曰宜觀國々疆境或書或圖持來奉示云々是國々ノ地圖ヲ勘進セシ
ノ給ヒシ始ナリ次ニ續紀元明天皇和銅六年詔曰畿内七道諸國郡郷名著ニ好字一其郡内所産金銀銅彩
色艸木禽獸魚蟲等具錄ニ色目及土地沃墾山川原野名號所由又古老相傳舊聞遺事一載ニ于史籍一言上コレ
六十六國風土記ノ始ナリ此後二十六年ヲ歷テ聖武天皇天平十年令天下諸國造二國郡圖一ト見ヘ是ヨ
リ遙ノ後延長三年風土記撰進ノ事朝野詳載ニ見ヘ又此間ニモ五畿七道諸國可レ有ニ風土記一若無レ應レ
探ニ求郡内一尋ニ問古老一早言上ト續文粹ニ見ユ此ノ如ク屢撰進アリシ風土記ノ世ニ傳ハラス國郡地理
ヲ明カニセムハ此書ニ及モノアラサルヲタマヘ遺レルモ出雲常陸ヲ除テハ殘缺或ハ偽書ノミニシ
テ和銅ノ古キニアラス遺憾ノ甚シキナリ此度官命ヲ蒙リ此書ヲ編集ストイヘトモ上古ノ事實委シク
傳ハラス特ニ淺學不才ニシテ其任ニ堪ス遺漏多カラムヲ恐ル是マタ遺憾ノ甚シキナリ

○神代三陵ノ在所ハ書紀古事記ニモ詳ナラス延喜ノ神名帳ニ載タルモ書紀ノ儘ナリサルヲ數百萬歲
ノ今ニ至リ薩摩大隅ノ兩國ニ現存セルヲ世ニ知ル人稀ナルハ都ニ遠キ國ナレハナリ今此書ニ委曲ニ
記シテ世ニ明カニセムトス彼日向國臼杵郡ナル瓊々杵尊ノ御陵ノ附會ナルト等シク是ヲモ疑ヲモ疑
フ事ナカレ

○高千穂ト稱スル山日向國ニ二所アリテ古來其眞偽ヲ論スル輩少カラズ其一ハ日向臼杵郡ニテ今一

ハ日向大隅兩國ノ界ナル高千穂山ナリ此兩國ノ界ナルハ中古以來霧島山トモ唱へ來ツレハ今ハカヘリテ彼臼杵郡ナルヲ主張シテ天孫降臨ノ靈地ト思ヘルモ少カラスサレト神典ニ所謂高千穂山ハ霧島山ナル事其證ヲ擧テ辨セリ更ニ我生土ニ私スルニ非ス

○大隅國ハ舊肝环噲啖大隅始羅ノ四郡ナリシヲ後ニ菱刈桑原馭護熊毛ノ四郡加ハリテ八郡ナリ其中ニ今始良郡アリテ古ノ始羅郡ノ無キハ始始字形ノ相似タルカ故ニ誤レル事其證ヲ得タレハ始良郡ヲ改テ始良郡トセリ

○諸神社ノ中ニ祭神疑ハシキカ多シ又始ハ一坐ナリシカ後ニ會祀セリト思シキモ少カラス今是ヲ正サムニ更ニ證據ナシナル類ヒヲ強テ改ムハイヨク過ニ過ヲ累ヌヘキ恐アレハ本ノ儘ニ閣テ後勘ヲ俟モ多カリ

○諸國名所舊蹟多シ皆古人ノ詠歌詩文等ニ因ル處ナリ薩摩大隅日向ノ三國サル所多カラス僅ニ長田王ノ華人ノ薩摩迫門大伴旅人卿ノ華人湍門大隅櫻島忠信ニ翁カ詠テ出セル或ハ平康頼カ薩摩濁ノ歌此外一二三首ニ過キス然リトイヘトモ高千穂嶺觸岳ノ如キハ云モ更ナリ其外ニモ世ニ名タル天橋立或ハ松ケ浦島ニモヲサレ劣ルマシクヲホユル勝地モ少カラス所々ハ古人ノ詩歌ナシトイヘトモ稀ニハ載セタルモアリ

○三國共ニ建久以前ハ委シキ載籍ナクシテ事實詳ナラス其後トイヘトモ委シキ記録アルニアラス地名等ニ及テハ和名鈔次ニ建久八年ノ岡田帳古城古戰場ニ至リテハ家々ノ古キ史乘ニ依レルノミ況ヤ神代ニ遡テハ書紀古事紀古語拾遺此外ノ古書アリトイヘトモ神蹟ニ至リテハ名ノミ遺リテ實地分明ナラサルカ多シイハ、上津湍中津湍下津湍或ハ橋小戸及ヒ檉原高千穂宮等ノ如シ是ヲ探索ムニ假令ハ大虛ノ雲ヲ擱ムニ等シ今此書ニ記ス所僅ニ古老ノ口碑ト地名トニ因レルナレハ履ヲ隔テ、痒ヲ搔ニ等シキカ多シ能漏ヲ訝ル事ナカレ

○此書日向國ニ至リテハ諸縣一郡ヲノミ舉タリサルハ此郡ノ外ハ鹿兒島ノ管轄ニアラサレハナリ
○日向大隅薩摩ノ三國ハ掛卷モ畏キ皇美麻尊ノ天降坐ス時ニ國津神猿田彦大神天八衢ニ出迎へ給ヒ皇美麻尊ヲ筑紫日向高千穂嶺觸岳ニ天降坐ヘシトテ導キ給ヒシヲ按ヘハ皇御國ニ國郡ハ最多ナルヲ殊更ニ可憐御國ナレハナリケリサテ次々ノ大御代ノ大宮所モ皆此國內ニシテ神武天皇始テ東征シ給ヒ大和國ニ都遷サセ給ヒシナリ其ハ皇國ノ真中ナルカ上ニ神代ヨリサルヘキ幽契アリシハ神典ニ明カナリサレハ其天降坐ツル高千穂峯ハ云モ更ナリ高千穂宮ヲ始メ加世田郷笠沙岬笠沙宮或ハ戸無室竹屋其他御三代ノ山陵等イトモ尊ク奇ヒナル處ソ多カリケルサレト大和山城等ノ國々ニ大宮所定メ給ヒシヨリ後ハ天放ル鄙トナリテサルメヲタク尊キ處々モ人知レス世ニ埋レタルハイトモ慨クイトモアタラシキ事ノ限ナリサルヲ此百トセ許コナタサル事トモヲ糺シ明ムル學ノ道モ開ケサルカタノムノアラマシナルハカヘスカヘスモメテタキハサナリカシ

○舊藩ニ於テ此書ノ起原既ニ久シ始舊史官ニ命シ府下及諸郷々ヲ巡歴シ神社寺院且名所舊蹟古戰場其他物産等ニ至リ博求歴搜シテ編ヲ成セリ爾後又史官命ヲ受テ是ヲ再撰ス詳細數年ヲ經テ全備ス名附テ三國名勝圖會トイフ今此ヲ見ルニ建久以來ニ詳審ニシテ太古ノ事蹟ニ疎漏ナルカ無ニシモ非ス

サルヲ近年舊藩ノ諸寺院ヲ悉ク廢シ佛址地ヲ拂ヒ且今年藩ヲ廢シテ縣ト爲ラレシニ就テハ書法及文句悉ク換易セスハアルヘカラス故ニ舊藩主ノ稱號及ヒ本府本藩我云々等ノ書法ヲ改メ太古ノ事件マ

タ他ニ於テモ舊史官ノ著ス所ト大ニ異ナリ
○圖畫ノ中ニ神代三陵ト高千穂山トノ圖ハ田中賴庸カ著セル神代三陵誌及ヒ高千穂山ノ記ニ高木秀明カ眞寫セルヲ出シテ聊モ違フ事ナケレハ彼ニ讓リテ此ニ略セリ遺漏ヲ訝ル事ナカレ

○此書始編輯ノ命ヲ蒙リシハ八田知紀 高木秀明、田原篤實、新納實枝、樺山資雄ナリカクテ知紀秀明、篤實ハ其功遂スシテ朝官ニ拜サレ此ニ代リテ^{ナカ}央ヨリ次々ニ此事ニ^{アツカ}關リシハ關盛長、境田通古町田俊徳、山名亨、有馬某等ナリ

薩隅日地理纂考總目錄

一之卷

三國總說

日向國、熊曾國、大隅國、吾田國、隼人國、薩摩國

二之卷

薩摩國

鹿兒島郡

鹿兒島



鶴丸城	諏方神社	八坂神社	鹿
稻荷神社	春日神社	若宮神社	多
多賀神社	精木川	夏箕瀑布	小
東福寺城	清水城	都曇答臘	蛇
日吉神社	催馬樂城	内城附 蓑懸樟	釋文之傳
女學校	鶴江崎神社付神馬廐	永安橋	田之浦

總目錄

一

三

會根神社 孝行橋 宮比神社 琉球館
 龍夕尾神社 吉野橋并新橋 桂樹院舊蹟 長田神社
 近衛水 屯田

三之卷

薩摩國

鹿兒島郡
 鹿兒島

皇軍神社 照國神社 鶴峯神社 靖獻神社
 松原神社 本學校 女學校 日吉神社
 谷峰城 蛙部神社 孝女千世 船玉神社
 巖島神社 一條神社 鹽竈神社 野元原
 八幡神社 神月川 石之堰 高加木神社
 鹿兒島神社 春日神社 青屋松原 伊爾色神社
 伴掾館 原羅營 比志島城 高牛落城
 紫原

○小山田瀑布 孝子喜左衛門傳 太鼓橋 鳥越
 大磯 菅原神社 白山神社 仙巖園

三船神社

同郡

吉田郡
 吉田郡

牟禮之岡 三重岳 王子神社 黑山神社
 都津宮神社 松尾城

四之卷

薩摩國

日置郡

郡山郷
 郡山郷

花尾山 熊野神社 花尾神社 附御供所、鐘樓、隨身門
 八重山 麓川 東俣川 祓川
 丹後局附永金墓 丹後局憩石 一之宮神社 近都神社
 諏方神社 稻荷神社 川田城附松尾城 彌五郎城

總目錄

三

陳之城 毘沙門之城 聖之城

同郡

伊集院郷……………四

上宮嶽 神之川 苗代川 玉山宮

諏方上下神社 稻荷神社 多賀神社 古諏方神社

熊野神社 智賀尾神社 福島神社 八幡神社

一字治城 石谷城 福生田城 長崎城

内城 爲朝原 遠射躰

同郡

永吉郷……………三

久多島神社 黒川神社 稻荷神社 南郷城

本川 八幡神社

同郡

吉利郷……………七

御靈神社 平野神社 稻荷神社 鬼丸神社

建部神社 日枝神社 帆神社 池王神社

領家宅地 勝手ヶ城

五之卷

薩摩國

日置郡

申木野郷……………七

串木野嶽 熊野神社 串木野城 舊壺屋

芹ヶ野金山 五段田川 照島 諏方神社

山神 羽島崎神社 髭神 西洋船觀

同郡

日置郷……………三

八幡神社 熊野神社 刀立神社 諏方神社

松尾城 大川 帆之湊 下口浦

同郡

市來郷……………六

稻荷神社 湯田温泉 嚴島神社 鶴岡神社

薩摩渡瀬川 鍋ヶ城附古墓 春日神社 鶴丸城

總目錄

總陣ヶ尾 吹上 神之川 嚴島神社 板 江口濱

六之卷

薩摩國

薩摩郡

入來郷.....三

清色川 八重山 鷹子岳 鷹子神社

舟見峰 愛宕嶽 大宮神社 若宮神社

廣瀬神社 菅原神社 清色古城跡 淵上城

川床城 湯河内温泉 湯元神社 諏方上下神社

重來神社 同郡

樋脇郷.....六

樋脇川 一之宮神社 諏方神社 若宮八幡神社

三島神社 天子神社 總永神社 樋脇城

前田城 市比野山 蓋山 市比野温泉
溫泉神社 湯元瀑布 市比野城

永利郷.....九

西岳 諏方神社 生松管原神社 岩田城

天乞神社 石神社 永利城 大石ヶ平

同郡

平佐郷.....一〇〇

稻荷神社 白羽火雷神社 白羽町 平佐城附藤崎並井穴

田平 鳥追之森 碓山城 稻穂神社

同郡

限之城郷.....一〇四

川内川 向田町 諏方神社 熊野神社

日暮之里舊蹟 二福城 都城 志那尾神社

諏方神社 宮里城 安養寺阜

同郡

高江郷

諏方神社

志那尾神社

峰ヶ城

106

高江新田 諏方神社
猫嶽 猪子嶽
白石城 久見崎
茂山 柳櫛神社

大峰本城
孝女福依賣

船魂神社
檢見ヶ城

七之卷

薩摩國

薩摩郡

東郷郷

五社神社

鶴ヶ岡城

新城

111

諏方神社
原之城 岡司城
紫美神社 親神社
霧島神社 菅原神社付梅樹

日吉神社
藤川岳

紫尾神社
諏方神社

上甑島

新田八幡神社

講本神社

東浦

117

甑島神社
眺浦 海鼠池
平港 大炊中將墓

中甑港
松木少將墓

浦内港
龜鶴城

下甑島

瀬尾瀑布

瀬々浦

八艘穴

113

手打港 瀬尾瀑布
精靈洞 蓮花池
大多羅姫神社 矢房神社

新田神社
青潮神社

諏方神社
敷潮神社

八之卷

薩摩國

伊佐郡

宮之城郷

117

上宮岳 轟之瀧 穴川 豊川
船木川 中福良川 九尾野牧跡 虎居城

總目録

九

松尾城 推込 轟原城 篠ノ尾

諏方之原 牛渡瀬 宮之城 惡四郎石

新城市 八幡神社 白山神社 箭武佐神社

山神社 菅原神社

同郡

黒木郷 菅原神社 諏方神社

黒木峰 大王神社

高峰山 長江瀑布

同郡

山崎郷

上宮岳 飯富神社 稻荷神社 山崎城

稻富神社 諏方神社 久富本城 松尾城

同郡 高峰 白男川城 栗臨城

同郡

大村郷 島津歳久石塔 大村城

大居神社 長江瀑布

新城市 松尾城

同郡

蘭牟田郷 諏方神社 蘭牟田池

山王岳 日枝神社附神泉

同郡

同郡

牛山郷 諏方神社 愛宕神社 忠元神社

諏方神社 諏方神社

大口城 箱崎八幡神社 市山城 朝日岳

鳥神岳 平泉城 鳥ヶ城 八幡神社

新納忠元墓 若宮八幡神社 羽月川 小河内關

八幡神社 菅原神社 十曾山 熊野神社

諏方神社 菅原神社 山野城 關白陣

扇取岡 山下出羽宅址 鷹野城 三種嶺

熊野神社 藤尾城 戸神尾附首冢 高殿城

同郡

同郡

諏方神社
 舊城
 萩平營
 野母毛神社
 同郡
 金山川
 佐志郷
 阿字賀神社

紫尾山
 紫尾神社
 嚴島神社附龜石鶴石溫泉
 鶯之巢陣營
 善福寺營
 稻留神社
 會我石
 梅君ヶ城
 古紫尾神社

九之卷

薩摩國

出水郡
 廣瀬橋
 廣瀬川
 紫尾山
 上宮嶽
 龜ヶ城
 太閤憩石
 箭管岳
 雁俣山
 菅原神社

諏方神社
 春日神社
 稻荷神社
 菅原神社

愛宕山
 愛宕神社
 米之津港
 菅原神社

薩摩迫門
 尾崎城
 檜垣女略傳
 紫尾神社
 僧都屋舖
 同郡
 長嶋郷
 加紫久利神社
 名護浦
 菅原神社
 木牟禮城
 諏方神社
 脇元港
 葦成川
 水成川
 諏方神社
 霧降リ
 八幡神社

獅子嶋
 針尾崖
 若宮神社
 高羅城
 同郡
 高尾野郷
 住吉神社
 水無川
 諏方神社
 伊唐嶋
 小伊唐嶋
 本浦嶋
 藏本港
 黒之湍戸
 諏方神社
 白山神社

紫尾神社
 物産
 同郡
 野田郷

野田川 龜井山城 新熊野神社 忠兼靈社
 爲朝城 小松神社 熊野神社 八坂神社
 尾形跡 若宮神社 稻荷神社 一ノ宮神社
 俊寛墓 物產

同郡

阿久根郷

一七九

阿久根町 阿久根驛 黑神岩 高松川
 戸柱神社 諏方神社 菅原神社 賀喜ヶ城
 倉津港 五色濱 光礁 大石城
 大人足蹟 鹽濱 折口川 岩船
 母子島 雄嶋 雌嶋 子嶋 無川
 鷹之口海灣 小湯崎 遊行松 尻無川
 尻無古戰場 熊之山 開聞神社 英禰城
 中之城 新城 田代山 高津神社
 天照皇太神宮 田代城 出水壘 中ノ峰
 陣之屋並陣之平 物產

十之卷

薩摩國

高城郡

水引郷

一八九

川内河 一之磧 川合陵 日吉神社
 鏡野 水引城 拵城 神田神社附四所
二十四所神社 武内神社 荒神社 高
 耳神社 大王神社 早風神社 隨神社
 菅原神社 國分寺舊跡 平島 汰宮
 若宮八幡神社 船間島 京泊津 唐濱
 同郡

高城郷

二〇五

桃花山 千人塚 妙見神社 高城城
 背野 妹野 尾形ヶ原 高城川
 三岳神社 一戰川 一條之宮 一條殿坂
 湯田溫泉 菅原神社 湯田城 西方浦
 總目錄

一五

十一之卷

薩摩國

川邊郡

川邊郷

永田川 熊ヶ嶽 諏方神社 惠美壽神社

飯綱神社 平山城 松ヶ藁之瀑布 茶磨ヶ營

小野之瀑布 打斧之瀑布 諏方神社 鬼ヶ穴

飯倉神社 佐多城 箭掛松 若宮神社

川波神社 山神 松尾城 高良神社

近衛櫻 諏方神社 一之宮神社 櫻之潭

山中瀑布 白山神社 若宮神社 鳴野原

金山 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

王子神社 勝目ヶ城 窟神社 三三

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

熊方見

同郡

同郡

同郡

同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡 同郡

市杵島神社	蒲葵島	今峯神社	九玉神社	近衛藤	耳取峠	網代浦	坊津浦	深浦	鶴崎
行館跡	戸柱神社	九玉神社	大久志川	八坂神社	奥院	栗子島	飯盛山	中島	長崎
納涼石	九玉神社	清水川	久志港	泊鼓橋	大立橋	高立橋	龜浦	鶴崎	鳥帽子礁
龜菅原神社	菅原神社	秋目港	丸木浦	島津忠國行館址	近衛屋敷	秋月	夫婦石	横礁	下濱

十二之卷

薩摩國

川邊郡

硫黃嶋

島之名義 嶋 形 土 俗 古來事蹟

熊野神社	德林神社	城ヶ原	井水	輕大臣說
藏王神社	俊寛投筆石	平家社	溫泉	
御祈神社	足摺石	御前山	硫黃島諸說	文觀法師配流
俊寛略傳	磯松崎	硫黃嶽		

黑嶋 舞躍 山 水 諸瀑布

土俗	船着場	城山	同郡
舞躍	黑尾神社	冠大神祠	管尾神社
山 水	冠大神祠	日暮	

竹島 土俗 竹嶋之門 船着場

嶋形	籠港	平家苗裔	同郡
土俗	橋	竹棧道	聖神社

七 嶋 一九 二天

吐火羅國

漢土人七嶋說

平家苗裔

落際

土產

山口之嶋

八幡神社

八幡神社

山中之嶋

磯

地主神社

平有盛墓

日向國油浦人侵掠

小臥蛇嶋

臥蛇嶋

八幡神社

山平嶋

磯

八幡神社

洲磯

惡石嶋

八幡神社

山實嶋

八幡神社

鎮守神社

平家堂

山イナカリスズシノ水諸幾利須人侵掠

岩窟

鎮守神社

平家堂

十三之卷

薩摩國

穎娃郡

穎娃郷

鏡池

無水池

二七二

枚聞神社

枚聞岳

川尻浦

網敷天神

脇浦

花礁

大野岳神社

諏方神社

潮鶴瀑布

穎娃城

獅子城

水鳴川

石籬浦

張昂寄寓

獅物

阿多郡

石籬浦

張昂寄寓

阿多郷

二七九

日吉神社

熊野神社

吹上

貝殼崎城

稻荷神社

棧敷本

半々月原

中岳山

万之瀬川

鶴之城

打立本

京塚

川添

高良八幡神社

諏方神社

物產

總目錄

二一

同郡

田布施郷

多布施神社 龜ヶ城 金峰山 金峰山神社
諏方神社 牟禮ヶ城 吹上濱 物産

同郡

伊作郷

大汝八幡神社附四所神社 武内神社 芦上神社
新八幡神社 若宮 伊作城 中原池
正圓池 伊作山 與倉泉 吹上
諏方神社 温泉 稻荷神社 田中城
西行坂 物産

十四之卷

薩摩國

喜入郡

喜入郷

宮坂神社 諏方上下神社 成木神社 瀬々串浦
黒地藏坂 喜入濱 喜入城 琵琶山城
八幡川 田貫川 米倉川 貝底川

同郡

知覽郷

中宮神社 古城址 諏方神社 知覽城
古城址 千人首塚 母ヶ岳 白岳
麓川 加治佐川 爲朝陣 鹽屋浦

同郡

揖宿郷

新宮神社 多羅神社 風穴祠 無足神社
間水神社 菅原神社 二月田温泉 湯良峰
魚見峰 知林島 田良浦 田良ヶ嶺
間水湯 宮ヶ濱堤 野首神 諏方神社
松尾城 柴立湯 摺之濱温泉 港之湯
大牟禮湯 三節湯 湊浦 彌次ヶ湯
豊大閣禁榜 旗

額娃郡

山川郷

三〇一

二四

熊野神社 新熊野神社 愛宕神社 竹之山神社
 山川港 股川洲 藥園 土矢倉城
 斐破坂 無瀬濱 琉球征代事略 若宮八幡神社
 諏方神社 霧島神社 白ヶ城 馬脊城
 鰻池 鰻温泉 兒ヶ水温泉 鎮守神社
 漁利祭 利右衛門墓 藤原惺窩事跡 物産

今和泉郷

同郡

三〇〇

中宮神社 麓城 稻荷神社 大和神社
 池田湖 鬼門岳 池月名馬 八幡神社
 清見城 谷山郡 悲眼寺址紅葉山 御鬘石
 伊佐智佐神社 御所ノ原 波平陣 椿山城
 本城 神前城

谷山郷

三〇四

波平劔匠 七ツ島 永田川 栢原川
 烏帽子岳神社 天御中主神社 塞神 和田川並木下川小瀑
 大瀑 三重野

十五之卷

大隅國

始羅郡

帖佐郷

三五

上別府川 住吉池 住吉神社 霧島神社
 納屋市 八幡神社 稻荷神社 菅原神社
 愛宕神社 瓶神社 三寶荒神社 膝跪駢馬家
 米山 平山城 義弘治所 古帖佐屋敷跡
 建昌城 萩峰城 平松神社 朝鮮王子事跡
 帖佐ノ船戰 新城 古城 茶臼城

同郡

重富郷

三六

白銀山 白銀坂 脇元濱 布引瀑布
 岩劔神社 諏方神社 稻牟禮神社 岩劔城
 平松城 狩集陣營 日當比良陣營 惣陣鹿倉山
 諏方ヶ城 上九玉神社 下九玉神社 渡瀬川
 高姫神社 船津川

蒲生郷

眞黒岳 前川 後川 中山瀑布
 廣瀑布 左熊瀑布 青野色瀑布 若宮八幡神社四所ノ宮
 楠田神社 蒲生城 荒平 尼ヶ城
 北村城 菱刈寨 切手園附遠江壘並射場 弟子九播磨墓

山田郷

鉢ノ峰 山田川 黒島神社 玉城山
 松坂城 野神牧址

十六之卷

大隅國

始羅郡

溝邊郷

高屋山上陵 高屋神社 熊野神社 一之宮神社
 蔵王神社 長社神社 熊野神社 福玉神社
 溝邊城 高松城 玉利城 曾我石
 物産

加治木郷

網掛川 網掛橋 黒川 加治木城
 向陣 島津義弘治所 擬寶珠橋 是枝某門
 曾木某門 黒川崎壘 土器園壘 葛原壘
 蔵王岳 梅ヶ谷 春日神社附日吉神社兩之宮
荒人神社若宮神社 江夏友賢墓
 春日川 高倉八幡神社 岩野原 龍門瀑布
 五老峰 上別府川 龍門司陶器 龍門瀑布
 拵廻砦 牧馬苑 錢屋町

十七之卷

大隅國

贈於郡

襲山郷

同所四十八池

高千穂宮

霧島峰

三六九

高千穂峰

野神社

天子神社

稻葉神社

松瀬神社

市岐神社

飯富神社

七社神社

御手洗川

兩度川

對瀑布

千里瀑布

止上神社

大隅神社

胸副坂

野神宅地

廣瀬布

山之湯

今霧島神社

野神宅地

牡鹿野瀑布

夕暮關

鶴个城

野神宅地

同郡

清水郷

金吾石

青葉竹

三七

篠風

清水城

智尾神社

青葉竹

十八之卷

大隅國

贈於郡

敷根郷

三五三

長野谷山

平尾山

桂姫城

高橋川

觸ヶ野

豎山神社

飯富神社

長尾城

若御子

北辰社

劔神社

菅原神社

藥師堂

藥師水附瀑布

物産

菅原神社

同郡

福山郷

馬立山

島津忠將墓

三六八

仁田尾城

天塚山

大川内山

湊川

竹原山

七桁山

石島神社

孝行石碑

宮浦神社

荒貫神社

石島神社

牧馬神祠

小椎八重山

小松神社

牧馬苑

牧馬神祠

良馬說

殺狼社

物産

牧馬神祠

總目錄

二九

同郡

財部郷

白鹿岳 花平宮 高旗ヶ野 黒棚壘

天子神社 日光神社 龍虎城 郷ヶ迫

古ノ井原 平田宗次墓 宮内式部左衛門墓 吉田清家墓

瓶臺岳 大河原山 澤田神社附澤田池 下財部川

正壽寺川 物産

同郡

恒吉郷

神之牟禮坂屋林 投谷八幡附並四宮 山大神社

日輪城 物産

同郡

市成郷

日吉神社 三宮神社 若宮神社 八重山

垂野城 雙子壘 太玉神社 若一王子神社

稻荷神社 益臺峯 物産

同郡

岩川郷 笠祇神社 手取城 新城

八幡神社 馬場墓 熊野神社 天照大神宮

景清墓 諏方神社 物産

照日神社

十九之卷

大隅國

贈於郡

國府郷 柏子橋 國分寺址 神造島

隼人城 大穴持神社大穴持火 富隈城 住吉神社 轄國宇豆峯神社

伊勢神社 久満崎神社 高塚山神社 四肢神社

桑原郡

國府郷 鹿兒島神社附四所宮 隼風宮 三之宮 雨ノ宮 石體石 奈毛木社

木房溫泉 早鈴神社 守公神社 物産

總目錄

同郡

踊郷

仲川 犬飼瀑布 大浪池 硫黄谷温泉

榮之尾温泉 明礬温泉 殿之湯附栗川温泉 太真温泉 鉢投温泉 手洗温泉

妙見神社 明礬山並地獄池 安樂温泉 鹽浸温泉

平落温泉 踊城 稻積里 物産

同郡

横川郷

金山 安良神社 横川城 物産

同郡

栗野郷

勝栗神社 松尾城 見送岡 栗野岳温泉

三日月池 熊之峯 物産

同郡

吉松郷

宮崎神社 神功皇后社 鶴岡八幡 龜岡神社

熊野神社 足利尊氏陣營 龜鶴城 物産

二十之卷

大隅國

菱刈郡

太良郷

菱刈野 諏方神社 太良城 須川原水天神社

羽作瀬 荒田營 惡瀬神社 曾木瀑布

強兵衛石 曾木城 天堂々尾 松尾城

菱刈郷

御靈神社 水天々城 諏方神社 馬越城

稻荷山 諏方神社 菅原神社 陣之尾

弓懸松 大隅郡

櫻島

櫻島岳附文明安永炎上 櫻島神社 五社神社 諸所燃崎

鳥嶋 沖小島 新島 古里温泉

總目錄

黑上溫泉
楊梅樹
古牧馬苑

長門城
古陣營
櫻島忠信落書

三四

瀨

二十一之卷

大隅國

大隅郡

牛根郷

魚鷹峯
小烏神社
平常營
浮田秀家宅地

居世神社
御所尾
早崎營
皇子墓
稻荷神社
茶園ヶ尾

○宍籠瀑布
入船城
笠佛首塚

四九

垂水郷

垂水岳
新田神社
鹿兒島神社
嚴島神社附羊牧菅原神社

本城川
垂水城
石神神社
小濱壘

海市
田子杜
諏方神社
崎山城

四七四

新城郷

河路川
小竈岳附妻岳

寺田川
松尾城

神貫神社

四七九

小根占郷

小根占川
建部神社
若宮神社
八幡神社
今岳神社
大川瀑布

諏方神社
鬼丸神社
國見城
鹿父神社
御靈神社
日枝神社

津柱神社
嚴島神社
野間瀨山
立石神社
赤瀨瀑布
橋山

四八一

二十二之卷

大隅國

大根占郷

剝石崎
諏方上下神社

神之川
淵上神社
高城

若宮神社
喜入圖書忠通墓

四九三

柴山神社 川上神社 旗山神社附神木 木場ノ上古戰場

田代郷.....四九七

荒西嶽 花瀬川 花瀬神社 小花瀬

鍋瀑布 麓 小川瀑布 鵜戸窟

鵜戸神社 近戸宮 北尾神社 勝尾城

原田城 佐多郷.....五〇一

北極出地度數 御崎神社附濱之宮火尾社 蒲葵島

隆臨石 高木城 上瀬並中瀬、下瀬 近津神社

御崎迅潮 十三所神社 稻尾嶽 園之城

大泊浦 影向石 島泊浦 下平川

藥園 城之平

二十三之卷

大隅國

肝屬郡

内之浦郷.....五二一

國見岳 高屋神社 天子山

高山郷.....五二六

四拾九所神社 新八幡神社 高山城 弓張城

洗井神社 串良郷.....五二九

高隈川 肝付川 一之宮神社 諏訪上神社

諏訪下神社 稻荷神社 萬八千神社 大塚神社

笠野原 鹿屋郷.....五三三

笠野原 田貫神社 龜鶴城

始羅郷.....五三四

若宮八幡神社 吾平山上陵付目洗水 鵜殿神社 鵜殿瀑布

御手洗池 贊掛原 軍神社

大始良郷.....五三六

御在所山 岩戸神社 岩戸神社拜殿 八幡神社

大始良城 萩塚原

花岡郷……………三

當坐神社附露島松御手洗池 古江浦 ○白龍瀑布

國司山

高限郷……………三

高限岳 盆山 ○谷田瀑布 神貫神社

中津少童神社 石照神社 一ノ宮神社 諏方神社

池之八龍王社 松尾城

百引郷……………五

利神社 諏方神社 大王神社 石牟禮神社

加瀬田城附荒神祠

二十四之卷

大隅國

熊毛郡

種子島……………五

伊勢神社 浦田神社 莖永神社 住吉神社

眞所神社 島間神社 風木神社 熊野神社

鳥銃來由 馬毛島

馭謨郡

屋久島……………五

益救神社 八重嶽 尾野間溫泉 平内溫泉

面影水 花江川 天柱石 羽神瀑布

如竹傳

二十五之卷

日向國

諸縣郡

眞幸郷……………五

溫泉 菅原神社 菅原神社 眞幸正心

高牟禮神社

加久藤郷……………五

國見嶺 飯盛峰 二ノ宮神社 諏方神社

總目錄

三九

加久藤城 一本杉

飯野郷 白鳥神社 白鳥池 諏方神社 諏方神社 五五

川内川水源 香取神社 白鳥池 諏方神社 諏方神社 五五

飯野地 桶ヶ平 木崎原 諏方神社 諏方神社 五五

小林郷 夷守神社 景行天皇行宮址 十日市 五七三

夷守嶽 霧島岑神社 粥持田 三山城 五七三

石瀬川 霧島岑神社 粥持田 三山城 五七三

星合杉 伊東塚 陰陽石 太鼓橋 五七九

須木郷 一之宮神社 松尾城 觀音瀑布 五七九

南川並北川 一之宮神社 松尾城 觀音瀑布 五七九

二之宮神社 松尾城 觀音瀑布 五七九

二十六之卷

日向國

諸縣郡

高原郷 狹野神社 霧島神社附狗人社殿川 五六一

神武天皇皇居并御降誕之跡 朝倉野 稻荷神社 五六一

眞池井小池 松ヶ城 稻荷神社 五六一

東霧島神社 濱下り行列飾物 稻荷神社 五六一

野尻郷 新城井戸崎城 高妻神社 五五五

石瀬川 大王神社 新城井戸崎城 高妻神社 五五五

同郡 龍之城 五五七

綾川 八幡神社 龍之城 五五七

同郡 粟野神社 月知梅 五五八

高岡郷 和泉式部舊跡并琵琶 八代城 五五八

去川山 天ヶ城 内山城 八代城 五五八

稻荷神社 稻津掃部逆亂 和泉式部舊跡并琵琶 八代城 五五八

同郡 和泉式部舊跡并琵琶 八代城 五五八

同郡 和泉式部舊跡并琵琶 八代城 五五八

倉岡郷 和泉式部舊跡并琵琶 八代城 五五八

總目錄

四一

五九四

川口番所 白髮神社 池尻城 窟居

瓜生野 同郡

穆佐郷……………五九六

八幡神社 粟野神社 宇佐八幡宮 稻荷神社

穆佐郡 誕生杉

同郡

上三俣郷……………五九六

春日神社 日和城 諏方神社 三俣川

川添瀑布

同郡

下三俣郷……………六〇〇

轟橋 諏方神社 勝岡城

同郡

山之口郷……………六〇一

障泥岳 鬼山邊 天神河原 飛松

走湯神社 山之口城 諏方神社 三俣城

的野神社

二十七之卷

日向國

諸縣郡……………六〇五
志布志郷……………六〇五

蒲葵島 權現島 有明浦 志布志川

御在所嶽 山口神社 若宮神社 安樂壘

平洲附夏井 松尾城 内城 熊田原某兄弟形代

蓬原城 槻野村古戰場附千人冢

同郡

大崎郷……………六一

二石岡 菱田川 荒佐野 妻方神社

大崎城

同郡

松山郷……………六一

總目錄

四三

若宮神社 松尾城 軍神社

同郡

末吉郷

住吉社 榎原

榎神社附小戸池

上津片香男神社

上津瀬 橋

眞木男神社

中津瀬

中津眞津男神社

下津片香男神社

柄基

橋野 龜鶴城

二十八之卷

日向國

諸縣郡

都城郷

神柱神社

屋形石

八幡神社

島津莊 稻荷神社

祝吉並堀之内

溪蓀原

梅北城 高千穂宮蹟

須久束神社

兼喜神社

早水池 明人欽吉墓

八幡神社

同郡 莊内郷

關之尾瀑布

眞薩摩池

小永池

持丘神社 諏方神社

伊東塚

安永城

荒嶽神社 野々美谷城

薩摩池

遠見塚

山田城 霧島神社

伊東塚

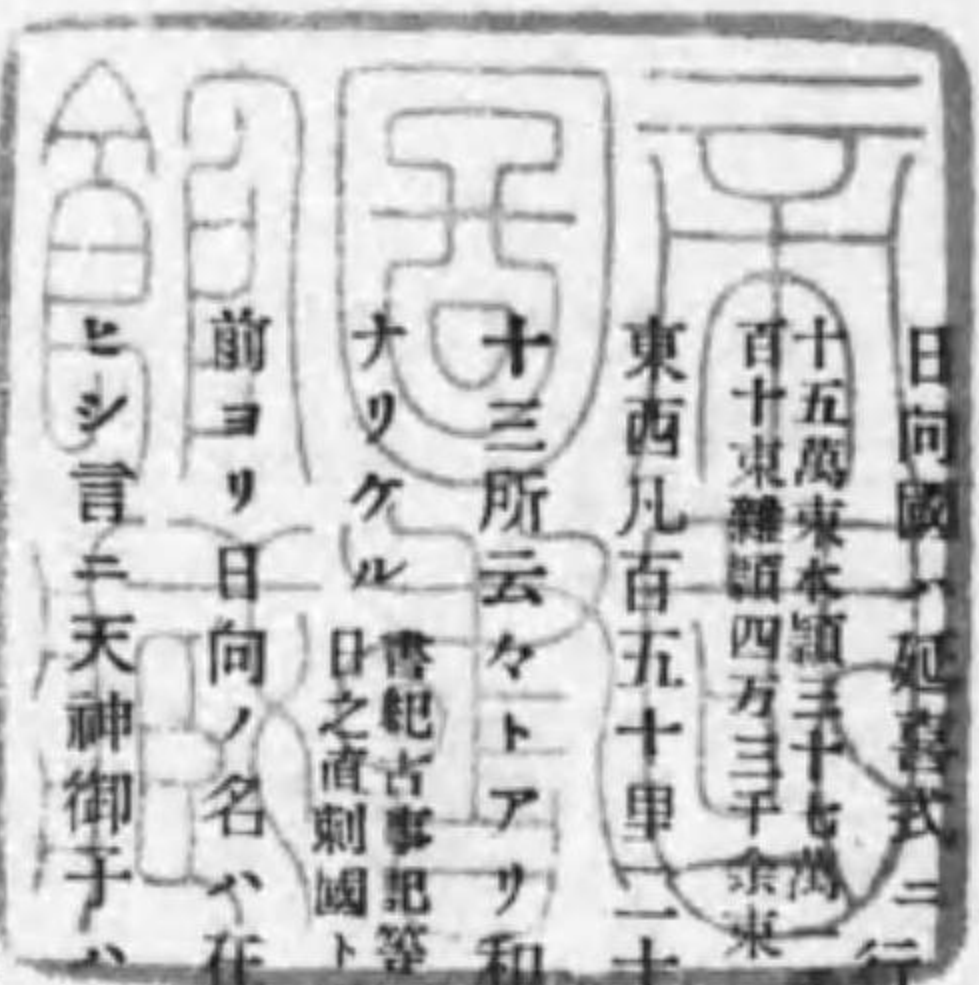
遠見塚

志和池城

薩隅日地理纂考總目錄 畢

薩隅日地理纂考一之卷三國總說

日向國



日向國一延喜式ニ行程上十三日下六日云々周匝二百八里三十六間云々和名鈔曰日向國管五田四千八百
 十五萬東本道三千七百餘里 日向風土記曰日向國首レ坎尾^ス離北隣^リ豊後^ニ南接^レ大隅^ニ西連^レ肥後^ニ東限^ニ大隅^ニ
 百十東雜頭四万三千餘里 東西凡百五十里二十五步南北九百七十八里五步鱗介正物不^レ解桑麻多而穀不^レ多郡五所郷六十一所莊
 十三所云々トアリ和名鈔ニ日向ハ比字加トアルハ晉便ニテ書紀推古天皇ノ卷ニ辟武伽トアルソ本義
 ナリケル 書紀古事記等ニ朝日之直刺國夕 書紀景行天皇十七年ノ紀ニ日向ト見ヘタルカ始ノ如クナレト其以
 前ヨリ日向ノ名ハ在リシナリ其ハ神代紀天孫降臨ノ條ニ猿田彦大神ノ天八衢ニシテ天鈿女命ニ答給
 ヒシ言ニ天神御子ハ當^レ到^ニ筑紫日向高千穂穗觸之峰トアルヲ思フヘシ後ヲ始ニ及ホシテ記セルハ
 常ノ事ナレト此ハ猿田彦大神ノ神言ナレハ地ノ文ト等シク是ヲ見ルヘカラス若例ノ後ヲ始ニ及シテ
 記シタル地文ナラムニハ必ス日向國云々ト國ノ字アルヘキヲ只日向トノミアルハ神言ノ儘ニ記セル
 ニテ文ノ正シキナリ神代ト云ヘハ誰モ今トハ太ク異ナリシカ如ク思ヒテカクイフヲ反リテ怪ム人モ
 アルヘケレハ然ラサル證ヲカツカツ舉テ云ヘシ其ハ先天孫降臨ヨリ以前ニ伊弉諾伊弉册神ヲ始饒速
 日命素盞鳴命天穗日命天稚彦及ヒ武甕槌命經津主命其外ノ神々天降坐テ天上地下ノ往來絶ル事ナク

ハタ葦原ノ中^{コトト}國ハ大國主神ノ領知食テ國々島々ノ成出シヨリ天孫降臨マテノ間ハ余多ノ年ヲ經テ天津神國津神ノ言問モ今ノ世ニヲサノ異ナル事ナカリケム其證ヲ舉テ云ハムニハ古事記ニ素盞島命ノ僕者欲レ罷^{イハシ}此國根之堅洲國云々次ニ八雲立出雲八重垣ノ神詠マテ神代紀ニ武甕槌命經津主命云々便問^{イハシ}大已貴神曰汝將^{イハシ}此國奉^{イハシ}天神一耶以不對曰吾兒事代主射鳥遊遊在^{イハシ}三津之崎今當問以報^{イハシ}之乃遣^{イハシ}使人一訪焉對曰天神所^{イハシ}求何不^{イハシ}奉獻故大已貴神以^{イハシ}其子辭^{イハシ}報^{イハシ}乎一神一^{イハシ}マ同書ニ大已貴神問曰云々對曰吾者汝之幸魂奇魂也云々幸魂奇魂今欲^{イハシ}何處住^{イハシ}耶對曰吾欲^{イハシ}住^{イハシ}於日本國之三諸山云々同書ニ大神遙望呼謂^{イハシ}大穴牟遲神曰其汝所持之生太刀生弓矢以而汝鹿兄弟者追^{イハシ}伏坂之御尾一亦追^{イハシ}撥河之瀬云々は等皆神言ニシテ地文ニ非ス此類ヒ舉ルニ違アラス此外八千矛神ノ沼川比賣ト贈答ノ歌ナトハ聊モ今ニ異ナルコトナキヲ思フヘシサレハ高千穂峰ハ筑紫島ノ成出シ始ヨリヤカテ豊久士泥別トモ高千穂櫻觸岳トモ稱ヘ朝日夕日ノ直刺峰ナレハ高千穂ハ云モ更ナリ其アタリヲモ日向ト稱ヘ國號モヤカテ此岳ヨリ出タル事論ナシ神代紀ニ故當^{イハシ}灘^{イハシ}去吾身之濁穢^{イハシ}則往^{イハシ}至^{イハシ}筑紫日向小戶橋之椽原^{イハシ}而祓除焉トアル日向モ後ヲ以テ始ヲ記セルニ非ササテ高山ハ多ナル中ニ猿田彦大神ノ此所ニ導キ奉ラレシハ日向ハ伊弉諾命ノ舊都又ハ天照大神ノ生坐シ本御國ニシテ旁深キ謂アレハナリケムサテ彼當^{イハシ}到^{イハシ}筑紫日向高千穂櫻觸峰トアル當^{イハシ}到^{イハシ}ノ二字ヲ古事記傳ニイタリマスヘシト訓ヲ到^{イハシ}リ給ヘト教フルニ非ス至^{イハシ}リマサム事ヲ知レルカ故ニ告ルナリト云ルハ然ラス天神御子ノ天降マスヘキ處ハ云々ト案内シ給フニテヤカテ其方ニ導キ奉ルナリ始ヨリ天降坐ヘキ處ノ定リタラムニハ天八衢ニ迎ヘ奉リテ天神御子ハ筑紫日向ノ云々ナト更ニ奏サムハ遅カラスヤ

成人云天孫降臨アラムニハ其到坐處ハ何レノ處ト初ヨリ定リ

タラム事論ナシサレハ固ヨリ高千穂峰ニ定レルニテ猿田彦神ハ御迎ヘニ出タルノミ也ト云ヘリサレトサレ事更ニ古書ニ見ヘス上ニイヘル如ク書紀ノ一書ニ天鈿女命復問曰汝ハ何レノ處ニ到ラン耶對曰天鈿神ノ御子ハ則當^{イハシ}到^{イハシ}筑紫日向高千穂櫻觸之峯云々トアルチ何レノ疑ハサテ日向ノ又ノ名ヲ豊久志比泥ト云ヘルハ神代紀ニ奇峯トアル^{イハシ}只正史ノ儘ニ心得テ更ニ校意ナ加フ可ラス

ト同シク豊モ久志比モ共ニ美稱ニテ泥ハ峰ナリサルハ高千穂峰ノ殊ニ勝レテ朝日夕日ノ直刺ヲ稱ヘタルナリサルヲ今本古事記ニ次生ニ筑紫島一亦身一ニメ而有^{イハシ}三面四トアルニヨリテ古事記傳ニ日向國ヲ削リタルヲ古史傳ニハ古本及ヒ延佳本等ニ依テ日向國ノアル方ヲ正シトセリ此ハ決テサルヘキ事ナク又古事記ニ熊曾國謂建日別トアルハ後ヲ以テ前ヲ記セルニテ熊曾ヲ云ヘルハ後ナリサルハ國人ノ勇猛強悍ナルカ故ニ熊ノ名ヲ負セツルニテ始ハ曾國ナリ

ヘシカクテ景行天皇十三年ノ紀ニ悉平ニ襲國云々其國有^{イハシ}佳人一曰^{イハシ}御刀媛一則召^{イハシ}爲^{イハシ}妃^{イハシ}生^{イハシ}豐國別皇子^{イハシ}是日向國始祖也云々

同十七年ノ紀ニ春三月幸^{イハシ}子湯縣^{イハシ}遊^{イハシ}于丹袋小野一時東^{イハシ}望^{イハシ}之^{イハシ}謂^{イハシ}左右一曰^{イハシ}是國也直^{イハシ}向^{イハシ}於日出方^{イハシ}故號^{イハシ}其國^{イハシ}曰^{イハシ}日向國也ト見ユ是ニ因レハ此時日向國號出タルカ如ク聞ユレト同二十五年熊曾マタ反シ仲哀神功等ノ御世ニモシノ^{イハシ}反シテ熊曾ノ號ナホ遺リタレハ景行ノ御世ニ號^{イハシ}其國^{イハシ}曰^{イハシ}日向^{イハシ}トアルハ彼子湯縣ノ方域ヲサシテ詔給ヘルニテ薩摩大隅ヲモカケテ國號ヲ日向ト定メラレシハ仲哀神功ノ御世ヨリ後ナルヘシ慥ニ何ノ時ヨリトハ知ルヘカラス

△因ニ云推古天皇紀摩蘇餓豫蘇餓能古羅波字摩奈羅摩辭武伽能古摩多智奈羅摩句禮能摩差比云々トアリ是ニ因レハ上古日向國ヨリ良馬ノ出テ世ニ名高カリシナリサルハ大隅薩摩ノ二國モ舊日向國ニテ今モ良馬ノ出ル事少カラスサレハ日向駒トアルヲ今ノ日向ナリトノミ思フヘカラス彼佐々木四郎

高綱カ宇治川ノ先陣ニ乘リシ池月トイヘル名馬モ薩摩國今和泉郷池田牧ノ産ナリシヨシ云ヒ傳ヘタ
リ此事今和泉ノ卷ニ云リ參考スヘシ

△又枕冊子曰御メノトノ大輔一條天皇ノ皇后定ノケフ日向へ下ルニ給ハスル扇トモノ中ニ片ツカタハ
日イト花ヤカニサシイテ、旅人ノアル所井手ノ中將ノ館ナトイフサマイトヲカシウカキテ今片ツカ
タニハ雨イミシウ降りタルニナカメタル人ナトカキタル「茜アキさす日にむかひてもをもひ出よみやこ
ははれぬなかめすらむ」ト手ツカラカ、セ玉ヒシアハレナリサル君ヲラキ奉リテコソ遠クハエイク
マシケレ此外日向國ノ守掾等ニ任セラレ或左降等ノ類ヒ國史ニ載タルカ多カレト煩シケレハ都ヲ略
シヌ薩摩大隅ノ二國モ然リ

△日向藥クヌリ註曰高千穂藥共云是ヨロヒ一分 三タカラ三分マツホト二分キハダ一分サネノミ二分五合レ之
也大伴宿禰守傳レ之奏焉 白正 石解 秩正 黄壁 味子
爲レ末納レ盡埋レ土半年出レ之以ニ薯預レ煉レ之傳板陰乾爲レ粉日々服レ之神也者以ニ勞咳ニ當レ知ト大同類聚
方ニ載タリ

日向國印 集古拾種



古者諸國皆
有印即朝
廷所賜官府
所以奉行也

熊會國

大隅國

△熊會國ハ古事記ニ熊會國謂ニ建日別タケヒワケトアルソ始ナリケル此後景行天皇紀ニ熊襲反不ニ朝貢云々悉
平ニ襲國ニ此外熊襲之八十梟帥トモアリテ上古日向國トイフモ更ナリ肥後國ノ南ノ半ヨリ薩摩大隅カ
ケテノ國號ナリサテ熊トハ其國人ノ勇猛强悍ナルヲ云ヒ襲ハ於會ノ約リニテ高千穂山ヨリ出タリ其
ハ彼山ノ山岳襲重セルハオノヅカラ勇猛威嚴ノ勢ヒアリテ打向フニモ恐ルベキ狀ナレバナリ古語拾
遺ニ天鈿女命古語天乃於須女其神强悍猛固故以爲名今俗強女謂之於須志此緣也トアルヲ古事記傳
ニ引テ會ハオソノ約マリナルヨシ云ヘルガ如シ同書ニ會ハ勇男ノ約リタルカ佐乎サハ約レハ會ニテ伊
ヲ略ハ常ナリ書紀ニ渠師ヲイサヲト訓メリ又功ヲモ伊會ト云フヲ思フヘシトイヘリサレト山ニ對シ
テイサヲトイハムハ其意似テ異ナレハ始ノ説ニ從フベシ白尾國柱曰襲ト云言ハ釋紀ニ山岳襲重之義也ト云ヘル如
千穂ヲ中央ニシテ嶮岨壁峙タレハ其ノ資質モオノツカラ勇猛强悍ナリシタラニ熊襲トモ梟帥トモ準人トモイヒテ其地勢ト俗習ト
ニ依リテ襲ノ名ハ出來シナルヘシト云ヘルハイカバナリ會ハ國俗ノ上チ云ハムハ未ニテ其本ノ山岳襲重ノサマヲチシト見
畏ムヨリ出タル事上文ニイヘル如シ地勢ト俗習トニ依テ云々トイヘルハ其本末違ヘリ 固ヨリ襲トハ猛キ意ナル上ニ更ニ熊襲トイヘルハ熊ハ獸ノ中ニテ
モ殊ニ猛キモノナレバ國人ノ勇猛强悍ナルヲ假令タルニテ熊襲熊鷹熊鷹ナトイヘルト其義同シク今
一層猛キヲ重ネトイヘルナリ衆類多クシテ是ヲ熊會八十梟帥ト號シ屢朝命ニ叛キ奉リシ事景行天皇
十二年同二十七年仲哀大皇二年文武天皇太實二年元正天皇養老四年等ノ紀ニ見ヘタルガ如シ事ハ其
各條ニ詳ナリ

△大隅國ハ續紀元明天皇和銅六年四月乙未制ニ日向國肝环增於大隅始良四郡ニ始置ニ大隅國ト見ヘタ

リ建喜式ニ行程上十二日下六日管所八郡三十五郷周匝一百十里十一町四十間四尺東日向西薩摩北
 界ニ肥後一南至海島一マタ和名鈔ニ大隅國管八田四千八百餘町トアリテ本ハ熊曾國ナリサテ國號ハ彼四郡ノ
 中ナル大隅ノ郡名ヲ取レルニテ此地日向國ノ西南ノ片隅ナレハナリ隅トハ稜アル物ヲ内ヨリ呼ノ稱
 ニテ大殿祭ノ祝辭ニ四方四角トアルモ内ヨリ四方ノ角ヲイヘルナリ古事記ニ素盞烏命ノ僕者欲レ罷ニ
 妣國根之堅洲國トアル堅洲國ト同義ニテ堅洲ハ片隅ナリ隅ヲ洲トノミイヘル例ハ書紀ニ天日隅宮
 トアルヲ出雲風土記ニ天日栖宮ト見ヘ姓氏錄ニ吾田片隅命トアルヲ舊事記ニ阿多賀田須命トアルヲ
 思フヘシサテ大隅國ハ始四郡ナリシヲ後ニ桑原菱刈馭謨熊毛ノ四郡加リ合テ八郡ナルヲ其中ニ古ノ
 始羅ハ今無クシテ大隅桑原郡ト薩摩國鹿兒島郡トノ間ニ始羅郡ノアルハ古ノ始羅郡ニテ字形ノ相似
 タルニ依テ訓ヲ誤レル事疑ナシサテ八郡ノ中ナル菱刈郡ハ續紀天平寶字七年五月丁酉大隅國菱刈村
 浮浪九百三十餘人言欲レ建ニ郡家一許レ之ト見ヘ馭謨熊毛ノ二郡ハ天長元年十月多嶺島ヲ停テ馭謨熊毛
 ノ二郡トシ大隅國ニ隸ラレシ事後紀ニ載タリサルヲ桑原郡ハ後紀延曆廿三年三月庚子太宰府言大隅
 國桑原郡蒲生驛與ニ薩摩國薩摩郡田尻驛一相去遙遠遞送艱苦伏望置ニ驛於薩摩郡櫟野村一以息ニ民苦一
 許レ之トアリテ此郡ヲ置レシ始ハ詳ナラス倍和名鈔ニ始羅郡ノ次ニ肝付郡ヲ載タレハ兩郡相接シタ
 ルガ如クナレド然ラス前ニ云ル如ク始羅郡ハ今ノ始羅郡ニテ肝付郡トノ間ニ桑原噲啖大隅ノ三郡隔
 リ其間廿里ニ近シサテ始羅郡ヲ今ノ始羅郡トイヘル證ハ和名鈔始羅郡ノ郷名ニ野裏串伎鹿屋岐刀ト
 アル野裏ハ今ノ内之浦郷ニテ頭ニ裏或ハ内等ノ字アリシカ脫タルヘシ串伎ハ串良ナリ伎ハ字書ニ伎
 ト同字ニテ良ノ音ニ取レル事神樂說樂ノ例ニ同シ鹿屋ハ今ノ鹿屋郷ナリ伎刀ハ詳ナラサレドモ其外

ノ三ヶ郷今實地ヲ踏ニ和名鈔ニ所謂始羅郡ニ非ス都テ肝付郡ナリ又肝付郡ノ郷名ニ桑原鷹屋川上雁
 麻トアル桑原ハ同國國府郷ニテ鷹屋モ同國始羅郡溝邊郷ナリ川上ハ詳ナラサレド同府郷ニ華人城ア
 リテ書紀ニ所謂川上臯帥カ居城ノ遺地アリ此臯帥カ居ヲ川上トイヘルモ地名ニ因レル事疑ナケレバ
 川上モ此アタリナルベシ雁麻ハ詳ナラスサレド其外ノ郷名ニテ肝付郡ナラサルヲ思フヘシ正本ニハ
 桑原云々ヲ始羅郡野裏云々ヲ肝付郡ニ載セタリシカ後世錯簡ケム又肝付郡鹿屋郷ノ北ニ接キテ始良
 大始良ノ兩郷アリテ始良郷ノ中ニ吾平山陵アレハ此地始羅郡ナルヘク思ハムモアルヘケレド然ラス
 此ハ和名鈔ニ大隅郡始羅トアリテ郷名ナルヲ思フヘシサレバ始羅郡ハ今ノ始羅郡ニテ後世ヲ始ニ訛
 レルコト上文ニイヘルカ如シ猶其證ヲイハ、續紀天平元年秋七月辛亥大隅華人始良郡少領從七位下
 勳七等加志君多利授ニ外從五位下ト見ユ此始良郡ハ今ノ始良郡ナル事疑ナシ彼大隅郡始羅ハ郷名ナレ
 ハ郡少領トアルニ符ハザルナリ又弘安十年七月ノ古記ニ大隅國國府郷守公神社番役ノ郷々ヲ一番ヨ
 リ十マ番テ記シタル中ニ三番始良得丸四番始良牧山五番始良末次トアリテ皆イハユル始良郡ナリ是
 ヲ以テ始良郡ハ始良郡ヲ誤レル證トスヘシサテ始羅郡ノ古ノ方域ハ今ノ始良郡ハ更ナリ東噲啖郡北
 菱刈郡西鹿兒島郡ニ接シ南ハ海ニ連リケムヲ噲啖始良ノ兩郡ノ間ニ桑原郡ヲ置レタレハ大キニ縮リ
 今ハ古ノ半ニ過スナリニケリソモソモ上古薩摩大隅日向ノ三國ハ云モ更ナリ肥後國ノ南ノ方半ヲ懸
 テ熊曾國トイヒシハ上ニ云ル如クニテ其後日向國ト國號改リ又其後日向ヲ割テ薩摩大隅ノ二國ヲ置
 レシヨリ熊曾ノ國號漸々ニ縮リ今僅ニ大隅國噲啖郡ノ郡名ニノミ遺リタリ倍熊曾カ後ニ華人ト云ヒ
 シハ即彼カ後裔ニテ薩摩大隅建國ノ後モ屢朝命ニ反キ奉リシナリ其ハ續記養老四年二月壬子太宰府

言華人反殺大隅守陽候史摩呂三月丙申以中納言正四位下大伴宿禰旅人為征華人持節大將軍一授刀助從五位下笠朝臣御室民部少輔從五位下巨勢朝臣真人為副將軍云々六月戊戌詔曰蠻夷為害自古有之云々今西隅等賊怡亂逆化屢害良民因遣持節將軍正四位下中納言兼中務卿大伴宿禰旅人一誅其罪盡被集居一治兵率衆剪掃兇徒會帥面縛請命下吏寇黨叩頭爭靡敦風然將軍暴原野久延旬月一時屬威熱豈無艱苦使慰問宜令忠勤云々同年八月壬辰征華人未平宜留而已見薩摩華人ノ反セシハ彼國ノ卷ニイフヘシサテ大隅國ノ官府ノ跡ヲ按スルニ國府郷上小川村ニ國分寺ノ跡アリ又和名鈔ニ大隅國桑原久波々トモアレト今其跡分明ナラス一説ニ同郷府中村ニ守公神社アリ或ハ守君ニ作ル往古國府郷ノ宗社ニテ此地官府ノ跡ナル由イヘリ此神社往古大社ナリシヨシ云ヒ傳ヘ府中ノ名モ由アリテ聞ユレハ此說然ルヘクヤト思ハルレトイマタ其確證ヲ得ス

吾田國

華人國

薩摩國

太古薩摩國ノ方域ヲ吾田國ト云ヒ中古ヨリ華人國トモ云ヘリ神代紀曰瓊々杵尊到於吾田長屋笠狹之碕矣云々時吾田國主事勝國勝長狹神奏曰此長狹任處也云々一書ノ趣モ大意同シ古事記曰邇々藝命於笠沙御前云々遇麗美人爾問誰女對曰大山津見神女名神阿多都比賣又神代紀一書ニ木花開耶姬亦名豐吾田津姬神武天皇紀曰天皇年十五立為皇太子長而娶吾田邑吾平津媛為妃又古事記ニ天皇坐日向一時娶阿多之小埼君妹名阿比良比賣為妃トアル阿多ニテ長狹神ノ私田ノ意ナリサレハ吾田ト書キタルガ其ノ本義ニテ阿多ハ借字ナリ安閑天皇紀ニ置阿娜國膽殖屯倉膽年部屯倉トモ見ヘタリサテ神代紀ニ吾田長屋笠狹之碕トアル吾田ノ名今阿多郡ニ遺リ笠狹笠狹ハ今ノ加世田ニテ長屋モ同所

ナレハ太古吾田國トイヒシハ今ノ阿多加世田ノアタリナリケムヲ後々ハ其名汎リテ薩摩國今ノ方域マテニ及ヒ國人ヲ華人トイヒ大寶ノ比ニ至リテハヤガテ唱更國トモイヒシナリ其ハ唱更ノ住ル國ナルカ故ニテ別ニ一國アリシニアラス阿多國ヲカクモ云ヒシナリ此事次ナル華人國ノ條ニ委シクイフヘシカクテ薩摩建國ノ後阿多華人等ノ國號漸々縮リ今僅ニ阿多ノ一郷ニノミ遺レル事會國ノ名ノ贈啖郡ニ存レルト同シキナリ

△華人國ハ神代紀曰上略兄火闌降命既ニ被ニ危困ニ乃自伏罪曰從今以後吾將為汝俳優之民云々其火闌降命即吾田君小橋等之本祖也一書曰吾已過矣從今以往吾子孫八十連屬恒當為汝俳優一書是以火酢芹命苗裔諸華人等至今不離天皇宮牆傍代吠狗而奉事者也又一書自今以後為汝命之晝夜守護人而仕奉云々又阿多御手養火闌降命六世孫薩摩若相樂後也ト見ヘ姓氏錄阿多華人富乃須佐利乃命之後也同書大角華人出自火闌降命之後也トアルカ如ク華人ハ阿多大隅共ニ火闌降命之裔ニテ後ニハ阿多國ヲ華人國ト云ヒ始メ熊曾ト號セシハ是ナリ其ハ續紀文武天皇大寶二年冬十月乙未朔丁酉云々唱更國司等言於國內要害之地一建柵置戍守之許焉拾茶抄ニ薩摩國元唱更トモアリ白尾國柱曰華人ヲ唱更ト書ルハ職員令華人司義解ニ華人本居ニ大隅薩摩等國ニ而番ニ直朝廷ニ一番上下一年ヲ為限トアリ故ニ取リシナランサテ華人ノ名義ハ古事記傳曰華人ト云ハ今ノ大隅薩摩一國ノ人ニテ其國人絶レテ敏捷ク猛勇キカ故ニ此名アルナリ古言ニ猛勇ヲ波夜志トモ登志トモ云ヘレハ波夜ト云ニ猛勇キ意モアルナリ景行仲哀ノ御世ノ頃熊曾ト云ヒシ者モ是ニテ即其國ヲ熊曾國ト云ヒキト云ヘルカ如シカクテ華人ノ世々宮牆ノ守護人トナレル根元ハ右ニ舉タル如クニテ華人入朝ノ事歷代ノ史ニ余多載ラレタル其一ニライハ

天武天皇紀十一年秋七月壬辰朔甲午倭人多來貢方物是日大隅倭人與阿多倭人一相撲於朝廷大隅倭人勝之マタ朱鳥元年九月天皇崩于正宮云々次大隅阿多倭人云々各朱之持統天皇紀元年云々於此是倭人大隅阿多魁帥各領已衆互進誅焉云々七月賞賜倭人大隅阿多魁帥等三百三十七人有差云々又大隅ノ建國ハ和銅六年ナレニ此時大隅倭人ヨリ以前古事記履中天皇ノ卷ニ略欺下所近習墨江中王ノ倭人名會婆加理上云若汝從吾言者吾爲天皇汝作大臣治天下云々於是會婆訶理竊伺已王入厠以矛刺而殺云々マタ清寧天皇紀ニ元年十月云々葬大泊瀬天皇丹比高鷲原陵于時倭人晝夜哀三號陵側與食不喫七日而死有司造墓陵北以禮葬之ト見ユ此二人ノ倭人其心ノ異ナル事信ニイハユル人面ノ如シト云ヘシ又續紀和銅三年正月庚申日向倭人會君細磨教諭荒俗馴服聖化詔授ニ外從五位下一トモ見ヘタリ是等ヲ見レハ倭人ニモ荒振輩ノミハ非スシテイト忠節ナリシモアリシナリ又同紀神護景雲三年十一月庚寅授外正五位下飯俣人麻比正六位上一トアルハ甌島郡甌島ノ倭人ナリ此外入朝等ノ事舉ルニ違アラスカクテ養老元年ノ紀ニ始テ大隅薩摩倭人ト見ヘタルハ薩摩國建置アリシニ因テナリ此事次ナル薩摩サテ倭人ノ職掌ハ延喜倭人司式曰元日即位及蕃客入朝等儀官人二人史生二人率大衣二人番上倭人廿人今來倭人廿人白丁倭人一百三十二人分陣應天門外之左右蕃客入朝不陣者其官人著當色橫刀大衣及番上倭人著當色橫刀白赤木綿耳形鬘自余倭人皆著大橫布衫臨軒者緋帛肩布橫刀白赤木綿耳形鬘番上倭人已執楯槍一並坐胡床マタ凡踐祚大賞曰分陣應天門兩面欄緋帛肩布橫刀白赤木綿耳形鬘番上倭人已執楯槍一並坐胡床マタ凡踐祚大賞曰分陣應天門內左右其郡官初入發吠愈紀人官人並彈琴吹笛擊百子一拍手歌舞人等門參入御在所屏外北向立奏風俗歌舞主基人亦准此凡遠從駕行者官人二人史生二人率大衣二人番上倭人及今來倭人十人供奉番上已上並帶橫刀騎馬但大衣已下著木綿鬘其駕經國界及山川道路之曲今來倭人爲吠吠凡行幸經宿者倭人發吠吠但近幸不吠吠マタ今來倭人令大衣習吠吠左發三本聲一右發三本聲一總大聲十遍小聲一遍訖一人更發細聲二遍マタ凡威儀所須橫刀一百九十口楯一百八十枚別長五尺廣一尺八寸厚一寸頭木鎗一百八十竿長一丈胡床一百八十脚云々トアリテ天朝ノ大禮或ハ行幸ノ在ル毎ニ倭人ノ職掌大略件ノ如シカクテ其倭人ノ京ニ留マリシ子孫ヲモ後々マテモ大隅ナルハ大隅倭人薩摩ナルハ薩摩倭人ト號シテ世々其職ニ仕ヘ奉リシナリ其ハ續後紀ニ承昭三年山城國人右大隅阿多倭人逆足賜姓阿多忌寸トアル類ナリ倭人ノ子孫ノ京畿ニ多カルハ倭人司式ニ凡大儀者預前申官喚集諸國倭人一令供其事云々又凡番上倭人廿人有關者取五畿內及近江丹波紀伊等國倭人幹了者申省補之云々トアルヲ思フヘシ和名鈔ニ山城國級喜郡大住郷アリ是等大隅國ノ倭人ノ留リ住シヨリノ名ナリ古事記傳曰倭人ハ大隅薩摩國人ナル事云々朝廷ニ召シテ仕ヘ奉レカ永ク留リテ京近キ國ノ人式ニ凡大衣者擲諸第內一置左右各一人大隅ヲ爲左阿多ヲ爲右教道ノ倭人ニ云々ト見ユ大隅阿多トハ其國ノ人々云々ニハ非ス先祖ノ出タル地ヲ以テ近キ國ナルトモ大隅倭人阿多ノ倭人ト別チ云ナリ或人大衣ヲモ大隅阿多トハ一國ノ倭人ノ如ク云ヘルハ式ヲモ考ヘサル妾觀ナリ續紀ニ山城國人右大衣阿多倭人逆足ト云人見ヘタリ又番上倭人ト云ハ本國ヨリカハル上リ仕奉ル者ナリ職令義解ニ分番上下一年ヲ爲限トアル是ナリ續紀廿五ニ大隅薩摩倭人替ル云々ト見ユ倭人式ニ凡番上ノ倭人二十人有關者取五畿內及近江丹波紀伊等國ノ倭人幹了者申省補之トアリ類集國史ニ延曆廿年停三太宰府進三倭人一トアルハ番上ノ倭人ノ事ニハ非シ又今來ノ倭人ト云ハ番上ニハアラテ本國ヨリ新ニ上リテ永ク留リテ京畿ニ住居スル者ナリ此ハ妻子ヲモ率井テ上ル故ニ女モアリ式ニ見ユ凡今來倭人給三時服及鹽云々又今來倭人身亡者擇三取畿內倭人一充之二十人爲限云々ト式ニ見ヘタルハ此モ昔ニハ人數定リ有リテ召上セラレシ見ヘタリ諸ノ儀ニ吠吠聲ヲ發ルハ今來ノ倭人ノ職ナリ類集國史ニ大同三年勅ス定額ノ倭人若シ有レ關者宜下以京畿倭人ヲ體關使補上之云々其女者不レ在ニ補限トアルハ番上ノ事アレハ番上ニハ非シ今來ノ倭人ナルヘシ又續紀廿八ニ倭人司ノ倭人百十六人不レ論三有位無位賜一級一トアルハ番上今來ノ外ニ別ニ司倭人ト云アルニヤ職令倭人司直丁一人ノ次ニ倭人トアリ是ナルベシ員ハ見ヘス式ニ白丁倭人一百三十一人トアルハ凡大儀者預前申官昭三集諸國ノ倭人一令供其事トアルヲ以テ見レハ司倭人トハ別ナルニヤコレヲ詳ニハ知リカサテ感儀ニ集人ノ執楯楯ニ鈎ノ形ヲ畫トアル此モ失セタル鈎ヲ畫リシ故事ヲ後ノ世マテ示サメタルヘシ云々トイヘリ

聲トハ式ニ大聲十遍小聲一遍訖テ一人更發ニ細聲ニ二遍トアリテ神代紀ニ代ニ吠狗トアレハ彼カ聲ニ通ヘルニテ万葉集ニ隼人ノ名ニ負夜聲イチシロクトアルハ大聲ヲヨメリシナルヘシ續紀光仁天皇實龜二年三月戊辰停隼人帶劔トアレト隼人式ニ帶劔ノ事見ヘタレハ此後又改リシナリ又隼人正アリテ續紀文武天皇大實二年十月丁酉唱更國司云々△光仁天皇實龜五年三月乙未以ニ外從五位下上總宿禰建麻呂爲隼人正△四月庚午外從五位下大隅忌寸三行爲隼人正△桓武天皇延曆三年四月從五位下大原真人起智麻呂爲隼人正ナト見ヘタリ

△薩摩國ハ延喜式曰行程上十一日下六日云々所算十三郡三十八鄉周匝百三十里二十六町十六間三尺東界ニ大隅ニ北界ニ肥後ニ西南至ニ海島ト見ヘ和名鈔曰薩摩國管十三云々職原鈔ニ日向大隅薩摩等國管ニ于中土ニナト見ヘタリサテ薩摩モ日向國ノ内ニテ太古吾田國中隼人國ト云リシハ前ニイヘルカ如シカクテ薩摩ノ建國ヲ按スルニ續紀文武天皇大實二年四月壬子ノ詔ニ筑紫七國ト見ヘタレハ此時イマタ建國ナカリシナリカクテ同紀ニ同年八月丙申薩摩多嶺隔化逆命於レ是發レ兵征討遂校レ戶置レ史焉ト見ヘ次ニ同月戊寅討ニ薩摩隼人一軍士授レ勳各有レ差マタ同年十月丁酉先レ是征ニ薩摩隼人ニ時禱ニ祈太宰府所部神九所一實賴ニ神威ニ遂平ニ荒賊ニ云々唱更國司等ノ國ナリ言於ニ國內要害之地ニ建ニ柵置レ戎守レ之許焉マタ同紀元明天皇和銅二年六月癸丑勅自ニ太宰率ニ己下至ニ千品官ニ事力半減唯薩摩多嶺兩國司云々マタ同三年正月戊寅薩摩國貢ニ舍人ト見ユ是ヨリ先阿多隼人ト記シタルヲ大實二年八月以來薩摩隼人トアリテ阿多ノ號無キヲ思ヘハ彼大實二年八月校レ戶置レ史トアルソヤカテ薩摩ノ建國ナルヘキ諸國ノ建國ハ彼割ニ日向國ニ云々置ニ大隅國トアルカ如ク記サレタルヲ其例ニ違ヒ記シサマ慥

ナラサルト校レ戶置レ史トアル同年同月ニ阿多ヲ改メ始テ薩摩隼人ト記サレ又和銅二年同三年ノ紀ニ薩摩多嶺兩國司云々薩摩國貢ニ舍人トアリテ猶次々ニ薩摩トノミ記シテ阿多ノ號ナキヲ證トスヘシ又續紀元明天皇和銅二年十月戊申薩摩隼人郡司以下一百八十八人入朝徵ニ諸國ノ騎兵五百人ニ以備ニ威儀一也ト見ユ此郡司トアルニタイヨク建國ノ事知ラレ又威儀ヲ示サレシモ建國ノ始ナルカ故ナリクムサテ大實二年八月薩摩多嶺隔化逆命云々トアルハイマタ建國ノ前ナレハ此所ニ薩摩トハ云マシキナレト此ハ後ヲ始ニ及ホシテ記サレシナリ彼建國以前ニ大隅隼人トアルニ同シ猶按スルニ續紀聖武天皇天平十七年五月己未筑前筑後豐前豐後日向七國無レ姓人等賜ニ所レ願姓ト見ユ此時既ニ大隅國摩建國ノ後ナルヲ二國ヲ畧カレシハイブカシ天平實字五年七月ノ紀ニモ仰ニ筑前筑後肥前肥後豐前豐後日向等國ニ造ニ備甲刀弓箭トアルヲ思ヘハ大隅薩摩ハ日向ニ込テ略記セルガヤガテ同年十一月丁酉ノ紀ニハ筑前筑後肥後豐前豐後大隅薩摩等八國云々トアリテ肥前國ノ見ヘサルハ故アリテ漏タルニヤ是等イカニトモ知カタシ此類ヒ前ニモ見ヘタリサテ薩摩ノ號ハ孝德天皇紀ニ薩麻之曲竹島之門ト見ヘタルカ始ニテ續紀文武天皇四年六月庚辰ノ條ニ薩末比賣久賣マタ万葉集ニ隼人乃薩摩乃迫門ナト、古クヨリ見ヘタルヲ思ヘハ太古今ノ薩摩國ノ方域ノ惣名ナリケムサルヲ國號ヲ阿多國隼人國ナト、云ヘルニ隨ヒ固ヨリノ名ハ失セテ僅ニ諸所ニ遺リシヲ建國ニ就テ舊名ヲ國號ニ取ラレケムサテ薩摩トハ幸島ノ約言ニテ神代紀ニ所謂海幸山幸ヨリ出タレハ太古ヨリノ名ナル事論ナシ白尾國柱曰薩摩ハ幸島也取ニ諸天孫紀所レ謂山幸海幸之義ニ萬葉集有ニ薩男薩人薩弓薩矢等稱ニ皆就ニ兵成獵ニ而言此乃出一自ニ山幸海幸一之證矣冠辭考曰薩雄佐豆人ナトモ左知男左知人ト云ヘキヲ知ト豆ト普通ヘハ後

今按スル三代實錄曰貞觀八年五月常陸ノ國從五位上勳七等
 薩者島之略 薩末等一往昔ハ日
 左通男左都人トイフ 薩都神ト見ヘタリ是薩字サチノ音ニ通フ例ヲ見ルニ足レリ
 向ヨリ薩摩カクテノ地ヲ島門ト云ヒシハ幸島之門ヲ省ケルカト思ハル島トハ此方ニテハ周圍ニ界限
 ノ在テ一區ナル域ヲイフ名ナリ本ハ必ス海ノミナラス國中ニテ山川ナトノ環レル地ニモイヘリト國
 號考ニ見ヘタリサテ續紀薩妙觀トモアレハ當初マテハ單稱シテ薩トノミ呼ヒシ事ナホ薩人薩矢ノ如
 クニテ摩ヲ省クノ例ナリシヲ觀ルヘキナリト云ヘルカ如シカクテ按スルニ島トハ郷ニマレ山ニマレ
 一方域取締レル地ヲイフ名ニシ縮ノリヲ略ケルナリ縮ヲ島トノミイヘル例ハ武烈天皇紀ニ天皇太子
 ニテ坐々ケル時節ノ臣ト贈答ノ御歌ニ於彌能始能耶賦能之魔柯枳始能餘彌那爲我與釐據魔耶黎夢
 之魔柯枳一書ニ以耶賦能之魔トアル之魔柯枳ハ縮垣ノ略言ナルヲ思フヘシ又近世マテ薩摩ヲサクシマト
 云ヒシハ東鑑建保五年八月ノ條ニ薩洲住人阿多平四郎忠景云々トアリサテ冠考辭ニ隼人ハ火酢芹命
 ノ裔ニテ其本海ノ幸人ナレハ薩人ノ幸トツケタルニヤ薩摩ヲフ名モ彼海ノ幸アル隼人ノ住故ニ幸
 島ト云ヲ畧キテイフナラムトヲホユ云々トイヘリ按スルニ隼人ノ薩摩ト續ケシハ彼カ住ム國ナルカ
 故ニテ深キ意アルニ非ス又隼人ハ火酢芹命ノ後ニコソアレ海幸ニハ更ニ由ナキナリ又神代紀一書ニ
 兄火酢芹命ハ得ニ海幸ニ故號ニ海幸彦弟彦火々出見尊能得ニ山幸ニ故號ニ山幸彦トアルヲ海幸ノ一ト方
 ニノミ就テ幸島ト云フベクモアラサレハ此ハ海山ノ幸ヲ兼タルヘシ島トハ前ニ云ルカ如シ古事記傳曰筑紫
 ニテモ大隅薩摩ヲ奧ノ國トイヘル事槍垣カ集ニ見ユ奧ハ口ニ對云稱ニテ道口道後ニ同ニ同シ京ヨリ
 行ニ初ノ地ヲ道口ト云ヒ終ヲ奧トモ云ヘリトアリ應神天皇紀ニ日向國諸縣君ノ女髮長媛入朝セシ時
 大雀皇子ノ御歌ニ彌能之利古破俵塙等綿云々ト誦坐シテ書粕通證曰道後也對ニ道口ニ而言蓋指ニ日

此道ノ後ヲ荒木田久老カ書紀哥ノ解
 向諸縣郡也トアルハサル事ナリ 此道ノ後ヲ荒木田久老カ書紀哥ノ解
 郷方言高城ヲニアリテ今其跡ヲ屋形ケ原ト云フ街道ヨリ高一丈余方五六町平地ニテ今陸田ナリ屋形
 ケ原ヨリ東北十丁許同郡水引郷ニ國分寺ノ址モアリテ柱口猶存レリ

薩摩國印



天平八年正稅帳

此ハ東大寺正倉古文書ノ中ヨリ往年穗井田忠友寫シ得テ埋藏發香ニ載ル所ナリ

薩摩國

東大隅國始良郡北同國菱刈郡ニ接シ西肥後國水俣ニ界ヒ南ハ海ニ對ス周廻百三十里二十六町十六間
 三尺延喜式ニ載スル處ト同シ郡モ十三郡ニテ和名鈔ト其數異ナラスト雖トモ古ヘノ伊作ノ郡名ハ今郷
 名ニ遺リテ別ニ伊佐郡アリサルハ字形相似タレハ作ヲ佐ニ誤レルニカト思ヘト伊佐郡ハ古ノ伊佐郡
 ノ地ヨリハ北ニ距ル事二十余里ニテ肥後國ノ界ナレハ其地異ニシテ文字ノ誤トモ云ヒ難シ此事伊作
 郷ノ卷ニ猶イフヘシサテ薩摩ハ舊吾田國或ハ隼人國ト云ヒシヲ大寶二年建國アリテ國號ヲ薩摩ト改

メラレシナリ此國ノ事ノ諸書ニ見ヘタルヲ畧記ス姓氏錄曰阿多御手養火闌降命六世薩摩若相良後也
 △同書曰額田部湯坐連云云允恭天皇御世被遣薩摩國一平一復奏之日獻御馬一疋額有町形廻
 毛一天皇喜之賜額田部也△書紀天武天皇十一年秋七月隼人多來貢三方物一是日大隅隼人與阿多隼
 人一相撲於朝廷一犬隅隼人勝之△朱鳥元年九月天皇崩于正宮一諸國司事次大隅阿多隼人云々各誅
 之△持統天皇紀元年五月云々於是隼人大隅阿多魁帥各領一己衆一互進誅焉是等ノ阿多ハ皆今ノ
 薩摩國ナリ 書紀天智天皇十年十一月對馬國司言月生二日沙門道久筑紫君薩野島韓島勝婆々布帥首磐四人從唐國一來曰唐國使
 人云々惣合二千人船四十七隻云々アル薩野島ノ野ハ誤字ニテ薩國人ノ唐國使セカ歸リ來リシナルヘシ筑紫君ト
 アルハ其所ノ
 首領ナリケム

△續紀文武天皇大寶二年八月丙申薩摩多嶺隔化逆命云々同月戊寅討薩摩隼人一軍十授勳有差マ
 タ同年十月丁酉先是征薩摩隼人一時禱祈太宰府所部神九處云々唱更國司等言云々△元明天皇和
 銅二年癸巳勅自太宰率一已下至品官一事力半減唯薩摩多隅兩國司及僧等不レ在減例一△同三年正月
 戊寅薩摩國貢一舍人一△元正天皇靈龜二年五月辛卯太宰府言云々薩摩大隅二國貢進人已經一八歲一道路
 遙隔去來不レ便或父母老疽或妻子單貧請限一六年一相替並許之△元正天皇養老六年夏四月丙戌征討
 陸奥蝦夷大隅薩摩隼人等一將軍已下及有功蝦夷並譯語人授勳位一各有差始制太宰管内大隅薩摩云々
 等司有闕選一府官人一擁一補之一△聖武天皇天于二年三月辛卯太宰府言大隅薩摩兩國百姓建國以來未
 曾班田一其所レ有田悉是墾田相承爲一佃不願一改動一若從一班授一恐多一誼訴一於是隨一舊不レ動各令一自
 佃一焉△天平四年五月乙丑薩摩國司停止季祿一衣服之少並依一請給之△天平實字八年正月己未從五
 位下大伴宿禰家持爲一薩摩守一△天平神護元年二月丙寅太宰少貳從五位下紀朝臣廣純遷一薩摩守一△神

護景雲三年十一月庚寅天皇臨軒大隅薩摩隼人奏一俗伎一外從五位下薩摩公鷹白加志公島麻呂並授一外
 從五位上正六位上甄隼人麻比古外正六位上薩摩公久奈都曾公足麻呂大住直倭正六位上大住忌寸三行
 並外從五位下一自余隼人賜レ物有差△後紀光仁天皇實龜七年薩摩公豐繼一授一外從五位下一△嵯峨天皇
 弘仁元年九月從五位上藤原朝臣安繼爲一薩摩權守一△續後紀承和九年七月主膳正從六位下丹墀真人綱
 足爲一薩摩權守一是等ノ類ヒ猶前後ニ多カレト省キヌ

鹿兒島名義

鹿兒島ノ名ハ續日本紀曰天平實字八年十二月西方有聲似雷非雷時大隅薩摩兩國之界烟營云云天
 晴於一鹿兒島信爾村ノ海沙石自聚化成三島トアルソ始ナリケル 同紀曰天平神護二年六月己丑大隅國神造新島震
 動不レ息云々同九年其名曰三穴持一ト見ヘタモ
 同島 次ニ三代實錄曰貞觀二年春三月廿日庚午從五位下薩摩國鹿兒島神授一從五位上延喜式神名帳大
 隅國桑原郡鹿兒島神社同書民政部式薩摩國管鹿兒島和名鈔鹿兒島 加古 建久八年薩摩國圖出帳ニ鹿兒
 島郡三百二十二町云々ト見ユ此外ニモ猶アルヘシ此神造島ハ大隅國噲啖郡國府郷小村ノ沖海上半里
 余ニアリ此所ヨリ薩摩大隅陸地ノ堺ハ四里許西ニ放リタレト南ハ海ニテ兩國相對シタレハ堺トハ記
 サレケム 信爾村今
 詳ナラス 又鹿兒島神社モ小村ヨリ西一里許ナリ 此神社ノホトリニ鹿
 兒山トイフ山アリ 此社號及ヒ兩國之堺鹿兒
 島トアルニ因レハ上古此アタリマテモ鹿兒島トイヒシナリ此地今鹿兒島ノ縣廳ヨリ海陸共ニ八里ナ
 リサテ其名義ハ神代紀ニ所謂無目籠ノ小船ヨリ出タル由傳稱セリ其ハ神代紀曰 上 兄火闌降命自有ニ

海幸一故號ニ海幸彦一張彦火々出見尊自有ニ山幸一故號ニ山幸彦一兄弟二人相語曰試欲レ易レ幸遂相ニ易之ニ各不レ得ニ其利一兄悔レ之乃還ニ弟弓箭一而乞ニ己釣鈎一弟時既失ニ兄鈎一畧中時鹽土老翁自至曰天孫勿復憂矣吾當下爲レ君圖上レ之乃作ニ無目籠小船一内ニ彦火々出見尊於籠中一沉ニ之于海云々一書曰所謂堅間是今ノ竹籠也トアリ無目籠トハ嚴密ナルヲイヘルニテ一書ニ大目鹿籠トアル反ナリ萬葉集ニ籠母與眞籠持云々和名鈔ニ茶菁云々漢語抄云賀太ナトアルハ無目堅間ト同義ニテ所謂竹籠ナルヘシ又方言ニ茶菁ノ類ヲ加吳ト云リサレハ今ノ世ニ用フル駕籠ト云乗物ハ無目籠ノ遺製ニテ加吳トハ即籠ノ約言カト思ヘトイカニ轉シテモ籠ヲ加吳トハ謂ハレサレハ此駕籠ハ昇籠ノ約リニテ本義コナルヘシ和名鈔ニ籠ハ茶菁トハ別ニテ籠和名俗用ニ旅籠二字ニ波太古トアレハコトカタマトハ別ナルヲ思フヘシ方言ニ茶菁ノ類ヲメト云リ按スル是ニ因テ尙按スルニ神代紀ニ天鹿兒弓天眞鹿兒矢アリ此ハ鹿兒ヲ射ム料ノ弓箭ナルカ故ニ然云ルニテ即兄悔之乃還ニ弟弓箭トアルハ彦火々出見尊ノ山幸ニ用ヒ給フ鹿兒弓鹿兒矢ナリ按スルニ今ノ鹿兒島郡ヨリ大隅カケテ尊ノ大御獵場ニテ鹿子ノ多カリシ故ニ地名ニハ呼ツラム鹿ヲカコトイヘル例ハ萬葉集及ヒ祝詞等ニ鹿兒自物云々ト見ヘマタ應神天皇紀ニ日向諸縣君牛仕ニ朝廷ニ年既考壽之不レ能レ仕仍致レ仕退ニ於本土一則貢ニ上己女髮長媛一始至ニ播摩國ニ時天皇幸ニ淡路島一而遊獵於是天皇西ニ望之ニ數十鹿鹿浮レ海來云々則遣レ使令レ察使者至見皆人ナリ唯以ニ著レ角鹿皮一爲ニ衣朝一耳云々是以時人號ニ其着岸之處ニ曰ニ鹿子之水門一也延喜式和名鈔播摩國古賀郡アリ萬葉集ニモ稻日野毛去過勝爾思有者心戀數可古能ト見ヘ今モ幸男ノ言ニ猪鹿ノ大小ニ依ラス猪子鹿子ト云リ又古事記傳曰鹿兒矢トハ鹿兒ヲ島所見ト見ヘ今モ幸男ノ言ニ猪鹿ノ大小ニ依ラス猪子鹿子ト云リ又古事記傳曰鹿兒矢トハ鹿兒ヲ射ル由ニテ云々鹿兒トハ只鹿ノ事ニシテ其子ヲ云ニハ非スタ、鹿ヲモ鹿兒ト云フハ馬ヲモ常ニ駒ト

云ヒ猪ヲ韋能古トイフト同例ナリ云々書紀應神御卷ニ數十鹿鹿浮海之來云々コレハ鹿鹿ノ事ニヨリテ其處ヲ鹿子水門ト號トアレハタ、鹿ヲモ鹿兒ト云證ナリ古ヘ獵ニ小獸及鳥ナトヲ射ニ小キ弓矢ヲ用ヒ猪鹿ナト大ナル獸ニハ弓モ大ニシテ強キヲ用ヒ矢モ長キヲ用ヒケム故鹿兒弓鹿兒矢ト云ハ大ナル弓矢ノ稱ナリトアリ或人此說ヲ難シテ山ニハ種々ノ獸多カラムヲ鹿ニノミ依リテ鹿兒島ト云ムハイカ、ナリト云リ此ハ今ノ世ノ心以テ古ヘヲ推量レルニテ上古ハサル理屈ニ拘ハラサリシナリ和名鈔ニ牡鹿日レ鹿云々其子曰レ鹿和名トアレト上古サル細ナル事ナシ況ヤ神代ニ於テオヤ又往古猪ハイト稀ニシテ鹿ノミ多カリシ由狩人云傳ヘタリ骨ヲ燒又ハ諸ノ祝詞等ノ結句ニ鹿自物云々何ソニ就キテ鹿ノ事ノ多キハ上古獸ノ中ニモ量多カリシ證ナリケリ後世ノ事ナカラ薩摩國出水郡長島ノ鹿島ニ尖島トイヘルハ昔ハ鹿ノミニテ實悅ニハ唯鹿皮ノミヲ以テセシヨリ名ヲ得タリトイフカタノ中古マテモ今ニ比レハ鹿ノ多カリシ事察セラルサレハ彦火々出見尊ノ專ト獵シ給ヘルハ鹿ノ第一ノ物ナリケラシ其ハ彼鹿兒弓鹿兒矢ニモ察ラレタリサレハサル事物ノ由縁ヨリ鹿兒島ノ名ハ實ヒケラシ又大隅國種子島ノ鹿島ニ馬毛島ト云アリ山林ニテ人家ナク鹿ノミ群集セリ此ハ天長元年種子島ヲ停テ大隅國ニ隸ラレシ時ノ奏上ニ實物鹿皮百領有損無益後紀ニ見サテ島トハ海中ナルニ限ラス周圍ニ界限アリテ一區ナル域ヲイヘルハタル今モ鹿ノ多キ事古ニ異ナラス

ニテ縮ノ義ナリソヲ畧テ島トノミイヘル例ハ書紀武烈天皇ノ大御歌ニ於彌能姑能耶賦能之魔柯枳始陀騰余彌那爲我與釐據魔耶黎夢之魔柯枳一本以耶賦能之魔柯枳トアルヲ證トスヘシ島ノ事ハ國號考ニ委シク云リ原書ニ就テ見ルヘシ

サレハ即今鹿兒ノ字ヲ用ヘルハシラスシラス其意義ニ的當セルナリ

薩隅日地理纂考二之卷

薩摩國

鹿兒島郡

鹿兒島ハ東始羅郡近世始良郡ト書ルハ誤レリ南大隅郡西谿山郡北日置郡ニ接ス東西七里南北凡六里餘ナリ郷一ヶ所村落合テ二十ヶ村ナリ

同郡

鹿兒島

薩摩國日置郡比志島村ヒシマ小山田村コヤマダ及ヒ谷山郡宇宿村ウスクノ三村ヲ鹿兒島十七村ニ併セ都合二十ヶ村ヲ鹿兒島ノ近在ト號ス假令ハ京師ニ五畿アルカ如シ諸郷ハ假令ハ五畿ニ七道アルカ如シ二十ヶ村ハ比志島村、元村、吉野村、川上村、岡之原村、大迫村、小野村、上伊敷村、下伊敷村、永吉村、西田村、武村、田上村、西別府村、中村、荒田村、鹽屋村ナリ高二萬四千六百五十四石九斗一升九合八勺士族人員二萬六千九百九十二人男一万三千五百五十二人 女一万三千四百四十二人卒二千五百七十一人男千二百六十四人 女千三百三十三人平民五萬五千八百七十二人男二万八千七百七十五人 女二万七千九百九十七人惣合人員八萬五千四百三十五人惣戸數一萬八千二百七十戸

鹿兒島

坂元村

○鶴丸城 即縣廳ナリ惣廻凡一里ニテ往古上山城ト號シ觀應ノ頃上山某居城ナリ鶴丸トハ舞鶴ノ形
 狀ニ似タレハナリ櫻島郷上山某家藏正平七年閏二月十日ノ文券ニ筑前博多篠川ノ後家尼此地ヲ上山ノ右衛門五郎ハ讓ルト見
 條谷峯城ノ卷ニ詳ナリ又島津氏久ノ時薩摩國家久交名帳ニ上山領主ト見ヘ應永三十五 慶長年中島津家十八代島津家久
 年二月十八日島津元久建忠寺定書ニ西者自ニ上古城岸ニ云々トアル上山モ皆此地ナリ 慶長年中島津家十八代島津家久
 當城ヲ築キラ内城ヨリ移ル内城ハ當城ノ北十餘町ナリ 其年月詳ナラス或曰慶長十一年六月六日又舊記云天
 正十九年辛卯鹿兒島上山山城取鐵取初又曰慶長七年八月五日少將樣家久ナリ 鹿兒島御出馬御上洛也
 或曰慶長十七年九月十七日御樓門柱立ナトアリ慶長七年云々御上洛トアルニ據レハ此時既ク當城ニ
 徙レルニカト思ハルレド内城モ同シク鹿兒島ナレハ何處ヨリトモ決難此ノ如クニテ其年月ノ詳ナラ
 サルハ元祿九年丙子四月二十七日鹿兒島上町ヨリ火起リテ城ニ移リ城郭灰燼トナリ記錄スヘテ燒亡
 セシカ故ナリケリ 初メ當城ヲ築シ時飯化ノ明人林甫明ト云者鹿兒島ニ在リテ此城近年ノ内ニ火災アラムトイヘリトソサレト
 客タリシ島津義久鹿兒島ニ招キ祿ヲ與ヘ書ヲ講セシメ義久内城ニ在リシ時城内紅梅ノ 初メ島津豊後守忠久薩摩大隅日
 盛リニ甫明ニ命シテ詩ヲ作ラシム即チ百首ヲ賦ス是ニ因テ義久百梅ノ名ヲ甫明ニ與フ 初メ島津豊後守忠久薩摩大隅日
 向三ヶ國ノ地頭職ニ補任セラレ文治二年八月二日一説建久七 鎌倉ヨリ薩摩國出水郡山門院木牟禮城ニ
 下リ其後嫡男忠時ヲ遺シテ日向國島津莊ニ徙ル五代島津貞久ニ至リ山門院ヨリ鹿兒島東福寺城ニ徙
 リ六代氏久尙當城ニ在リ 此間ニ氏久父子大隅始良日向志布志ニ在 七代元久鹿兒島清水城ヲ築テ是ニ徙リ元久
 ヨリ島津貴久マテ九代ノ居城ナリ 元久久豊忠國立久忠 貴久ニ至リ内城ニ移リ島津義久島津家久マテ三代
 内城ニ在リテ家久始テ當城ニ徙ルカクテ古來屋形ト號ス 按スルニ屋形ハ東鑑建久四年三月十五日ノ條ニ近日依
 三日ノ條ニ那須野御狩ニ事終之間藍澤之屋形可レ運ニ遷駿河國ニ云々又嘉祿二年六月廿六日ノ條ニ明日可有御方三遠ヘテ大膳大夫
 師貞屋形一歟、事及ニ御沙汰ニ云々太平記首卷ニ元弘三年云々十二月廿八日宮御下向關東左馬頭入道以下御供ナリ山城美作入道屋形
 ナ御所トナサル云々又高田與清カ松屋豐話ニ曰元弘建武ノ亂ニ濃州ニ行幸アリケル時土岐ノ實林寺トイフ人小島トイヘル處ニ行宮
 ナ建テ仕ヘ奉リシニ世治リ入洛ノ後ニ是ヲ屋形ト號シ住居ニセヨト勅リアリケレハ皇居ノマ、丸柱ニテ土岐郡ニ引移シテ屋形ト號シ

ケルヨリ途ニ余ノ諸侯ニモ斯ハ呼ケルトソ云々又一説ニ屋形ノ號ハ斤堀アリ是ヲ屋形搦トイフ又其二樓ナ上ヶ狭間ナ切レハ
 城トイフ古莊園トトノ主トシテ多ク家ハ有テ勢強大ナル者ノ屋敷搦ヲハ其部下ノ人々城トハ呼難ク是ヲ屋形ト稱シケル云々一書
 ニ上杉輝虎毛利輝元屋形號御免許清華ニ準セラル、ト見ヘ幕府義尹ノ時永正五年對島島王宗義盛ニ屋形號ヲ授クトアレハ諸侯中ノ
 尊稱ナリケリ西遊記後編ニ云ク薩州ハ昔ヨリ武勇ノ國ト名高カリシカ今ニ至リ鹿兒島ヲ初メ只屋形造リニシテ御所ニ似タリトイヘリ
 當城ノ地タルヤ三ヶ國ノ中心ニシテ後ハ連山ノ險ヲ屏障トシ左右ハ長河山野ヲ襟帶シ前ハ裏海ニ臨
 ミテ天然ノ濠池ヲ構ヘタリ東遊雜記ニ曰諸州ヲ廻リテ要害ノ地ハ心ヲ配リテ見ルニ薩州鹿兒島肥後
 求麻郡人吉奥州津輕ナリ日本三ヶ所ノ要害ニシテカヲ以テ征シ難キノ地ナリトイヘリ
 ○諏訪神社 城北 奉祀二坐 建御名方命、南方刀美命
 當社ハ文治二年丙午正月八日島津忠久信濃國鹽田莊地頭職ニ補セラレ同年又薩摩大隅日向ノ惣地頭
 職ニ補セララルカクテ文治五年己酉陸奥守藤原泰衡ヲ征ス忠久時ニ歲十一副將ニテ前軍ニ都督タリ此
 時信濃國諏訪神社ニ祈リ大キニ勝利ヲ得其軍功ニ依リ承久三年辛巳五月八日マタ同國大田莊地頭職
 ニ補セラレ五代島津貞久ニ至リ傳領シテマス、神恩ヲ仰キ信濃國諏訪神靈ヲ薩摩國出水郡山門院
 ニ迎祭ス其後曆應四年辛巳四月貞久宮方肝付兼重中村秀純カ鹿兒島東福寺城ヲ拔キ康永二年壬午十
 一月矢上高純カ同所催馬樂城ヲ陥レ嫡男島津氏久ヲ山門院木牟禮ノ城ヨリ東福寺城ニ移シ鹿兒島ヲ
 長ノ治所ト定メ山門院ヨリ諏訪神社ヲ今ノ地ニ遷テ宗社ト仰キ神領若干ヲ寄進ス正平十一年丙申十
 二月十八日氏久田地寄進狀マタ同十三年四月廿八日鹿兒島郡伊敷村國引田壹町寄附ノ書今ナホ存レ
 リ正祭七月廿八日ニテ此外臨時祭多シ
 ○八坂神社 城東北 奉祀二坐 素盞鳴命、稻田姬命 相殿 田心姬命、市杵島姬命、天忍穗耳命、天穗日命
 諏訪神社ヨリ南五町許ニ在リ創建ノ年月詳ナラス此アタリノ地名ヲ十柱ト云ヘルハ祭神十柱ナルカ

故ナリトイフ俗ニ社號ヲ十柱トモイヘリ又鹿兒島ノ市坊ニモ八坂神社アリ往古ヨリノ例ニテ毎年六月十五日神輿當社ニ臨幸アリテ神官路スカラ神樂ヲ奏シ市坊ノ男女老若前後ヲ圍ミテ供奉ス市民弓矢鉞太刀或ハ大キナル傘ナトヲ携テ是ニ從フ又女子ヲ余多車ニ乗セテ歌舞ヲナサシム俗ニ是ヲ囃山トイフ或ハ牛ニ牽セ或ハ壯年ノ男子トモ是ヲ曳ク社頭ニ至リ祭祀ノ式終リテ飯ルニモ行裝始ノ如シ見物ノ貴賤夥シ

○鹿石 八坂神社ノ北十間許ニ在リ大サ屋ノ如クシテ彼ガ安居セルニ似タリ銘アリ左ノ如シ慶府祇園洲口有石其形頗類鵞之安止號稱爲石肩高一丈五尺八寸頭垂向西背去地六尺六寸尾附於地盤踞占地周六丈二尺亦城下ノ一奇觀也而在於斯蓋幾千萬年矣府學教授山本正誼始爲之銘

于時文化改元歲也銘曰 奇哉此石初隕自天削成何巧形狀類鵞大如淫預出在江邊迎來送往幾世幾年文化甲子銘辭雕鐫不磨不滅終古是傳

○稻荷神社 城北二十余町 奉祀 倉稻魂命

當社ハ島津忠久故アリテ攝津國住吉ノ社邊ニ於テ誕生ス此時住吉ノ支社稻荷神靈奇瑞アリテ暗夜ヲ照シ母子恙ナキヲ得タリ是ニ因リテ忠久薩摩大隅日向ノ地頭職ニ補セラレ薩摩國出水郡木牟禮城ニ下リ則稻荷社ヲ建立シテ國家ノ鎮守トス其後忠久日向國島津莊ニ徙リ此所ニ又稻荷社ヲ建立ス 諸縣郡津稻荷ト稱ス 又薩摩國市來院ニモ建立アリシヲ 市來郷湯田村稻荷社是ナリ 九代島津忠國又鹿兒島ニ新建ス其時ハ今ノ社頭ヨリ南五六町山上ニテ今其跡ヲ稻荷ケ尾ト云ヘリ火災ニ罹リテ今ノ地ニ遷坐アリシトイフ抑當社ハ元祖忠久此神恩ヲ蒙リ深キ由緒アル神社ナレハ世々崇敬愈々ナラサルハ更ニモイハス十七代島

津義弘朝鮮ノ役ニ僅ノ人數ニテ新塞ノ孤城ニ在リケルヲ慶長三年戊戌十月朔日明軍二十萬騎新塞ヲ圍ム城兵死ヲ決テ防ク此時稻荷ノ神靈奇瑞アリテ明軍ノ火藥ニ火移ル義弘其子家久ト共ニ此變ニ乘リテ出擊シ明ノ大軍ヲ破ル北ルヲ逐フ事六里首ヲ獲ル事三萬八千七百十七級其外水ニ溺レ谷ニ陥リ死スルモノニ至リテハ數フルヘカラス 此事委シクハ栗野郷ノ卷ニイヘリ カ、ル奇瑞ニ因テ國中ノ崇敬今ニ至リ古ニ異ナラス

○春日神社 城北十町余 奉祀 建甕槌命、經津主命、天兒屋根命、姫太神 例祭十一月二十八日

創建ノ年月カツ由來詳ナラス

○若宮神社 城北十町余 奉祀 應神天皇、神功皇后、仁德天皇 例祭九月九日

一説島津貞久建立ナリト云ヒ一説ニハ日向國高岡郷善哉坊ノ住職面高宥泉坊英俊ト云ル山伏永祿四年島津貴久代^{十五}ノ命ヲ受ケ京ニ上リ鎌倉鶴ヶ岡八幡ノ神像ヲ摹造刻マセ同六年神社ヲ清水ニ建立スト云ヒ傳ヘテ其地方トモ詳ナラストイヘリ按スルニ清水ハ即今ノ社地ナルヘシ其ハ當社ノ前ヲ北ニ行事二丁許ニシテ清水アリ世ニ仁王堂ノ水ト稱シテ鹿兒島第一ノ名水ナリ 舊此所ニ仁王堂ノアサテ其所ノ通路ヲ清水馬場ト呼ビ又清泉ヨリ北ノ方四五丁許ニ古城ノ跡アリテ清水城トイヘリサレハ往古清水トイヘル地ハイト汎ク係リテ當社ハ清泉ヨリ僅ニ二丁許ナレハ永祿年中建立アリシハ即當社ニテ此所マテモ當時清水ト云ヒシナルヘシ以上諏訪神社ヨリ當社マテヲ鹿兒島ノ五社ト稱ス

○多賀山 東福寺城ノ南ニ連レル山ニテ精木川麓ヲ圍レリ山上ニ多賀神社アルニ因リテ名ニ呼ヘリヤカテ八坂神社ノ上ナル山ニテ南ハ鹿兒島ノ城下隱レタル隈ナク西ハ烟靄斷續ノ中ニ連峯出沒シ東

ハ碧海ヲ望ミ北ハ綠樹覆ヒテ四方趣ヲ異ニス鹿兒島ノ形勢ヲ双眸ニ收ムルハ此地ヲ以テ第一トス
 ○多賀神社 奉祀、伊弉諾命祭日四月 中吉日
 多賀ノ山上ニアリ當社ハ島津貴久山伏鷲頭不動院ニ命シテ近江國犬上郡多賀ノ神靈ヲ迎ヘ日之少宮ニ擬ヒ天正七年己卯二月六日此所ニ神社ヲ建立ス今ニ至リ鷲頭カ子孫祭祀ヲ司トレリ書紀曰伊弉諾尊功既ニ至矣德亦大矣於是登天報命仍留宅於日之少宮矣マタ古事記ニ伊邪那岐大神者坐淡海之多賀也ト見ヘタリ

○精木川 水源同郡吉田郷宮之浦村ヨリ發シ數村ヲ經テ坂元村稻荷神社ノ前ニ出ツ故ニ稻荷川トモイフ幅十間許深三四尺ナリ是ヨリ西ニ流レ又南ニ折レ又東ニ折レ多賀山ノ麓ヲ回リテ八坂神社ノ前ナル鶴江崎ノ海ニ入ル

○夏箕瀑布 高六間幅幅モ又六五間ナリ稻荷神社ヨリ北ノ方十餘町ニテ即精木川ノ上流ナリ

○小城神社城北二 十餘丁 明應六年十月廿七日島津忠昌島津家 十一代祖父島津忠國九代ノ神靈ヲ崇メ祭ル小城ハ地名ナリ忠昌別當安養院ニ社事ヲ掌ラシムル書ニ藤原忠昌新造一字之社壇以眞勝院殿大岳譽公居士奉崇小城殿之神云々安養院連續之院主可被執務者也トアリ例祭正月廿日ナリ

○東福寺城 大隅肝付ノ領主肝付兼俊カ後胤肝付八郎兼重及ヒ一族中村彈正秀純等南朝ニ屬シテ當城ニ據ル曆應四年四月廿六日島津貞久是ヲ拔ク城兵尾頸ノ小城ヲ保ツ尾頸小城ハ今 小城神社ノ地同廿八日又是ヲ拔キ島津氏久貞久 嫡男東福寺城ニ入ル兼重秀純等又谷峰城ニ據ル谷峰城後 後出ツ後遂ニ肝屬ニ退ク

○清水城 舊記ニ鹿兒島本城或ハ清水城ト記シタリ氏久東福寺城狹隘ナルヲ以テ其外廓ヲ廣メムト

思ヘト大隅日向ノ亂止ス屢兵ヲ出シ後遂ニ大隅始良城ニ移リ又日向志布志城ニ徙ルカクテ兩國ノ亂鎮リ其子元久ヲ志布志ニ殘シテ鹿兒島ニ歸リ嘉慶元年閏五月四日卒ス元久志布志ヨリ歸リ父ノ志ヲ繼キテ當城ヲ築キ元久ヨリ島津貴久マテ九代ノ居城ナリ元久卒シテ嗣子ナシ島津ノ一族伊集院頼久密ニ嫡男初犬千代ヲ立ム事ヲ謀ル元久弟島津久豊此時日向國穆佐ノ城主タリ日夜馳駈リテ兄ノ後ヲ嗣ク頼久是ヲ憤ル應永二十年癸己十二月久豊大隅國菱刈ニ發向ス頼久此處ヲ窺ヒ同月七日ノ夜軍ヲ發シ當城ヲ燒拂ヒ退キテ鹿兒島原良村ニ陣ス久豊此變ヲ聞キ則軍ヲ飯ヘシテ頼久ガ原良ノ陣ヲ攻ム頼久遁ル、ニ路ナク進退極リ自害セムトス久豊家老吉田若狹蒲生美濃守其死ヲ愍ミ類ニ一命ヲ乞フ久豊遂ニ其死ヲ縱ス

○都曇答臘 清水城ヨリ西北四五町或ハ十町許マテノ間ノ地名ナリ一名ヲ鼓川トドロカガハマトドロカガハ小路トモイフ又此地ヨリ西半里許ノ所ヲ催馬樂トイフ古老相傳ヘテ上古樂人ノ居住セシ地ナリトイフ白尾國柱曰白孔六帖曰都答臘本外夷樂都曇似腰鼓而小答臘即蜡鼓也又唐書禮樂志有都曇鼓云々然レハ是ヲタハンタ、ウトイフ地名ニハ充ヘカラサレトモ此ヲ假字ニ取ラムニ撻鞞鞞鞞ナト書ト皆同シ意ニ落メレハ彼モ是モ害ナシ本定レル文字ナキカ故ナリサテ此都曇答臘トイフハ皆鼓ノ事ニテ書紀通證ニ鼓トハ都曇也ト解リサテハタンタ、ウトモツ、ミ川トモトハロ小路トモイフハ並ニ同義ニテソアリケル神代紀ニ鼓ノ字ヲトハロト訓皇代紀ニハ迹驚ト見ヘ万葉集ニハ動字響字ヲモト、ロト訓ヲ轟字ト義通ヘリ和訓栞曰姓氏ニ百々二字ヲト、ト訓リ十々ノ義也字彙ニ十々ヲ 爲レ百ト見ユ或ハタウノトモイヘリ鼓ノ聲ノ琴ヨリ出タルナリト云々又古ハ今ノ鞞ヲ踏カ如クニシテ樂ノ節奏ヲナセリ踏登杼呂許志ト古事

記ニアレハ轟トイヘルモ樂鼓ノ名ナルニ似タリ是等ニ就テ按ルニタンタ、ウノ西ノ方ヲ催馬樂トイフ傳稱スムカシ催馬樂ヲ歌フ者ノ居シ地ナレハ名トス然レハ催馬樂ヨリタンタ、ウノ地マテハ本薩摩人等カ占據セシ所ニテ國風ノ音曲人ノ住居セシ遺址ナルカ故ニ何トナク其名ノ地名ニ殘リシトオモハル云々此ニ鼓ノ事ハ見ヘサレトモ職人盡歌合ニクセ舞男舞トイフハ鼓ヲ持テル舞ヲ圖セリ歌ニ忘れ行人も昔の男舞苦しかりける戀のせめ哉是古隼人ノ名殘ナリトイヘリサレハ舞ニ鼓ヲ用ヒシモ故アル事ニテ後ノ妓女ナトニ流レテモ鼓ヲ持物トセシヲ以テカタク思ヒ出スヘシサテ大隅薩摩ノ隼人ヲノツカラ一種ノ伎曲アリテ見聞スルニ足レルノ音樂ナレハ大禮ニモ奏達セルニテ唐代是等ノ事ニ因テ都曇答臘ハ外夷樂ト記セルナラシ催馬樂ナトハ是ニヨリ後ノ事ナカラ今ノ其名ヲ其地ノ俗呼ニ存セルモ隼人伎曲ノ余風トソ思ハル云々トイヘリ

○蛇穴 即都曇答臘ニ在リ白尾國柱日昆陽漫錄曰徐光啓西洋曆云夫密室測量益因陽精炫耀非人目可當初虧時率多未見或用水盤映照則免于閃爍又若動搖故善巧者設爲此法用素板作圍界畫分抄以承日光則虧初終今數多寡灼然不爽所取于密室者窺光自闕培從分明即智井茂林日中見星之儀僧寮中或ハ爲幽房通障以受塔影亦此理也ト我國ニテモ智井ノ中ヨリ日中星ノ見ユル事アリ薩摩國鹿兒島城ヨリ半程里ナルタンタ、ウト云所三町余山へ上レハ平ニシテ岩屋アリ蛇穴ト云穴ノ口廣四間程奥へ五間許往テ岩屋ヨリ上ノ山へマハリ二抱ホト長二丈餘ノ穴アリテ其穴ヨリ日中ニ星ヲ見ルトイフハ徐光啓ノ説信スヘクシテ豊ノ卦ノ日中見星僻説ノ言ニアラサルニヤ或云鼈琴々ト書ト云々今按スルニ昆陽漫錄ハ青木敦書著ス所ナリ此人嘗テ商賈ヲ爲シテ本藩ニ寓居ス後巡見使ヲ奉シテ

再ビ藩ニ至ル蛇穴ヲ看シハ初度伴來リシ時ナルヘシ云々以上ノ兩説白尾國柱カ著セル鹿藩名勝考ニ出タル趣ヲサナカラ舉ツルナリ然ルハ國柱ハ此都曇答臘ニ住居シ蛇穴モ近キ所ニテ委シク考ヘ正シシ趣ナレハナリサテ國柱ハ記錄奉行ニテ通稱ヲ齊藏ト云ヒ號ヲ鼓川トイヘリ

○日吉神社 奉祀 大國主命

創建ノ年月詳ナラス或曰島津忠久下向ノ時近江國日吉ノ神靈ヲ迎祭シ彼地名ニ習ヒ村ヲ坂元ト名附クトイヘリ當村ノ生土神ニテ例祭十一月初申日ナリ

○催馬樂城 日吉神社ヨリ西十町許ナリ一名ヲ矢上城トイフ鹿兒島郡司矢上左衛門五郎高純當城ニ據テ國命ニ應セス屢諸將ニ命シテ是ヲ攻ム城堅クシテ落ス曆應四年閏四月朔日島津貞久親將トシテ城ヲ攻ム朔日ヨリ同十六日ニ至リ高純降服スサレトモ殘黨降ラス康永二年九月十二日又當城ヲ攻ム十一月七日ニ至リ城遂ニ陥ル

○内城 島津貴久天文年五逆臣島津八郎左衛門實久カ黨ヲ盡ク退治シテ同十九年庚戌十二月十九日清水城ヨリ當城ニ移リ島津義久島津家久マテ三代ノ治所ナリ家久ニ至リ慶長年中鶴丸城ニ徙ルカクテ城跡ニ一寺ヲ建立シテ大龍寺ト號シ文之ヲ住持トス大龍ノ二字ハ貴久法號ヲ大中ト稱シ義久ヲ龍伯ト號セシ故ニ一字宛ヲ取レルナリ寺ハ廢シ其跡今學校ト成レリ

○簀懸樟 内城ノ跡ニアリ往古傘多カラス雨天ノ時出仕ノ人々簀笠ヲ脱テ此枝ニ懸ケル故ニ簀懸ノ名アリ今其樟圍六丈餘ナリ

○釋文之傳 文之名ハ玄昌文之ハ其字ナリ號ハ南浦又軒ヲ雲興ト云ヒ齋ヲ時習ト稱ス又懶雲狂雲等

ノ號アリ父ハ河内國人ニテ姓名傳ハラス亂ヲ避テ日向國福島ニ抵リ里人ノ女ヲ娶リ弘治元年文之ヲ生ス因
 テ南浦ト號ス幼ニシテ群童ニ異ナリ父出家ニ志シアルヲ察リ六歳ニシテ福島延命寺天澤ニ囑シ父河
 内ニ回ル天澤法華ヲ授ク眼ニ觸レハ誦ヲ爲シ且其意ニ通ス皆人文殊童ト稱ス十三ニシテ歲旦ノ詩ヲ
 裁ス天澤以爲ク實ニ是神童ナリ吾力ノ及フ所ニアラストテ同國龍源寺一翁ニ託ス一翁ハ桂庵カ天弟月渚弟子ナリ是ニ
 於テ薙髮シテ玄昌ト號ス前ニ賦スル所ノ詩詞林ニ唱ヘ人口ニ膾炙シテ遂ニ京師ニ聞ヘ相國寺仁如等
 大キニ其材ヲ賞シ文之號ヲ與ヘ又韻ヲツキ序シテ以テ返ス十五歳ニシテ京ニ上リ僧熙春ニ慧日山ノ
 龍吟庵ニ謁ス熙春其器宇俊爽ナルヲ見テ論難アル度毎ニ招テ其考ヘヲ聞クニ應對更ニ滯ル事ナシ熙
 春其奇才ヲ賞シテ佗日能ク吾道ヲ弘ムムハ必ス玄昌ナラムト云リトツ東福寺ニ留ル事十有余年博ク
 内外ノ兩典ヲ綜ヘ深ク蘊奧ヲ究ム既ニシテ本國ニ皈リ天正五年日向伊東義祐豊後國ニ奔リ侵地悉ク
 島津家ニ皈シ將卒ヲ分チ遣シテ諸城ヲ鎮戍ス伊集院久治ヲ福島ノ地頭タラシム此時一翁老年ニ及ヒ
 久治ニ請ヒテ辭職シ文之ヲ薦テ同九年二月龍源寺ノ住職タラシム其後大隅高山郷昌林寺同國財部郷
 正壽寺ニ轉ル時ニ島津義久文之カ儒學アルヲ聞招テ大隅國府郷正興寺同國加治木安國寺ノ兩刹ヲ董
 シメ寵遇日々ニ渥シ此時義久國府郷宮隈城ニアリ慶長四年文之島津義弘ニ從ヒ伏見ノ邸ニ至リ東福寺ニ於テ大學ノ
 章句ヲ講ス後水尾天皇聞シ召シ賜ヒ勅命アリテ四書新註ヲ禁廷ニ講ス其叡慮ニ愜ヘリ同年五月島津
 家久ニ從ヒ國ニ皈リテ正興寺ニ住スカクテ同八年五月徳川家康公命シテ文之ヲ筑前國禪光寺ノ住職
 トシ又命シテ相模國建長寺ノ住職トス同九年二月家久文之ヲ招テ學チ鹿兒島ノ城下ニ講セシム同十
 六年ノ頃ニ至リ正興寺ヨリ大龍寺ニ轉ル初メ桂庵四書集註ノ訓讀ヲ洛ノ南禪惟肖ニ受ク桂庵多ク其

誤ヲ訂シテ月渚ニ傳ヘ月渚一翁ニ傳ヘ一翁以テ文之ニ傳フ文之間此ヲ改正シテ如竹ニ傳フ如竹傳屋久島ノ傳ニ出ツ
 元和六年庚申九月晦日六十六歳ニテ死ス加治木安國寺ニ葬ル著書南浦文集聖蹟圖和鈔日州平治記砭
 愚論決勝記等アリ

○女學校 城下ヲ分チテ城ヨリ東北ヲ上トシ西南ヲ下トス此所ハ上ノ學校ナリ下ノ學校ハ下條ニ舉
 ク

○鶴江崎神社 奉祀 天照大神、豊受姬命、相殿左瓊々杵尊 大玉命 天兒屋根命 相殿右豊秋津姬命 例祭九月九日 手力雄命
 寶永三年丙戌九月十六日島津吉貴二代 新建シテ祭田若干ヲ寄進ス神社ノ左ノ傍ニ神馬厩アリ木偶鞍
 馬ニテ其長常ノ馬ト等シク神采生ルカ如シ將ニ奔逸セントスルノ勢アリ

○永安橋 鶴江崎神社ノ北三十間許ニテ即多賀ノ山下精木川ノ下流ニ架セリ石橋ニテ長四十間余幅
 四間許高五間許ニテ石ノ欄干アリ橋下三洞ヲ設ケ每洞水ヲ通ス俗ニ眼鏡橋トイフ始ハ板橋ナリシヲ
 天保十三年ノ春石橋ニ改ム

○田之浦 永安橋ヨリ東北三四町ニテ大磯ニ通フ路ナリ西ハ山川郷ノ海口マテ十余里東ハ大隅國福
 山郷マテ凡十里東西合セテ二十余里南ハ四里或ハ遠キニ至リテハ八里許ノ内海ニテ湖水ノ如シ湖水
 滿レハ江上白ク日落レハ海水碧ナリ船舶其間ヲ往來シテ趣ヲ資ク又東ノ方雲井遙ニ高千穂ノ岳ヲ望
 ミ西ハ滄海ニ開闢岳ヲ浮ヘ南ハ櫻島ニ對シ尙南ニ巡リテ高隈岳ニ對ス其絶景細ニ述ヘカラス無名抄
 曰ツクシニトリテ南ノカタ大隅薩摩ノホトイツレノ國トカヤオホキナルミナト侍リソコニハ四五月
 ニハアケクレ浪タチテシツマルコトモナシ四月ニタツヲウナミトイヒ五月ニタツヲサナミトナム申

侍ル云々トアルハ此所ナル事疑ナシ彼山川ノ皆ト佐多岬トニテ南海ヲ塞キタレハ尙四五月ノ頃ハ南風強ク吹入リテ朝夕大浪ノ立事今モ然リ又此所ヲ置テ大隅薩摩ノ國ニハ然云ヘキ處アルコトナシ

鹿兒島八景

櫻島白雲

前濱行舟

築地晚潮

島陰漁火

洲崎平沙

南林青松

松峰鐘聲

多賀晴嵐

此ハ享保年中樺山某カ家ヨリ眺望ノ景ニシテ詩歌ヲ集メ八景ト號ス名家ノ撰ニ非ストイヘトモ其畫ノ如キハ木村探元手痕ニシテ觀ルニ堪タリ今詩歌ヲ畧シテ服部氏カ跋ヲ載ス

聞之薩人其邦之勝最佳者爲新築地蓋山海並絶也樺山氏家園坐而收之乃作八景亭賞之如此卷所圖若誦余謂詩一也和歌一也圖畫一也固爲三絶然非有此勝未足施此伎則景絶一也世之俗士謂山蓋高謂海蓋深非不觀也苟無勝情以會之不啻牆面則亦樺山君好事其絶一也可謂五絶矣雖然山海吾勝也五絶吾五絶也吞不滯芥者誰居薩國爲大無弗有己薩安養堯堯公爲其邸來修護摩于東都則爲樺山君屬余跋得閱此卷爽然自失乎其絶之富享保丁未之秋東都服元喬跋此侘諸所ニ八景或八十景等アリテ詩歌アレト拙ナケレハ畧ス

○曾根神社 鶴江崎神社ノ西一町余ニ在リ菅原道眞公ノ神靈ヲ奉祀ス神像ハ播磨國曾根ノ松枝以テ彫刻ストイフ天明六年二月廿四日ノ建立ナリ祭日二月廿五日

○孝行橋 曾根社ヨリ西三町許ニ在リ此所ニ大堀アリテ四所ニ橋ヲ架セリ孝行橋其一ツナリ此橋ノ涯ニ池田正右衛門ト云者住テ鹿兒島上町ノ町人ナリ幼クシテ父ニ後レ母ニ事ヘテ極メテ丁寧ナル事

三十余年一日ノ如シ視ル人感歎セサルハナシ官ニ聞ヘテ實永四年丁亥十月二日錢若干ト宅地一區ヲ與ヘテ褒賞ス今ニ此橋ヲ孝行橋ト號シテ別ニ橋ノ名ナシ正右衛門享保四年甲辰四月死ス法名ヲ孝譽養元ト號ス母ノ塋側ニ葬リ孝行正右衛門ト墓ニ題ス明和七年庚寅十一月市來政公正右衛門遺行ヲ記シ石ニ勒シテ其宅地ニ立ツ其後山本正誼更ニ橋ノ記ヲ作りテ南十步許ニ建ツ委シクハ此記ト次ナル孝義錄トニ因リテ見ルヘシ

重建孝行橋記

本府知學事山本 正誼 撰并書

孝行橋在 府城之東南實永四年 本府市人號曰孝行正右衛門賜宅一區於此橋之側因得名實曆中民有請而更造之者既成輒壞遂廢而不復作者數年矣乃復請而重建之一如舊制是時安永五年也鄉人欲書其事于石因以故鄉先生惟宗政公所著孝行正右衛門小傳一篇來調於余按孝行正右衛門姓池田氏幼失怙獨與母居溫清定省禮無違者下氣怡聲以承順之爲人和平與之遊者亦未嘗見其忿憤之色家至貧乃業梳剃以爲奉養朝饗夕殮必供甘旨有贈之衣服若貨財者則受而獻諸母有勸之娶者則辭焉曰我養吾親弗給是懼其敢畜吾妻乎竟不娶母既老老又得末疾欲食云則哺之欲行云則負之扶持調護如保嬰兒母死晝夜號泣殆不勝喪既葬日詣墓所獻歎嗚咽瞻望低回移時而不能去是數年蓋其行之可槩見者如是其可謂孝也已乃拾其事以爲橋記蓋其所宜書者在乎其人云彌則其重建之由與夫功程費用之詳不必書也是年歲次丙申秋九月朔且記 孝義錄曰薩摩國池田正右衛門鹿兒島ノ城下惠比須町ノ人ナリ父ウセニシ後家貧クナリユキシカハ作毛又ハ髮ユリ業ヲナシテ母ヲヤヘナヘリ母中風ヲ病テ手足モルニマカメハ常ニハ抱キカヘテ起居ヲタスケ朝夕ノ食ヲ著取テ食ハ

セ好ム物アレハ即チ求メ進メケリ夜々ハ母ノ側ニサマサマノ物語シテ其ホムルヲ待我身ハ全ク衣ナシトイヘトモ寒キ夜ハ母ノフシトニ濡圍衣ノ類ヲ重ネ其身ヲ以テ母ノ肌ヲ暖メ夏ノ夜ハアフキ涼シカラシムカハル貧シキ中ニテ孝養ヲツケシケルニ人モ感シアヒテ衣服米錢ヲト與フレ者アレハ衣服ハ母ニキセ已ハ母ノ古キ衣ヲ着ケリ年頃ニ成リシカハ妻ムカヘヨト鄰人ノ進メシニ母一人ヲタニ養フ事ノ心ニマカセメニ何トテ妻持ヘキトテ諾ナハス其後母身マカリマ寶永四年十一月ニ領主ニ聞テ惠比須町ニテ町屋敷一所ト鳥目若干ヲ與ヘテ賞セリスヘテ鹿兒島ノ城下ニテ皆孝行正右衛門ト稱シ其屋敷ノカタハラナル橋ヲ名付テ孝行橋トイヘリ云々トアリ

○宮比神社 奉祀 天佃女命

孝行橋ヨリ西二町許和泉屋町ニ在リ此神徳ヲ遍ク兒女子ニ學ヒ習ハシメムカ爲ニ明治四年辛未十一月 官ヨリ是ヲ新建ス祭日二月十月初午ナリ此外臨時ノ祭アリ

○琉球館 城ノ東四町許リニ在リ琉球國王其外王子以下上國ノ時ノ第宅ナリ常ハ親方フヤカタ紫巾大トイフ

官職ノ者頭役ニテ在番シ一年ヲ限リテ交代ス在番ノ居所ヲ本殿ト呼フ以下ノ役職奴僕マラノ假屋敷十軒ナリ

○龍ヶ尾神社 城北十余町ニアリ島津家ノ元祖島津忠久ノ神靈ヲ奉祀ス例祭六月十八日ナリ

○吉野橋并新橋 城ノ東四町許大堀ニ架セリ共ニ石橋ニテ兩橋ノ間一町余隔リ新橋ハ海口ニ臨メリ

並長六間余幅三間許ナリ欄干唐金ノ擬寶珠ニ慶長十一年ノ銘アリ

○桂樹院舊跡 吉野橋ノ北一町余ニテ文明年中桂庵開基ナリ桂庵ハ周防國山口ノ産ニテ年九歳ニシテ出家シ應仁元年四十九歳ニシテ後土御門天皇ノ勅命ヲ奉シ明國ニ渡リ文明五年歸朝ノ時薩摩國坊

津ニ着船ス此時天下大キニ擾亂テ京ニ上ル事ヲ得ス薩摩ニ止マル國主島津忠昌桂庵カ儒學アルヲ聞即チ桂樹院ヲ建立シテ住持タラシム桂庵程朱ノ説ヲ傳ヘテ儒名世ニ鳴ル即チ安國寺月渚ニ傳フ月渚

マダ龍元寺二州ニ傳ヘ二州大龍寺文之ニ傳ヘ文之屋久島ノ如竹ニ傳ヘテ天下ニ行ハルトイフ桂庵

諸所ニ轉住シ後ニ上伊敷村梅カ淵ニ隱居ス其寺ヲ東飯菴トイヘリ永正五年六月十五日八十二歳ニシテ卒ル墓ハ即チ東飯菴ノ故址ニ在リ正興正興寺ハ大隅國國府郷ナリ今廢シテナシ三十九世前南禪桂庵玄樹大和尚禪師墓ト記セリ詩集一卷アリ島陰集ト云フ其一ニテ擧ク

島陰述懷

一二三山千万峯 浮空積翠暮光濃 島陰絕景情誰畫 浦々烟枯船入松

和下發鹿兒島之詩上

重陽菊後快晴天 數簇人家一抹煙 吟友相携此行好 江上何景不詩篇

桂樹院ニ主タリシ時明應元年壬子ノ作ト集ニ見ヘタリ

○長田神社 奉祀 事代主命

鶴丸城ノ北十町餘福ヶ迫ニ在リ本社攝津國長田神社ナリト云ヘリ神名帳ニ攝津國八部郡長田神社アリ是ナルヘシ創建ノ年月傳ハラス國守ノ生土神ニシテ世々崇敬龜畧ナラス毎歲十一月中卯日ヲ以テ祭日トス

○近衛水 福ヶ迫長田神社ヨリ西北五六町北郷某宅地ニアリ圍一間三尺許ナル圓キ石ノ井筒ヲ置テ

清泉其底ヨリ湧出ス深四尺許ナリ四時増減ナク冬暖ニシテ夏冷ナリ地名ヲ冷水ト云フ此清泉ヨリ出タルヘシ大隅國櫻島郷上山某所藏正平七年ノ文券ニ冷水トアルハ此地ト見ユ冷水ノ名其久シキヲ思フヘシ慶長ノ頃ホヒ近衛關白信輔公富國ニ下向アリシ時硯ノ水ニ用ヒシヨシ云傳ヘテ此名アリ此所村伊敷村ニ信輔公旅館ノ跡アリ下ニ云ヘシ

○屯田^{トシタ} 城ノ東北四五町許ノ方域ヲ云ヘリ又立野トモ云フ此地上古屯田アリシ址ナルヨシ云リ屯田ハ仁德天皇紀ニ畧^{上カ}額田大中彦皇子將^レ倭屯田及屯倉^ニ而謂^ニ其屯田司出雲臣游宇宿禰^ト曰是屯田者本大山守地是以今吾將治矣云々大鶴鶴尊問^ニ倭直祖摩呂^ト曰云々對言臣之不知唯臣弟吾子籠^コ知也云々率^ニ吾子籠^ト而來之因問^ニ倭屯田對言傳聲之於^ニ纏向玉城宮御宇天皇之世科^ト太子大足彥尊定^ニ倭屯田^ト也是時勅旨凡倭屯田者每^ニ御宇^ト帝皇之屯田也雖^ニ帝皇之子^ト非^ハ御宇^ト不得^レ掌^テ矣云々是屯田ノ國史ニ出タル始ナリ其後諸國屯田アリテ皆天皇ノ大御田ナリカクテマタ貧民ヲ調救^スフノ設トス尙義倉義田ノ如シ安閑天皇紀^ア綱^イ娜^ニ國^イ膽^ニ殖^イ屯^ニ倉^イアリ又和名鈔ニ薩摩國日置郡富多^トアルモ屯田ニテ本義富田^トナルヘシ又立野トハ禁山封野ナト、其義等シク此地公田ニシテ民此アタリノ木竹ナト私ニ伐采ルヲ禁^レシ上古ノ遺名ナルヘシ

薩隅日地理纂考二之卷 畢

薩隅日地理纂考三之卷

薩摩國

鹿兒島郡

鹿兒島

坂元村

○皇軍神社 奉祀 武甕槌命、經津主命、倭建命、此侘ノ數坐略ス諸所ニ迂坐アリテ今城下練兵所ノ中ニ在リ島津齋興新建ス祭日二月十一月初申日トス

○照國神社 奉祀 明彥神勳照國命

島津大隅守齋彬ノ神靈ヲ奉祀ス文久三年勅命アリテ照國ノ神號ヲ授ラレ權中納言從三位ヲ贈ラルカクテ同年五月廿日神像着御アリテ城内大菊之間ノ假宮ニ坐マシ同年四月ヨリ神殿造營始リ元治元年甲子十二月其功畢リテ同月十九日ニ迂坐アリテ神領百石島津久光島津忠義父子ヨリ寄附セラルカクテ同二年己巳十一月廿二日マタ從一位ヲ授ラレ^{右大臣從一位藤原朝臣實美公宣大辨從三位藤原朝臣俊正御奉行ナリ}同三年壬午十二月二十三日 勅使岩倉具親卿下向アリテ御劔一ト振ヲ奉納セララル

○鶴峰神社 照國神社ノ後鶴丸山ノ南山下十間許ニ在リ島津氏歷代男女老少ノ神靈ヲ安置シテ毎年

二月五日十一月辰ノ日ヲ祭日トス

靖獻神社 照國神社ノ西十間餘ニシテ慶應四年戊辰鳥羽伏見ノ逆亂ヨリ始テ奥羽北越其外諸所ノ戰爭會津城降伏マテノ間ニ戰死セル薩摩大隅日向三ヶ國ノ人々ノ靈魂ヲ安置ス祭日正月三日五月十五日九月廿三日ナリソモノ當社ノ祭祀ヲ年中三度ニ定メラレシハ正月三日ハ鳥羽伏見ノ軍ノ始リ五月十五日ハ逆徒江戸上野落城九月廿三日ハ會津降伏ノ日ナレハナリ

松原神社 島津家十五代陸奥守島津貴久十六代修理大夫義久父子ノ神靈ヲ奉祀ス例祭六月廿三日ナリ

本學校 照國神社ノ南一町許ニ在リ學頭教官其佗師員及ヒ和漢西洋ノ學ヲ講習スル事一ニ朝廷ノ規則ニ依ル

女學校 松原神社ヨリ南一町餘ニ在リ始ノ女學校ニ規則同シ

西田村

日吉神社 奉祀 大國主命 例祭十一月 初申日

西田村ノ生土神ナリ創建ノ年月且來由詳ナラス世ニ是ヲ山王ト號シテ祭神サマノノ説アルハ附會ナリ

谷峰城 西田村日吉神社ノ上ナル山上ナリ曆應四年四月島津貞久東福寺城ヲ拔キ敵尾頸小城ヲ保ツ貞久マテ尾頸ヲ拔ク敵走リテ當城ニ據リ上山城今ノ鶴丸ヲ襲ハムトス貞久マテ是ヲ敗ル東福寺城ノ條ニ出ツ又觀應ノ頃南方ノ賊此城ニ據リテ上山城ヲ襲フト舊記ニ見ヘタリ按スルニ南方ノ賊トハ建久八年薩摩

國圖田嶮ニ阿多地頭佐女島四郎トアリ此者東鑑ニ阿多平權頭忠景蒙ニ勅勘ニ云々トアル忠景ト同族ニテ其後鮫島彦次郎入道蓮道ト云者南朝ニ屬シテ屢貞久ニ敵セシ事舊記ニ見ヘタリ是等ナルヘシ

蛙 日吉神社ヨリ東八町餘ニ本菅原神社アリテ其前ナル池ヲ天神ノ地ト云リ又此地ヨリ東北六町許ニ南泉院ノ池トイフアリ 此寺跡彼照國神社鶴峯神社等ノ境内トナリテ今寺モ池モナシ 實曆ノ頃ナリシトソ南泉院ノ池ヨリ數千ノ蛙來リテ天神池ノ蛙ト闘フ又此所ヨリ南一町許ニ窪田池ト云アリ此池ノ蛙餘多來リテ天神ノ池ノ蛙ヲ援ク互ニ陣列ヲ成シ聲ヲ揚テ相咬死スル事其數ヲ知ラス既ニシテ互ニ引ク翌日天神池ノ蛙南泉院ノ池ニ至リテ闘フ事前日ノ如シ此ノ如クナル事四日ニシテ後遂ニ和平ノ狀ニテ互ニ屍ヲ負ヒ己カ池ニ運飯リシトソ今ニ傳ヘテ奇談トス按スルニ續紀神護慶雲二年秋七月壬申朔庚寅太宰府言肥後國八

代ノ郡正倉院北畔蝦蟆陳列廣可ニ七丈ニ南向而去及ニ于日暮不知ニ去處ニマタ同紀延曆三年五月辛未朔癸未攝津職言今月七日卯時蝦蟆二万許長可ニ四分一其色黑班從ニ難波市南道ニ南行池列可ニ三町ニ隨道南行入ニ四天王寺内ニ至ニ於午時一皆悉散去又漢武帝元鼎五年蛙與ニ鬪ヒシ由事文類聚ニ出ツ然レハ例ナキニ非ストイヘトモ實ニ稀有ノ事ナリ

孝女千世 千世ハ鹿兒島下町ノ人ナリ 生死ノ年月詳ナラス 父ヲ高崎孝右衛門ト號ス幼クシテ父母ニ仕ル事深切ナリ成長シテ東吉郎右衛門ニ嫁シ其一子ヲ生ス夫及ヒ其子先キ立ツテ死シ父亦續テ死ス家貧ク母ヲ養フ人ナキカ故ニ家ニ飯リ母ニ仕ル事五十年其丁寧反復具ニ述フヘカラス此事官ニ聞ヘ安永七年祿若干ヲ賜ヒマタ市人共志ヲ合セ堀江町ニ宅地一ヶ所ヲ與フ天明元年増田溫孝女門ノ記ヲ撰シテ石碑ヲ堀江町ニ建ツ碑文左ノ如シ

野伏ヲ出シ合戦ス或時禮部手ヨリ詞ヲカク島津方ノ手ニ取分ケ承及候山田彌九郎殿ト申人ニ見參仕
度候禮部手ニ多田ト申者ニテ候トソ名乗ケル彌九郎ハ四尺許ノ太刀ニ手楯ヲ持屯ス是ハ何事カト傍
輩トモ云フサレハ我ヲ戀ルホトノ仁タリ如何サマニモ上太刀打ムスラム手楯ヲ差出テ楯端ヲ切ラセ
テ下ヲ薙ヘシ蹈ヨリテ組ヲ勝負ヲセムト思フナリトテ手楯ヲ持敵ハ袖笠印ナド取付テ殊ノ外ハマリ
テ見ユ互ニ出合多田ハ長刀ノ大キナルヲ以テ案ノ如クニ上太刀ニ成テ切テ懸ル楯ノハヲ切ラセフミ
ヨリテ下ヲナキ敵ノ袖ガシラ草摺ヲ切拂ヒ互ニ蹈ヨリ敵長刀ナレハ彌九郎カ甲ノテツヘン眞向
吹返ニソカカリケル両方ハヤクマントスト見ヘケルニ後ノ兵共一度ニ走ヨリノクル禮部方ヨリモ同
ク寄ラノクル彌九郎云ク正シク敵ノ袖カサシルシ切落シツルト覺ルトテ太刀打ノ所ニ返シテシルシ
テ太刀サキニツラヌキテサシ上ケ是御覽候へ今日ノ勝負ノシルシト云ヒテ時ヲ作ルトアリ禮部ト
ハ南朝ノ大將島山治部輔國長一書島山修理 亮直顯トスニテ文和三年九月鹿兒島ニ來リ東福寺城ヲ攻ムトテ薩摩大
隅日向三ヶ國ノ南朝ノ軍ヲ率ヒ軍ヲ二ツニ分チ一ハ野本原ニ軍シ一ツハ原羅ニ軍ス島津氏久寡ヲ以
テ衆ニ對シ連戰數日其時ノ戰場ナリ多田ハ通稱ヲ七郎トイヘリ聖榮ハ島津忠久ヨリ二代島津忠時他腹ノ長男山 田忠繼ヨリ五代山田久興嫡男ニテ出羽入道ト號
ス文明年中
ノ人ナリ

荒田村

八幡神社 奉祀 應神天皇、王依姫命、神后皇后 例祭九月 二十三日

創建ノ年月詳ナラス閭村ノ生土神ニテ往古ハ鹿兒島ノ宗社ナリト云フ建久八年薩摩國圖田町ニ大隅
國正八幡宮御領鹿兒島郡荒田莊云々東鑑ニ元久元年十月十七日大隅正八幡宮寺訴へ申ス云々荒田莊

地頭山北六郎種頼云々トアル荒田莊ナリ相傳へテ此所マテ大隅正八幡宮ノ神領ニテ境目ノ標ニ當社
ヲ建立アリシトイフソモノ大隅正八幡宮ハ神名帳ニ所謂鹿兒島神社ニテ後ニ八幡大神ヲ合祀セシ
ヨリ八幡宮ト社號ヲ唱へ來レルナレハ當社モ始ハ鹿兒島神社ト稱シテ祭神彥火々出見尊ナリシニヤ
アリケム又鹿兒島神社ヲ八幡宮ト唱フル後ニ成リテノ建立ニテ始ヨリ祭神今ノ如クナリシカ是等ハ
考ルニ據ナシ元龜二年四月下大隅ノ大隅國ノ中垂水郷ノ邊ヨリ以南 賊徒襲ヒ來リ當社ヲ亂妨シ神寶ヲ奪ヒ
舟ニ乘リテ飯ルニ暴風發リテ舟危ク寶物皆海ニ捨タリトイフ毎年祭日ニ荒田濱ニ行宮ヲ設ケ神輿ヲ
護リ下ル神官前後ヲ圍ミ神樂ヲ奏ス神輿ヲ昇ケル壯年ノ男子トモ聲ヲ發シ前ニ進ム事十歩ナレハ退
ク事又十歩ナリ左右モ是ニ同シカクノ如ク屢進退スルヲ神ノ喜ビ給フト云フ大キナル傘或ハ錦旗ナ
トラ携へ陪從ス還御ノ時モ始ニ異ナラス又荒田村ノ四方ノ端ニ隨神祠アリテ二年目ノ春毎ニ神輿ヲ
奉シテ四境ヲ巡ル是ヲ境回トイフ一社毎ニ神輿ヲ駐ル例ナリ行裝祭日ニ同シ社内ニ天正二年甲戌十
二月廿六日武内殿一字再興ト記セル梁文アレト今其社ナシ
△蝮蛇鎮符 當社ハ此毒虫ヲ太ク惡坐ニ因テ荒田ノ一村絶テ此虫ヲ見ル事ナシ是故ニ皆神社ノ下ナ
ル砂ヲ拜請シテ鎮符トス常ニ是ヲ懷中スレハ他所ニ於テモ此害ヲ被ル事ナシ又此虫ニ此砂ヲ撒ハ瘥
傷テ動ク事ヲ得スシテ終ニ死スト云

郡本村

○一條神社 奉祀 天照大神 例祭九月九日 十月朔日
創建ノ年月詳ナラス社傳ニ薩摩國顯娃郡開闢神社ヲ迎祭シテ社號ヲモ上古開闢ト唱へ彼顯娃郡ナリ

開闢神社ノ薩摩國ノ一之宮ナルニ倣ヒテ一之宮トモ云ヒシカ後々ハ混淆シテ遂ニ神官等爭論起リシ故ニ吉田兼連ニ請ヒ社號ヲ改メシトイフ一説ニ郡山郷ニ一ノ宮アリ是ニ分ツト云フヘシ貞享五年二月ノ棟札ニ一之宮大明神トアリテ元祿十四年ノ記録ニハ一條宮ト見ユ此比ノ改號ニヤ實永八年辛卯二月六日記録ニ一之宮大明神ト唱ヘ候處近年ハ一條ト唱ヘ候トアリ建久八年薩摩國園田張ニ郡元社七町五段鹿兒島郡内ト見ヘタルハ是ナリ十月ノ祭祀ニ神興濱下リアリ神社ヨリ巽三町許海道ノ傍ニ古松アリテ其松蔭ヲ柴立ト呼フ此處ニ神興ヲ駐ル例ナリ

小野村

○聖之宮 創建祭神詳ナラズ園田清右衛門宅地ニアリテ稻荷神社ヲ會祭ス即チ清左衛門氏神ナリ應永十二年八月島津久豊此地ヲ園田大永六年島津八郎左衛門實久實久ハ九代島津忠國弟島津用久ヨリ五世ニテ此時薩摩國出水郡等ヲ領ス叛シ同七年其黨鹿兒島ニ充ツ此時島津貴久清水城ニ在リ清水城前六月十五日夜侍臣ト相議シ城ヲ出テ園田カ家ニ入ル賊徒追ヒ逼ル園田清左衛門實明貴久ヲ聖之宮ニ匿シテ危難ヲ免ル

○高加木神社 奉祀 伊弉册尊 例祭九月九日

木村時勝建立トイフ系圖ヲ按スルニ時勝ハ北條高時弟泰家三世ノ孫ナリ泰家熊野ノ神ヲ奉シ薩摩國那苔院ニ來ル時勝ハ後ニ那苔院ヲ去テ此高加木山ニ移リ當社ヲ建立シ木村ヲ氏トス額ニ高加木ト記シ棟札ニハ高鍵或ハ高賀木トアリ名義知ルヘカラス此地山嶺神社ヲ囿テ其間楓樹多シ後ノ巖壁ヨリ飛泉ニ流社ヲ挾ミテ瀉キ落ツ社ノ左ナルヲ男瀧右ナルヲ女瀧トイフ紅葉ノ時ハ下流ニ映シテ錦ヲ浸セルカ如シ其景賞スルニ足レリ

草牟田村

鹿兒島神社 奉祀

例祭二月七日 十月十七日

創建年月詳ナラス社號ヲ俗ニ宇治瀬ト稱ス應永十五年寛正三年ノ棟札ニ宇津佐大明神トアリ宇治瀬宇津佐通音ナリ三代實錄曰貞觀二年三月廿日庚午薩摩國從五位下鹿兒島神授ニ從五位上トアル是ナリ社頭ヨリ南四町許ニ大河アリテ神月川トイフ古來相傳ヘテ二月十月ノ十七日夜此川逆流ス又櫻島小池村尾崎ノ海ヲ過レハ船膠テ進マシ海神ノ當社ニ詣給フニ因レリト云サテ祭日ニ此處ヨリ半里余鹽濱ノ海邊ニ行宮ヲ興テ神興臨幸ノ行裝壯觀ナリ騎馬ノ神官數十騎前後ヲ守護ス步行ノ神官ニ至リテハ其數ヲ知ラス又町家ノ氏子トモ男女供奉ノ輩夥シ其中ニ女子ノ十二三歳ナル者共白衣緋ノ袴ニテハノ枝ヲ各携ヘ五六十人奉ス先ツ一番ニ御銜ヲ携ヘ次々ニ次第ヲ紊サズ大キナル傘數十本或ハ幡數十流ヲ飄シ路スカラ神樂ヲ奏ス行宮ニ至リ祭式畢リテ還御始ノ如シ

○神月川 水源郡山郷ヨリ出ツ東ニ流ル、事數里ニシテ鹿兒島神社ノ前ニ至リ南ニ折レ新上橋西田

橋高麗橋武之橋ノ四橋ヲ過テ海ニ入ル鹿兒島第一ノ大河ナリ神月川ノ名義詳ナラス或ハ鹿兒島神社ノ神嘗月ノ祭ノ畧稱ナリトイヘリ(今ノ甲突川)

上伊敷村

○石堰 鹿兒島神社ヨリ北半里許ニ在リ即神月川ノ上流ナリ高十間横十間許切石ヲ疊ミ上ケテ大河ヲ濫ヘ西南ノ山下ニ大渠ヲ堀リ通シテ此水ヲ引キ畝ノ間ニ廻ラシテ遍ク田地ニ灌ク是ニ因テ伊敷村ハ云モ更ナリ下流小野村草牟田村永吉村原良村西田村武村荒田村等ノ數村更ニ旱魃ノ患ヲ知ラス又此川香魚多シニ三月ノ頃鈎以テ是ヲ釣リ七八月大ナルニ及ヒテハ網以テ是ヲ取ル堰ヨリ上流ニ至

斷ヲ察シ兵ヲ青屋ノ松原ニ隱シ忠直單騎ニシテ行ク時ニ祐立亦單騎ニシテ來ルニ會ス共ニ勇悍ノ名アリ忠直精神ヲ勵シ祐立ヲ捕テ首ヲ斬ル青屋ノ軍進ミテ敵ヲ討ツ悉ク遁レ去ル忠直波ノ平ニ至リ貞久ニ會ス忠直カ勳功ヲ感セサル者ナシ一說ニ康永元年壬午ノ八月トス忠直後ニ親戚ヲ離レ獨リ征西將軍ニ從ヒ薩摩ヲ去テ豊後國ニ徙居シテ遂ニ陣中ニ死ス忠直子氏儀其子久親猶豊後ニ在テ官軍ニ屬ス島津氏久ニ至リ親戚他國ニ放レ居ルヘカラストヲ頼ニ招キ還シ日向國深川院ヲ采邑ニ與フ久親二子アリ長ヲ直久次ヲ忠次ト號ス島津久豊ニ從ヒ川邊松尾城ニ於テ兄弟俱ニ戰死ス白尾國柱曰南北ノ皇統順逆ヲ以テ議スレハ北朝ヲ擯ケ南朝ヲ擯ルモノ固ヨリ天下ノ公論ナリ云々忠直獨リ親戚ノ群ヲ離レテ足賊ノ招ニ應セス征西將軍宮ニ屬シ奉リ忠勇義膽敢テ其節ヲ屈セスシテ豊後ニ徙居シ終ニ陣歿ス名分ヨリシテ是ヲ稱セハ吾藩勳王ノ士忠直ヲ以テ翹楚トスヘシ後世成敗ヲ以テ事ヲ論シ足利力催促ニ從ヒ軍功ヲ抽ツナトイヘルモノ、實ハ賊ヲ助ケ叛ニ與スルニアラスヤ其功愈大ヒナレハ其罪愈大キナリトイフベシトイヘリ

○牛落 郡元村ニ屬シテ鹿兒島ヨリ谷山ヘ往來スル街道ナリ西ハ懸崖ニテ東ハ海ナリ皆人攝津國一之谷ニ似タリトイフ山田聖榮日記ニ鹿兒島ノ内牛ヲロシ或ハ牛落シ或ハ牛カケノ濱トアルハ此所ナリ今俗牛懸灘トイフ谷山祐立陣營ノ跡ナリ

○紫原 郡元村ノ野岡ニテ牛落ノ西ニ續ケリ天文八年己亥三月十三日島津貴久谷山ノ敵ヲ討ツ此時島津八郎左衛門實久谷山ヲ奪ヒ貴久ニ敵ス又谷山本城ノ城主禰寐播摩大軍ヲ率ヒ實久ヲ助ケ紫原ニ迎ヘ戰フ貴久是ヲ敗リ播摩ヲ始メ以下ノ將卒數十人ヲ斬ル

原良村

○原羅營 城四今原良ニ作ル即チ前ニ出タル文和年中島山國長カ陣營ナリ又應永廿年十一月島津家臣伊集院頼久反シテ清水城ヲ燒キ退テ此所ニ陣ス此時島津久豊忠久ヨ大隅菱刈ノ亂ヲ鎮メムカ爲ニ清水城ヲ發シ同郡吉田ニ至ル此變ヲ聞即チ馳テ鹿兒島ニ還ル吉田清正吉田蒲生清寬蒲生等是ニ從フ同月十二日久豊軍ヲ進ム清正清寬此從兵多シ小野原羅兩村ノ間ニ戰ヒ頼久カ軍ヲ敗リ敵ノ大將町田土佐日置肥前等數十人ヲ斬獲シ頼久ヲ此營ニ圍ム頼久進退道ナク自乃セムトス清正清寬等頼久ニ命ヲ請フ久豊聽カス再三ニシテ遂ニ許シテ所領伊集院ニ歸ル此事清水城ノ條ニモ出タリ

比志島村

○比志島城 城北當城ハ滿家上總介重賢入道榮尊居城ナリ榮尊ハ信濃國ノ守護職志田三郎左衛門頼重子ナリ頼重故アリテ薩摩ニ謫セラル島津忠久是ヲ扶助シテ比志島村ニ置ク頼重滿家院ノ郡司孫太郎永平カ女ヲ聚リテ榮尊ヲ生ム榮尊滿家ヲ以テ家號トス頼重赦免アリテ信濃ニ歸リ榮尊永平カ讓ヲ受テ滿家院ヲ領ス滿家院ハ日置郡ニテ鹿兒島ニ隸タリ

小山田村

○高城 城ノ西一名ヲ小山田城トイフ建武年中中山田五郎景範居城ナリ景範ハ上總介重賢子孫比志島孫太郎忠範第二ノ男應永二十一年正月二日伊集院頼久當城ヲ攻ム城主小山田伊賀範清一族出羽義村淡路貞清以下終日戰ヒ兩軍死傷多シ

△平城 高城ノ亥子方一町余ニアリ小山田カ一族城主タリ

○小山田瀑布 平城ノ北三町許ニアリ水源郡山郷ノ山中ヨリ出ツ高五丈五尺横狭クシテ水勢壯ナリ土俗陽瀧ト號ス一名ヲ布引トイフ左右藤多シ又平城ノ南ニ陰瀧アリ高僅ニ二丈許ナリ下流共ニ神月川ニ入ル

○孝子喜左衛門傳 孝義錄曰薩摩國日置郡郡山小山田村孝行者喜左衛門ハ高モ持ヌ百姓ナリ父ハ實永ノ始メ失ケルニ其常ニ居シ所ノ席ヲ母ノ居所ニ定メ置テ己ハ其下ニ坐シ聊モ不敬ノ跡ヲナサヌ早ク妻ヲモ娶リシカ母ヲ養フ事疎ナリトテ出シヤリ其後妻ヲ迎ヨトアレハ卑賤ノ身ニテ孝心アラム妻ヲ擇ヘキ事心ニ任カタシイカニモ己一人シテ心ノマ、ニ養ムトテ晝夜母ノ側ニ在リテ奉養怠ラヌ小山田村ニ藏屋敷アリテ村ノ民三四人ツ、日夜輪番セシ事アリシニ喜左衛門カ番ニ當リケル日ハ同シ番ニアタレル者ヲ頼ミ一刻ツ、暇ヲ乞テ母ヲ省ミ又ハ人ノモテナシニ招レテモ母ノ獨アリテ佗シカラム事ヲ思ヒ頓ニ坐ヲ立テ酒ヲ求メ飯リ母ト共ニ樂ミケリ實永六年五月領主ヨリ褒美トシテ鳥目若干取ラセケリトアリ

吉野村

○大鼓橋 精木川ノ川上實方ニアリ兩岸自然ノ巨岩ヨリ切石ヲ組架シテ柱ハナシ兩岸ノ間狭クシテ洪水ノ時常ノ橋ニテハ保テ難キニ因テナリ水門圓クシテ大鼓ノ如シ

○鳥越 東福寺城ノ西ノ麓後追ヨリ大磯ニ越ル坂路ナリ此方ヨリ升ル事中天ニ沖ルカ如ク彼方ニ降ル事無底ノ谷ニ陥ルカ如シ飛鳥此峠ヲ越ルニ地ヲ放ル事僅ニ二尺ニ過ス

○大磯 田之浦ノ北ニ接テ同シ海岸ナリ一名ヲ仙巖洞トイフ翠嶺後ヲ圍テ其間ニ彼鳥越ノ一路通ス

東ハ高千穂ノ靈山ヲ遙ニ望ミ西南ニ開闢岳富士ノ影ヲ摸シ前ハ間近ク櫻島ニ對ス凡南ノ方山川ノ海口ヨリ東福山ニ至ルマテ二十余里一望ノ中ニアリテ其風景千態萬狀具ニ述フヘカラス鹿兒島第一ノ勝地ナリ

○菅原神社 大磯松ケ平ニ在リ貞享三年島津勤久建立ス 祭日八月二十五日 大磯ノ岸頭ニテ其地道路ヨリ二丈許高シ此地ノ風景ヲ眺望セムニ此社頭ヲ第一トス

○白山神社 奉祀 伊弉册命 菊理媛命

大磯山下川ノ北岸ニアリ島津吉貴代^{廿二}北地ニ遷シテ再興ス初メ鎮坐ノ地審ナラス

○仙巖園 仙巖ハ大磯ノ一名ニテ園ハ國主ノ別館ナリ万治年中十九代島津光久是ヲ建ツ舊名大丸トイヘリ二十九代島津重豪園ノ内外ナル勝景ヲ撰ヒ仙巖十六景ト號ス清人ノ詩アリ石ニ刻シテ園中建ツ又喜鶴亭アリ事ハ其記ニ詳ナリ左ニ載ス

喜鶴亭記

喜鶴亭ハ在本府城北十里其他錦峯嶺前臨ニ大江且多^多奇石故比ニ於龍虎山之仙巖云天明丁未之歲 老太守中將公至^自東都一暇日遊ニ於喜鶴亭者屢矣因撫ニ其登臨游觀之狀最可^レ喜者爲^ニ十六景一命ニ壽師各圖^ニ其狀合爲^ニ一卷既又別寫^ニ其圖託^ニ長崎人林梅郷一求詩及序一爲^ニ一帖又命^ニ臣山本正誼一爲^ニ之記謹按万治年中 寬陽公創^ニ建別館於仙巖洞一名曰^ニ仙巖園其後寬文中新構^ニ一亭落成之日宴^ニ於亭上適有^ニ雙鶴一自^レ東而至翔翔翩翩遂降^ニ庭前飲啄棲止移^レ時不^レ去於是群臣拜賀以爲^ニ嘉瑞一奉^レ觴上^レ壽皆呼^ニ千歲因謂^ニ其亭一曰^ニ喜鶴一而學士大原林齋爲^ニ之記即今亭也記文實在^ニ壁上

蓋本府城下多山水而仙巖洞最善洞中多園池而仙巖園最善園中多佳處而喜鶴亭又最善於是內聚竹樹泉石之美外鐘江山林壑之秀千態万貌不可具狀然其最善者莫若十六景以下

十六景序

夫天曰蒼天海曰碧海扶桑曜日若木舒華斗柄乍看其東指宇宙皆春地維不缺於巽方山川並秀乃有薩摩國者即日本之連疆也臨以碧津迎以險嶼斜演折木遙峙沃焦非藉巨靈之擘偏成海外名山乍當義馭之外便見日邊好景園惟瀨水即是瀛洲巖亦稱僊何殊蓬島千里經遊非遇十六勝地堪誇豈不足壯游觀供眺覽哉今此重洋隱波忻看幅湊之蕃船官貨交通爭喚往來之唐客撫此地林泉新遠人耳目增邱壑於胸中走風雲於筆下一情荆關妙手繪出層巒借顧陸奇才寫成尺幅於是搜問學士拈珊瑚管以我詩選勝文人含霜臺而得句春風畫閣披圖瞻東海之雲霞細雨曉牕筆揮西園之翰墨追使王摩詰即畫即詩並傳其妙非若謝幼輿一壑上得書其奇也爰製序言以辨簡首歲在著雍涒灘圍余月穀且左春坊錢榮

戊甲仲夏

鳴雨泉
外史曹鏞光
七椀邀盧一咲休

山脉通源日夜流
淋々似雨響園秋
烹來石鼎供茶話

赤松林
雲南學政吳俊

虬枝低亞翠成推
未受秦封次第栽
薄暮擁濤風影動
疑撐月到薩摩來

翰林庶掌出知福審刺史江珞

雲根拔地幾何年 形肖蛟騰却宛然 千古青蒼冠名勝 每逢風雨似昇天

春風吹醉早楓丹 夾岸香來到曲欄 此景獨餘海外有 神僊應羨是奇觀

培成翠碧帶山腰 葉々迎風鳳尾搖 也抱歲寒心似鐵 不驚飛雪響蕭々

修竹徑 翰林修撰汪洋

玕琅千万立成林 細路通人幽境深 傍午不知過赤日 清涼慣透愛吟心

荻蒿叢 翰林院編修范來宗

歷亂秋風影不齊 含煙和露隔花溪 莫嫌寂寡蓬蒿逕 慣遣高人遠托栖

葡萄架 翰林院編修加一級嚴福

漢使西皈味共探 移栽嘉種遍東南 結陰成架初添竹 珠帳草龍護碧嵐

以上仙巖園中八景

巍然神宇白雲邊 靈爽憑依別有天 洗淨塵緣留好景 楓香蕉色寺門前

菅神廟 御史李欽

弱家紅粉擅風流 圖畫天然到練洲 好賺漁郎成問訊 一溪春滿東海頭

龍洞院 承宣布政司王昶

天平遙對院門青

四月塞生古樹林

噓氣成雲迷洞府

蒼苔冥漢瑣層陰

灰徑垂空界碧山

飛鳥越

紅塵不到芒屨底

大學土嵯瑣

朝夕池

人依飛鳥試躋攀

徐度松雲幾疊關

主事顧宗泰

群峰環抱一泓秋

水落水高早暮流

正合僊園人竚立

果然身已到瀛洲

雲羅霧縠影相將

疊雪輕句帶水鄉

倘倩白魚拋玉尺

侍郎蔣元益

天平山

疊雪輕句帶水鄉

倘倩白魚拋玉尺

量來應有幾多長

高峰儼與碧霄齊

蠡立當空万象低

絕頂徘徊天關近

翰林院編集梁同

海門兀峙鎮洪濤

能抗前津風怒號

何須更上步雲梯

侍讀學士彭紹觀

以上仙巖園外八景

萬里乘潮客出入

玉鯨隱々與金鼈

〇三船神社

大磯ヨリ東半里許海岸ニアリ祭神及ヒ創建ノ年月詳ナラス小兒ノ諸病及ヒ痢疾ノ煩ヒ

ナカラメ事ヲ祈ルニ靈驗アリトテ海陸ヨリ詣人夥シ此地松林ノ中ニテ前ハ海ニ臨ミ風景愛スヘシ

物産

器用 大砲、小銃、刀槍、長刀、弓、矢、磁器、櫛、飛禽 鶴、雁、鳧、雉、

走獸 猪、鹿、家猪、貉、兔、羊、野牛、家鴨、鱗介 鯛、方頭魚、金絲魚、飲食 密柑、九年母、文旦、桃、李、梨、柿、栗、椎、梅、西瓜、銀杏、花卉 牡丹、芍藥、菊、桔梗、菖蒲、蘭、万年青、

吉田郷

鹿兒島ノ東三里余ナリ周廻十里三町廿六間東重富南鹿兒島西郡山北蒲生ニ接ス村落五多浦村、木城村、本名村、高六千六百六十八石二斗六舛八合余土族千九百九十二人内男五百九十七人 卒二百九十二人内男百四十四人 平民二千三百五十三人内男千八百八十一人 忽人員三千八百三十七口惣家部九百七十七戸當郷ハ舊始羅郡ニ屬セシヲ天正十五年鹿兒島郡ニ隸ケリ往古大藏行忠數世吉田ヲ領ス天仁三年正月大隅國國府郷八幡神社ノ執印行賢吉田ヲ奪ヒ八幡ノ神領トス既ニシテ源爲重ニ讓リ爲重ハ源爲朝次子ナリトイフ大日本史爲朝ノ傳ニ爲重ヲ載 爲重是ヲ外孫長太夫清道ニ讓ル清道吉田ヲ家號トス其子吉清右大將頼朝ニ仕フ吉清ヨリ九世ノ孫吉田清正島津元久ニ從ヒ京師ニ上リ能登守ニ任ヌ後ニ島津久豊執事タリ正永十四年清正ヨリ五世ノ孫吉田若狹位清吉田城ニ據テ謀反ス同年二月十二日島津忠隆親軍ヲ領シテ城ヲ攻ム位清力盡キテ降ヲ乞ヒ十四日ニ城ヲ開渡シテ薩摩國出水郡山門院ニ走ル忠隆守兵ヲ殘シテ軍ヲ歸ス 位清山門院ノ領主島津忠興ニ奪ル忠興卒シテ其一族島津善左衛門力爲ニ殺サル

富之浦村

○牟禮之岡 鹿兒島ヨリ東三里許ナリ此邊第一ノ高岳ニテ絶頂ニ登レハ鹿兒島ヲ一望ニス麓ハ吉野ノ牧ナリ絶頂ニ石ノ小祠アリテ牧神トス其石祠ニ貞享二年巳三月十九日ト鐫記ス

本名村

○三重岳 此岳東ハ吉田郷ニ屬シ北ハ比志島村ナリ山中ニ谷川アリテ境トス双方ノ山中櫻多シ満開ノ景ヲ見ル者愛賞セサルハ無シサレハ路遠クシテ容易ク行キ見ル事ヲ得ス常ハ樵夫ノ輩是ヲ見ルノ

西佐多浦村

○王子神社 同村王子原ニアリ創建祭神祥ナラス永正十二年丁巳二月島津忠隆天正廿三年甲寅六月三日島津貴久再興ノ棟札アリシヨシ古老云傳ヘタリサレト今傳ハラス吉田郷ノ宗社ニテ例祭二月初申ナリ

○黒山神社

○都津宮神社 此兩社王子神社ト同殿ニテ祭神詳ナラス始黒山神社ハ黒山ニ鎮坐アリ黒山ハ舊吉田郷西今重富郷ニ隸リ都津宮ハ吉田郷轟ニ鎮坐アリシヲ往古神官夢ニ王子ノ神顯レ給ヒ黒山都津宮ノ兩社ヲ我ト同殿ニ會祀スヘシト宣ヒ城主モ姓名傳ハラス其夜同シク靈夢ヲ蒙ル此ニ因テ兩社ヲ王子神社ニ合祭ストイフ其年月詳ナラス

○松尾城 吉田吉清守護方ニ屬シテ累代ノ居城ナリシヲ永正十四年吉田位清叛シテ遂ニ落去ス事ハ初條ニ詳カナリ其後島津左衛門歳久島浦義久弟吉田ノ領主タリ後チ又祁答院ニ移リテ此地鹿兒島ノ直隸

トナレリ

物産

竹木

杉、樟、オナ甘橘、イナ橘、カレ孟宗竹、マダケ苦竹

走獸

猪、鹿

鱗介

香魚、鰻

薩隅日地理纂考三之卷 畢

薩隅日地理纂考四之卷

薩摩國

日置郡

和名鈔日置ハ比於木建久八年國田帳日置北郷七十丁本郡司小藤太貞隆
マ々同書日置庄三十丁司小野太郎定綱ト有リ土人日置ヲヘキト云フ

郡山郷

當郷ハ往古滿家院トイヘ建久八年薩摩國圖田
帳ニ滿宮院百三十町地頭右衛門兵衛尉ト見ユ

鹿兒島ヨリ西北四里半ニアリ北ハ人來郷東蒲生吉田南鹿兒島西伊集院ニ接ス周廻九里二十町四十五
間村落六 郡山村、西保村、油須木村 高五千六百九十五斗九升四合七勺士族千六百九十一人女六百四十二人卒百
東俣村、川田村、厚地村 八十六人男百人女八十六人平民三千八百八十五人女千四百八十五人惣合人員四
千五百三十五人男二千三百四十四人女二
千二百二十一人惣合戸數千五百八十八戸

原地村

○花尾山 ^{ハナツ} 花尾ハ地名ナリ連山群峰ノ中ノ一峯ニテ四方ヨリ望ムニ衆山ノ上ニ秀テタリ花尾神社此
山ノ南ノ麓ニ在リ 此花尾ノ名ハ元祿年中鹿兒島舊大乘院住僧覺懸カ著セル花尾神社縁起ニ此山ノ尾筋ニ藤野躰ソノ外ノ花

ノ一面山ニ横キ三面ハ谿壑ニ臨ミ幾千仞トモ量カタン昔ヨリ練行ノ
者ハ必ス此巖ニ登リテ護摩ヲ燒シユヘ火燒ノ巖ト名クト見ヘタリ

○熊野神社 花尾山ノ絶頂ニ在リ祭神紀伊國熊野社ニ同シ創建年月及由緒詳ナラス

○花尾神社 奉祀二坐 右大將頼朝 丹後局 祭日正月朔日四月八日
八月十二日

建保六年島津忠久島津氏始祖創建ナリ内陣ニ神鏡數面ヲ藏ム其中一面ニ薩州滿家院アツテ厚智山權現御正體云々爲ニ聖朝外朝日本大將軍家御願成就一殊者爲ニ當國守護所惟宗忠久云々悉地成就云々建保六年大歲九月日永金敬白ト在リ永金ハ丹後局歸依ノ僧ナリト云フ今此社傳ニ永金ヲ加ヘテ祭神三座ナリト云ヘルハ誤レリ此ハ此世私ニ會祭セルニテ固ヨリノ祭神ニアラサルハ神鏡ノ銘文ヲ永金カ書ケルヲ以テ証トスヘシ又丹後局モ舊記ヲ按スルニ嘉祿三年ニ終リタレハ是モ後ノ會祭ナリソモノ當社ヲ創建シテ國家ノ鎮守ト仰キシヨリ今ニ至リ方ニ六百五十余年人心一ツニ皈シテ神德マスノ赫キ靈威日々ニ新ニシテ田夫野人トイヘトモ仰カサル者無キニ至レルハ遠ク萬世ヲ鑑ミケム舊史ニ當社ノ爲ニ島津氏ノ守護神トアリ社頭ヨリ十四丁余此方ニ一華表アリ其ヨリ四丁許ニ二華表アリ又一丁余ニ三華表アリテ社殿最莊嚴ナリソモノ花尾山ノ形狀一山杉ノ大樹ニシテ幾星霜ヲ經シトモ知ルヘカラス山中朽木トテ伐レ事ヲ壁ノ禁ス千巖萬壑回抱シテ清泉溪關ヲ廻リ山水共ニ社殿ヲ擁スルニ似タリカ、ル清淨清深ノ境ナレハ參詣ノ徒期セスシテ凡情ヲ忘レ敬信ノ心ヲ生セサルハナシ花尾社記ニ曰要チ花尾大權現廟ハ薩摩州滿家院郡山郷原智村花尾山ノ麓ニアリ府城ヲ距ル事四里ニシテ遠シ始祖忠久公ノ建給ヘル處ニテ三位ノ神ヲ祀ル中ハ鎌倉右大將賴朝公右ハ丹後局左ハ永金阿闍梨ナリ云々文治元年忠久公封セラレテ薩隅日三州ノ守護職トナリ此國ニ下リ給フ正治元年賴朝公鎌倉ニ於テ薨シ玉フ建保六年忠久公棟字ヲ花尾山ノ麓ニ搆ヘテ賴朝公ノ尊像ヲ御安置ナサレ百世不毀ノ廟ト定メ玉フ丹後局ハ忠久公ノ御母ナリ云云御局忠久公ヲ御携ヘニテ八文字民部大輔惟宗廣言ニ嫁シ給ヒシニ忠久公薩隅日ノ守護職ニテ此國ニ下リ玉フ時ニ御局及ヒ廣言ヲ迎ヘ取り玉ヒ廣言ヲ市來院ノ地頭職ニ補シ玉ヘリカクテ

御局モ常ニハ市來ニヲハシケルカ忠久公ヨリ原智村東俣村ヲ湯沐ノ邑トナシ玉フヨリテ時ニハ兩村ノ間ニ遊ヒ玉ヒ嘉祿三年丁亥十二月十二日掩粧シ給フ御遺命ニテ花尾山ノ麓ニ葬リ奉ル三世久經公ノ御時弘長四年御廣御改造四世忠宗公ノ御時正應六年ニ御廣御修治六世氏久公ノ御時延文六年ニ御廣御再興應安四年ニ御廣御修治八世久豐公ノ御時應永廿六年ニ御廣御修治十一世忠昌公ノ御時明應三年ニ御廣御改造ナリ箇様ニ或ハ御修治或ハ御改造ニテ御廣ハ恙ナカリケレトモ其間中比ヨリ内寇頻ニ起リテ三州瓜分シ往々ニ偶國多ク云々十五世貴久ニ及テ寇ヲ夷ケ難ク靖メ給ヒ舊物悉ク古ニ復シヌ十九世光久公ノ御時明曆二年ニ靈鏡一面ヲ御廣内ニ納給フ其後寛文九年ニ花尾拜殿舞殿御供所石ノ花表隨神門二王門等マテモ悉ク御改造アリ丹楹刻頗ル其美ヲ盡ス隨神門ノ額ハ公ノ親筆ニテ花尾山ト書シ玉ヘリ二十世綱貴公御時元祿二年ニ花尾廣ヲ御修理アリ二十一世吉貴公御時元祿十七年ニ又靈鏡二面ヲ納メ玉フ云々此社記天明中鹿兒島學校教授山本正誼記ス所ニシテ國守世々ノ崇敬及ヒ當社ノ盛衰ヲ知ルニ足レリト云ヘトモ惟宗廣言ヲ市來院ノ地頭職ニ補シ給ヘリトアルカ如キハ無稽ノ俗説ニシテ更ニ據所ナシ此事市來院ノ卷ニイフヘシ神官貴島甚兵衛家譜ニ先祖藏人源頼兼ハ兵庫頭賴政ノ外ニモ是枝氏成枝氏ナトイヘル者共ト世々大宮司職ナリシヨシ見ユ

△御供所 社ノ右十間許ニアリ

△鐘 樓 社前ノ左十余間ニアリ天和年中中山王尙敬寄進ナリ

△隨神門 社前四十間許ニアリ

毎年八月十二日祭日ニハ遠近ヨリ詣人夥シ原智村ノ農夫社前ニテ金鼓ヲ鳴シ舞躍ス諸人群觀ス

○八重山 此山ノ絶頂ヲ茄子背トイフ其名義知ルベカラス山上ニ神鋒ヲ建ツ霧島嶽ノ矛ニ擬シ彼神靈ヲ奉祀ス其年月傳ハラス秋葉ヲ祭ル

○麓川 水源八重山ヨリ出ツ數里ヲ經當郷東俣川ニ會シ神月川ニ入り鹿兒島ノ海ニ注ク

○東俣川 東俣村ノ内諸所ノ澗水合流シテ麓川ニ會ス

○祓川 花尾山中ヨリ出ル小川ナリ其水清鮮ニシテ花尾神社ノ右方五六歩ノ所ヲ流レ是ヲ祓川ト稱ス下流麓川ニ同シ

○丹後局並永金墓 社頭ヨリ己方二町許阜ノ上ニマリ局ノ墓ノ右側ニ永金墓アリ明曆中局ノ石塔ヲ窺フ者アリシニ塔中ニ赤蛇三ツ蟠リテ其形石塔ヲ加護スルカ如シ人皆恐レテ速ニ去リシトソ永金ノ石塔ニモサマ〜靈驗アリトイフ

○丹後局憩石 當社ヨリ六町許此方道ノ傍ニアリ石ノ井垣アリテ方六尺余ナリ

東俣村

○一之宮神社 奉祀 島津忠久 丹後局 惟宗廣言 祭祀二月三日 十一月三日

鹿兒島諏訪社ノ神主本田下總カ説ニ供奉ノ隨身七十二躰ナリトイヘリサレト左右二十六躰ツ、合テ神像五十二躰ナリ是ヲ以テ思ヘハ本田カ説信シ難シ皆輔弼元勳ノ良臣ナルヘキヲ其姓名ノ傳ハサルハ遺憾ノ甚シキナリ延徳三年辛亥三月廿七日棟札ニ當社者不ニ營一院之感應ニ寔是三州ノ所ニ信崇一也

肥前守藤原經安敬白トアリ經安ハ村田氏ナリ時ニ執政且此地ノ地頭職ニテ此年經安當社ヲ再造ス

文明六年甲午八月三ヶ國行脚廻聞ニ郡山仁村田肥前守經安當社ヲアリ其 一院ハ即チ滿家院闔境ヲ指シテ云ヘリ其頃奉行トアルハ執政也此書ノ原本ヲ未タ見ス舊史ニ見ヘタルヲ後ニ舉グ

後屢再興シ近クハ享保十一年丙午十月島津繼豐再興シ天明六月丙午ノ冬島津重年又是ヲ重興シテ神殿ノ莊嚴世ニ倍セリ

○近都神社 奉祀及ヒ創建詳ナラス同材油須木ニアリテ元祿五年正徳四年再興ノ棟札アリ 祭日二月五日

十一月五日

郡山村

○諏訪神社 祭神二坐鹿兒島諏訪社ニ同シ郡山ノ鎮守タリ 祭祀七月廿六日ナリ 社内ニ寄進ノ繪馬アリ背銘ニ村田右衛門藤原經成勸請再興天正十五年丁亥七月初四日眞木之山住權大僧都日譽ト記ス 山ハ舊法寺ナリ

○稻荷神社 天文五年ノ棟札ヲ納ム 祭祀九月廿九日 以上兩社創建ノ年月詳ナラス

川田村

○川田城 舊名馬越城トイヘリ往古川田氏元祖右衛門盛佐川田村ヲ領シテ家號トス始薩摩國宮里ノ郡司ニテ島津氏ニ屬ス第十二代駿河義朗ニ至リ世世居城ナリ今ニ塹礎ノ故跡及ヒ深サ二十尋余ノ古井殘レリ此古城ノ脇ニ舊洞源山川寺トイフ寺アリ川田掃部義立開基ス此寺ニ川田駿河義朗カ像ヲ安置ス甲冑ヲ帶シ白馬ニ騎レリ今俗勝軍地藏ト號ス

松尾城○彌五郎城此二城址郡山村ニアリ○陣之城○昆沙門之城此二城址東俣村ニアリ○聖之城西俣村ニアリ共ニ由緒詳ナラス

○川田飛泉 即川田村ニ在リ水源郡山ノ山中諸所ヨリ出ツ高三丈許幅三丈余ニテ水勢甚タ壯ナリ瀑布潭ノ深サ量ルヘカラス神月川ノ上流ナリ

四之卷 薩摩國

六三

器用 箸 椎木ヲ以テ製ス郡山ノ土民耕作ノ餘暇アレハ必ス是ヲ製シ世ニ鬻テ産業トス其多ク出ス
ヲ以テ縣内常ニ用ルニ足り邊境トイヘトモ至ラサルトコロナシ俗ニ郡山箸ト呼ヘリ

同郡

伊集院

鹿兒島縣廳ヲ距ル事西四里十八町余西ノ方市來ニ接シ南ハ日置吉利永吉伊佐谷山東ハ鹿兒島北ハ郡山
入來ニ接ス周廻十九里二十三町四十五間村落二十九下谷口村、上谷口村、春山村、福山村、清藤村、石谷村、依鹿倉村、
土橋村、竹之山村、中川村、嶽村、半生田村、有屋田村、郡村、龜重
村、上神殿村、下神殿村、桑畑村、野田村、寺脇村、宮田村、神之川村、大田村、飯平村、古城村、戀之原村、直木村、入佐村、草代川村、高
一万八千四百三十三石六斗六升四合五勺九撮十粒三千五百五十九人男千五百三十三人女千六百二十六人 奉千七十八人男五百四十一人女
五百三十七人平民一万三千九百一十八人男七千二百二十五人女六千七百七十八人惣人員一万八千三百三十八人戸數三千八百二十二戸 建久八年薩摩國圖田帳ニ伊集院百八十丁上神殿下
百七十六人惣人員一万八千三百三十八人戸數三千八百二十二戸 建久八年薩摩國圖田帳ニ伊集院百八十丁上神殿下
神殿桑羽田野田大田寺脇時吉末吉飯田土橋川俣谷口十萬飲奉禮松本等ノ村落今ニ至リ古名ヲ存セリ
但シ桑羽田ハ羽ノ一字今波ニ作レリ

嶽村

○上宮嶽 ジャウクウ 此嶽當郷第一ノ高山ナリ上宮嶽ト號クルハ往古山上ニ熊野神社アリテ上宮ト號セシニ因
テナリ

○熊野神社 紀伊國熊野社ニ同シ上宮嶽ヲ距ルコト辰ノ方十町許神ノ國トイヘル人家聚落ノ所ニ初
メ岳ノ絶頂ニ鎮座アリシトイフ創建及ヒ遷座ノ年月詳ナラス

○智賀尾神社 奉祀 陽神六坐 陰神六坐 正祭九月十九日

嶽村ニ在リ祭神男女合セテ十二坐ナリ神名及ヒ創建ノ年歴詳ナラス三代實錄曰貞觀二年三月廿日庚
午薩摩國從五位下智賀尾神授ニ從五位上トアリ昔同村餅川上ノ岡ニ鎮坐ニテ大社ナリシニ野火ノ爲
ニ社殿燒亡ス其後今ノ地ニ遷坐アリシトイノ神体背ニ永正三年丙寅四月吉日ト誌シ又棟木ニ同五年
奉ニ新造智賀尾六所權現社一字トアリ遷坐此時ナルヘシ

○神之川 カンノ 水源ハ嶽村ノ山中及ヒ郡山郷ノ内ヨリ出ツ當郷數村ヲ流シ谷口川清藤川長谷川等ノ諸川
ト會流シテ大河トナリ神ノ川村ノ海ニ入ル

寺脇村

○陶器製作所 此一村朝鮮歸化ノ種裔一村ヲ成セリ此地區ハ壺店ツヤトモ呼フ此蕃人陶工ヲ善クシテ
壺瓶ノ類ヲ製スルニ巧ミナリ故ニ壺店ノ名ヲ得土人ヲ壺人トモ呼ヘリ

抑此蕃人コ、ニ來ルヤ豊臣秀吉公征韓ノ役ニ慶長三年十月朔且島津義弘息家久泗川新塞ニテ大ニ明
車ヲ破リ首ヲ得ルコト三萬八千七百十七級其耳ヲ切テ皇朝ニ送ル既ニシテ凱旋ノ日歸降ノ朝鮮人二
十二姓 單性單姓李羅姜金李黃張林車朱盧河陳白沈丁崔甲等ニテ今遺レルモノ十有七姓申李下姜鄭陳車林白朱崔沈盧金河丁朴
是ナリ其他ノ二姓ハ琉球國王ノ乞ニ因テ琉球ニ遷ル陶器ノ製ヲ傳ヘシメムカ爲ナリ其他ノ三姓ハ亡ヒ又俗ニ苗代川人或
ハ壺人トモ云フ 男女八十餘人ヲ卒ヒ來リ初メ申木野ニ置ク即着船ノ地ナリ後鹿兒島ニ分住ス 申木野下名村ニ
其遺跡アリ舊壺

店ト呼フ鹿兒島ハ今其舊跡武村ニア 慶長八年ノ冬申木野ヨリ今ノ地ニ移シ又寛文九年鹿兒島分居ノ者モ同
リテ高麗町ト呼フ或ハ三韓トモイフ シク當地ニ移ス此徒繁榮シテ今ハ數百戸ニ及ヒ素ヨリ國語ニ習フトイヘトモ猶韓音ヲ傳ヘ容姿服制
ノ如キモ猶舊俗ヲ存ス此徒地高クシテ水ナシ井ヲ堀ルコト凡二十七八尋餘ニシテ皆車井ナリ寶永元
年三十餘戸男女六十人ヲ分チテ大隅國鹿屋郷笠野原ニ移ス古ヨリ朝鮮瓷器ノ製法ヲ傳ヘ是ヲ業トシ

ヲ生活ヲナスソノ製作ノ形狀左右ノ足ニテ陶鈞^{ロッコ}ヲ轉シ兩手ヲ働シテ陶器ヲ製ス其ノ自在ナルコト目ヲ醒サ、ルハナシ又近代ハ尾張肥前立野等ノ傳ヲモ發明シ細カニ手ヲ盡シ金泥ヲヨク用ヒ大小花瓶ノ類及ヒ人物獸類ノ置物等ノ細工所謂錦泥ニシテ其品頗ル上品ナリ又朝鮮傳來ノ神舞及ヒ鶴龜舞アリ音樂歌謠^ハノ節ヲナス其神舞ハ男子手ニ神刀ト鈴^{朝鮮語ニ神刀ナシシカトヲ持チ靜ニ立テ舞蹈}シ壽ヲ祝ス鶴舞ハ數十人單列廻旋シ翔ルカ如ク舞カ如ク起伏ノ象ヲナシ進退度アリテ淳朴ナリ樂器咸朝鮮ヨリ携ヘ來リシモノニテ唯其吹曲ノ如キハ笛ノ類ヒニアラス樹木ノ嫩葉ヲ用フコレヲ唇ニ當テ吹ニ其聲笛ノ如シ

○玉山宮 苗代川ニアリ世ニ高麗神ト號ス然石天慶長ノ年飯化ノ朝鮮人ヲ初メ串木野ニ居ル事八年ニシテ苗代川ニ移リ十年ノ頃ニ至リ朝鮮國宗廟ノ神ヲ創建ス始ノ社ハ雷火ニヤケテ後ノ勸濟年紀等審ナラス祭神ヲ檀君トイフ按スルニ東國通鑑ニ朝鮮國當初無ニ君長一有ニ神人一降ニ于檀木下一國人立爲レ君是爲ニ檀君一國號ニ朝鮮一唐堯時也初都ニ平壤一後徙都ニ白丘一至ニ高麗武丁八年一入ニ阿斯達山一爲レ神周武王封ニ箕子於朝鮮一都ニ平壤一教ニ其民一以ニ禮義田蠶織作一也本名ニ馬韓辰韓下韓一謂ニ之三韓一是則百濟高句麗新羅也既而高麗王建爲ニ三韓統一後至ニ李成桂一復改名ニ朝鮮國一ト見ユ箕子ノ靈ハ別ニ當所雪ノ山丸尾山等ニ於テ春秋祭祀ヲナストソ然レハ當庶ハ檀君ヲ祭ルコト必セリ此他叢祠甚多シ悉田緒詳ナラス

谷口村

○諏訪上下神社 土人傳説曰嶋津家九代嶋津忠國當所ニ鷹狩ノ時信州諏訪神官ノ族中島宮内小輔ト云シモノ諏訪ノ神體ヲ負ヒ來リ土橋村町田原ノ松下ニ憩ヒタルヲ見テ忠國命ニヨリテ即テ彼地ニ鎮

坐アリケルヲ爰ニ遷坐アリシトイフ一説ニ嶋津忠國ニ非ス伊集院忠國ナリトイフ伊集院氏第四世ニ下條城社ニ詳也又地頭館ヨリ辰ノ方六町餘別ニ諏訪社アリ是ヲ古來傳ヘテ伊集院忠國石谷村ヨリ遷祀スル所トシテ古諏訪ト稱ス故ニ兩説ヲ記シテ來哲ノ辨ヲ候ツ當郷ノ總領守ニシテ例祭七月二十八日ナリ

○稻荷神社 奉祀 倉稻魂命例祭十一月十五日

同村上之平ニアリ天文五年丙申三月七日十五代嶋津貴久ノ父嶋津忠良當郷本城ヲ攻ム時ニ大田村小峰ノ尾ニ陳シ從臣本田石見房慶俊ヲシテ稻荷ニ冥助ヲ禱ル時ニ本城ノ後根木口ト云所ニ狐火ノ奇瑞アリテ城忽チ陥ル故ニ同年四月二十一日慶俊ニ命シテ創建シ鏡ヲ以テ神牀トス

○多賀神社 奉祀 伊弉誤命 同村内田坊ニ在リ内田坊ハ舊寺社ニテ今地名ニ呼ヘリ元龜元年庚午二月嶋津貴久創建ナリトイフ

○古諏訪神社 奉祀信濃國諏訪神社ニ同シ初ス石谷村ニ鎮坐アリシヲ伊集院忠國コ、ニ遷祀スカクテ當邑總社ノ諏訪社ハ嶋津忠國土橋村ニ創建アリシテ後今ノ地ニ遷セリ故ニ當社ハ古ノ宇ヲ加ヘテ其稱ヲ分ツトイフ

猪鹿倉村

○熊野神社 奉祀三坐 伊弉並命 事解男 速玉男神祭祀六月十六日本城ノ東十町許ニアリ島津忠久初テ薩摩國ニ下向ノ時洋中ニマヒテ逆風ニ逢ヒ舟危ク誓願アリテ伊集院日置浦ニ着船ス因テ創建アリシトイフ日置ハ今一郷タリトイヘトモ昔ハ伊集院ノ内ナリトイヘリ日置ニ帆漚アリ忠久着船ノ舊蹟ナリトイヒ傳フ

土橋村

○福島神社 足利義教將軍弟僧尊有カ靈ヲ祭ル例祭三月十三日本社ハ日向國福島ニ在リ尊有僧トナリ京師大覺寺ニ任シテ潛ニ叛ヲ計ル發覺シテ日向櫛間院ニ潛居ス櫛間ハ福島ノ古名ナリ嶋津忠國義教ノ命ニテ諸臣ヲ遣シ嘉吉元年五月十三日僧宥ヲ櫛間院養徳寺ニ殺ス是ヨリ櫛間ニ怪異アリ邑人尊宥ノ崇リナリトテ社ヲ立テ其靈ヲ祭リ神祇權大副從二位吉田兼供ニ請ヒ 後土門天皇勅アリテ福島大明神ト號ス志布志山口某所藏明應八年五月十六日ノ福島大明神緣起ニハ此神號勅賜ノ年號明應七年九月廿五日ト見ユ當社ハ石谷伊賀梅吉嶋津立久ノ命ニヨリ伊佐河内久逸久逸ハ立久ノ第三子ニシテ伊作家ノ嗣トナリ是時櫛間ニ鎮タリ從テ櫛間ニ在リ時ニ此神ヲ崇敬シ又明十七年歸來ノ後コ、ニ迎祀セリトイフ梅吉當邑石谷村及ヒ當村ノ内町田ヲ領セリ梅吉カ子孫町田ヲ家號トス一説ニ祭神大山祇命木花開耶姬命ナリトイフ是ニ因レハ尊宥ハ後ノ會祭ニテ右ノ社號ハ異ナリケン今傳ハラズ

大田村

○八幡神社 奉祀 大友天皇 例祭十一月二十日

當村城山ノ東南半腹ニアリ橋口兼弘建立ス年月詳ナラス兼弘ハ大隅國肝付ノ領主肝付氏ト同族ニテ大友天皇ノ後裔ナルヨシイヘリ因テ建立セシナルヘシ肝付ヲ天皇ノ裔尊ナリトイヘル説説リサテ當社ヲ八幡ト唱ルハ其理リ聞ヘサレハ往古ハ別ニ社號アリシヲ後世誤リシナルヘシ此類イト多シ薩摩國水引郷新郷鹿兒島神社共ニ八幡トイヘルハ後世訛レルナリ兼弘始同卿麥生田村ヲ領シ彼地ニ建立シテ五社ノ一ツナリシヲ慶長七年壬寅ノ年橋口兼持此所ニ遷ストイフ

○一字治城 本城或ハ鐵山トモ號ス曆應三年八月伊集院長門忠國嶋津氏ニ反シテ當城ニ據ル五氏嶋

津貞久是ヲ討テ當城ヲ拔ク忠國平城ニ走ル平城ハ當城ノ中ノ一郭ナリ四年八月及ヒ康永元年八月貞久平城ヲ攻ム忠國固ク守テ下ラス寶徳二年二月九代島津忠國之ヲ攻ム伊集院大隅熙久忠國ヨ肥後國ニ遁ル大永六年十二月十四代嶋津勝久當所ヲ嶋津相摸藤良ニ與フ七年叛臣出水領主島津八郎左衛門實久是ヲ襲フ時ニ忠良大隅加治木ニアリ城兵戰ヒ利アラヌ實久遂ニ城ヲ拔キ町田中務久用町田ノ宗家ハ下條ニ命シテ當城ヲ守ラシム忠良人ヲ遣シ是ヲ諭スト云ヘトモ從ハヌ天文五年三月七日忠良其子貴久ヲ將トシテ一千餘ノ兵ヲ率ヒ遂ニ當城ヲ拔キ同十四年貴久田布施城ヲ去テ當城ニ移リ十九年庚戌十二月又鹿兒島ニ從ル

石谷村

○石谷城 イシヤニ 城中三郭ヲ分ツ大永天文ノ際島津實久是ヲ領シ石谷伊賀梅吉ニ命シテ守ラシム天文五年梅吉ノ子長門忠榮密ニ貴久ニ書ヲ送リテ内應ス實久忠榮カ異心アルヲ察シ其黨大寺壹岐資安ヲ遣シ忠榮ト共ニ城ヲ守ラシム十二月七日曉忠良衆ヲ遣シテ資安ヲ擊シム貴久又橋口市左衛門兼弘ニ奇計ヲ示シ急ニ城ヲ攻ム兼弘長鎗ヲ執リ先登シテ遂ニ資安ヲ刺殺ス其後石谷氏數世城主ナリ其祖先嶋津忠時第七子常陸忠經ノ第三子町田五郎太郎光ニ出ツ忠光ヨリ十世出羽高久石谷村ヲ領シ石谷ヲ家號トス福嶋神祠ノ條ニ見ヘタル石谷梅吉ハ高久孫ニテ梅久ハ梅吉ノ子ナリ梅久子忠榮ニ至リ氏ヲ町田ニ復ス

麥生田村

○麥生田城 連山ノ中ニ兩郭東西ニ相並ヒ四方各壕塹現存シ相距ルコト半町余ナリ里俗東ヲ上陣西

ヲ下陣ト唱フ東西ノ麓ニ麥生田川西流ス神ノ川上流橋口兼弘居城ナリ橋口氏系圖ヲ按スルニ兼弘ハ大隅國肝付ノ領主肝付河内伴兼石ノ第二子肝付兵衛兼市ノ裔胄ニテ兼市日向三俣院郡司職ナリ故ニ三俣トモ號ス兼市嫡嗣ヲ肝付八郎兼重トイフ聖榮自記ニ兼重ヲ世ニ三俣殿ト稱セシトアリ肝付氏祖先ハ鹿兒島伴椽ノ館所ト高山本城トヲ參考スヘシ累代肝付ヲ領ス兼重ヨリ五世備前清兼五世ハ兼重兼幸兼元次兼清兼三子アリ長男孫市郎兼如蚤ク卒ス次ヲ孫市左衛門トイフ第三子ハ當邑妙圓寺ニ入テ僧トナリ覺雲ト號ス特ニ文明十八年丙午ノ歲孫市左衛門日向飢肥ニ於テ戰死ス是ヲ以テ清兼世嗣ナシ因テ躬自カラ妙圓寺ニ至リ覺雲ニ命シテ歸俗セシム覺雲猶豫シテ決セス清兼肝付ニ歸リ遂ニ卒ス住持是ヲ聞キ覺雲ニ類ニ歸俗ヲ勤ム是ニ於テ覺雲還俗シテ清兼カ統ヲ續キ備前兼廣ト號シ當邑上神殿村橋口ニ住居シ家號ヲ橋口トイフ兼弘ハ兼廣ヨリ四世ナリ四世ハ兼廣兼合兼吉兼弘ナリ前章ニ貴嶋津貫久ニ仕ヘ數密旨ヲ奉シテ軍機ヲ助ク天文五年丙申十二月七日石谷ノ軍ニ兼弘功アリ見ユ貴久陣刀一口ヲ與ヘ又麥生田村ヲ與フ是ヨリ當境ニ移ル永祿七年甲子嶋津義弘日向國境眞幸院ニ移ルニ及ヒテ智勇ノ士六十人ヲ撰ミテ是ニ從ハシム兼弘其一人ナリ時ニ元龜三年壬申五月義弘伊東修理大夫義祐カ軍ヲ眞幸院木崎原ニ破ル時兼弘進軍シテ獲首算フヘカラス遂ニ以テ陣沒ス木崎原合戰傳記ノ實錄ニ伊東勢ヲ木崎原ヨリ太刀洗川ノ間ニテ悉ク討取云々其時橋口市左衛門名譽ノ手柄多シ余多ノ敵討取則チ戰死ス云々トアリ其子ヲ彌一郎兼元トイフ天正十四年丙戌ノ歲嶋津義久嶋津中務大輔家久ヲシテ豊後ノ大友左衛門尉義鎮討シム兼元是ニ從フ既ニシテ豊後ノ敵城陥リ十二日十二日豊後ノ利瀾城ヲ攻ム兼元先登シ堅ヲ破リ衆ヲ突キ敵餘多斬殺シテ遂ニ戰死ス其子土佐兼持トイフ慶長四年己亥ノ歲日向莊内ノ領主伊集院源次郎忠眞謀反ノ時嶋津家久ニ從ヒ軍功アリ兼弘ヨリ兼持ニ至リ諸所ノ軍務ニ勞シ忠績アルニ依リ家久宅地ヲ與ヘテ鹿兒島ニ移ス爾來昆裔鹿兒島ニ蔓

衍セリ

竹之山村

○長崎城 嶋津實久カ黨肥後大和盛治居城ナリ天文六年丁酉正月嶋津忠良是ヲ攻ム入來院彈正重聰師ヲ帥テ是ニ會ス忠良ノ軍兵勢ヒヲ得テ攻撃ス守將盛治以下十余人戰死シテ城陥ル當城ヨリ北三町許ニ小迫越トイヘル所ニ高キ砦ノ跡アリ盛治戰死ノ跡ナリ側ニ松樹二本ヲ栽テ標トス

古城村

○内 城 侍從房俊忠居城ナリトイフ俊忠ハ嶋津忠時第三ノ子嶋津常陸守忠經ノ第八子ニテ初メ僧トナリ後還俗ス其子久兼ニ至リ伊集院ヲ家號トス

戀之原村

○爲朝原 鎮西八郎爲朝八丈島ヘ配流ノ後爰ニ遊歷シテ住居ノ蹟ナリト云フ事實詳ナラス

清藤村

○遠射蹟 街道ノ南ノ傍ニアリ陸田ニテ地名ヲ大迫畑ト云フ嶋津家久玉川伊豫伊豫ハ浮田秀家ノ家臣ニシテ弓ノ達人ナリ後島津家ニ事フ事ハ手根ノ卷秀家ノ宅地ニ詳ナリヲシテ二箭遠矢ヲ射サシム伊豫ハ日置流射術ノ名人ナリ三町五十八歩ヲ過キテ止レリ其箭ヲ發セシ所ニ杉樹一株ヲ植ヘ今一本杉ト呼ヒ箭ノ止リシ所ニ同シク杉二株ヲ植ヘテ二本杉ト呼ヘリ

物産

器 用 陶器苗代川ニ於テ製ス上章ニイヘルカ如シ

藥品 枳實、桂、柴胡、忍冬花、瓜品實、蜜、芍藥、山菓、梨、柿
樹木 榿、漆、楮
飛禽 雁、鳩、鴻、鴈、秧雞、
走獸 野猪、鹿、狸、兔
鱗介 鯛、鱒、方魚、香魚、鰻

同郡

永吉郷

當郷ハ元日置郷ノ内ナリ建久八年薩摩ノ國圖田嶺北郷云々日置南郷云々トアリ其北郷ハ今ノ日置ニシテ南郷ハ即チ日置ヨリ吉利邑ニ直レリ天文二年當邑ヲ永吉ト名ケ島津中務忠榮カ將領ナリ按スルニ慶長十九年忠榮始テ是ヲ領シ爾來某代傳領ス忠榮ハ中務大輔豐久ノ嗣子ナリ豐久乃父ハ義弘ノ季弟ニテ中務家久ト云慶長五年關ヶ原ノ役ニ豐久義弘ニ從ヒ先隊ニ將タリ屢奮戦シテ死ス同九年中納言家久忠榮ヲシテ豐久ノ後嗣トス忠榮ハ喜入攝津忠續ノ長子三郎四郎ナリ

鹿兒島縣廳ヲ距ル事西七里十八丁ナリ北ハ吉利ニ接シ東ハ伊集院南ハ日置伊作ニ界ヒ西ハ海岸ナリ
周圍七里九町七間村落一 村 永吉 高二千三百六十五石七斗六升二合余士族千九百八十五人内男千六十九人女九百十六人卒三
總計四千二百二十七 村 百八十五人内男百九十七人女百八十八人平民千八百五十七人内男千八百五十七人女八百五十七人人員
人總合戸數八百十九

永吉村

○久多嶋神社 神体男二坐女三坐部テ六坐
ヲ安ス共ニ縉紳ノ像ナリ

祭神及 創建ノ年日詳ナラス俗説云天智天皇ノ皇后牧聞嶽ノ麓ニ下向ノ時當所海上ニテ皇女誕生アリシヲ捨ラレシニ忽チ大岩湧出ス故ニ其皇女ヲ崇メシトイフ 俗傳ノ儘 其嶋陸ヲ距ルコト三里土人沖ノ久多嶋ト唱フ 島ノ廻リ凡十町余 正祭九月九日ナリ此日農民等大少船數十艘ヲ浮ヘテ沖ノ久多嶋ニ參詣ス又三

年ニ一回九月九日ナリ三日ノ間天氣平和ノ日ヲ撰ヒ當社ノ神輿久多嶋ヘワタリ嶋ニ於テ祭祀ノ禮ヲ行ヒ往來船中神樂ヲ奏ス當村ノ總社ナリ

○黒川神社 黒川ハ地名ナリ 祭神審ムカシ當邑坊野門ノ農夫肥後國ヨリ奉シ來リテ初メ當社ノ傍ナル石洞ノ中ニ安置セシヲ岩洞崩レ今ノ地ニ還セリトイフ 文明三年二月十六日造立ノ棟札ニ大且那藤原忠俊大宮司能勢彦左衛門ト誌シタリ土人はヲ能勢權現トモイフ嚮ニ當社ヲ守リ來リシモノ、後裔今ニ坊野門ノ農夫ニシテ世々社司タリ往古ハ能勢氏ヲ冒セシトソ

○稻荷神社 島津貴久桑波田孫六カ南郷城ヲ攻メケルトキ誓願ニ因テ創建アリシト云フ例祭十一月三日トス

○南郷城 當郷ハ舊南郷ノ内ナリ故ニ南郷城ト呼ヘリ大永六年丙戌島津勝久南郷ヲ島津忠良ニ加増アリシ時ニ城主桑波田孫六 按スルニ孫六カ先桑波田萬揚坊覺辨南郷ヲ領シテ勝久ノ命ニ應シ南郷ヲ島津忠良ニ讓ル即チ孫六ニ命シテコレヲ守ラシム是ヨリ忠良ノ麾下ニ屬ス其後孫六當城ニ據リ叛シテ島津實久ニ黨ス忠良是ヲ討ムコトヲ謀ル然レトモ孫六能ク守テ間ヲ得ス盲僧了公ニ命シテ敬ノ動作ヲ聞シム孫六衆ヲ卒ヒ城外ニ狩ス了公忠良ニ告ク 一説ニ伊作士門松綱左衛門コレヲ聞テ告クトイフ 忠良竊ニ軍ヲ發シ南郷ヲ襲フ桑波田河内式部迎ヘ戰テ死ス城陷ル忠良城ニ入り兵ヲ遣シテ孫六ヲ追フ天久二年祭己三月廿九日ナリ是ニ於テ當邑ヲ永吉ト改ムカクテ是ノ年八月十四日家臣園田五兵衛潛ニ島津實久永吉ヲ襲ントスル由ヲ告ク忠良即チ貴久ヲシテ當城ヲ守ラシム實久是ヲ知ラス鹿兒島ノ軍ヲ卒シ當城野頸ヲ襲フ忠良五十餘兵ヲ卒ヒ急ニ進ミテ其後ヲ撃チ貴久城中ヨリ突出シテ其前ヲ撃ツ實久前後ヲ顧ルコト能ハス數十

人ヲ擊レ遷レテ鹿兒島ニ歸ル

○本川 水源伊集院春山村ヨリ出テ當郷ニ入り高田川原口川ノ兩水會流シ稍大河ト成リ此所ノ海ニ入ル

○高田川 水源伊集院直木村ヨリ出ツ

○原口川 水源伊集院入佐村ヨリ出ツ此兩川本川ニ會スルコト右ニイヘルカ如シ

○八幡神社 舊西定院愛實寺ノ址ニアリ創建ノ年月及ヒ祭神詳ナラス例祭二月五日十一月五日神體古キ板ニテ裏ニ文明六年甲午五月廿四日建立ト記シタリ往古此ノ所ノ宗社ニテ神輿濱下リ及鑄流馬リシトソ又當社ヨリ海濱ニテ數十丁ノ間ニ馬立馬庭及ヒ市來ナト唱フル地名アリ往古祭日ニ市店ヲ設ケシ遺跡ナリトイフ

同郡

吉利郷

小松某舊領ナリ其祖平清盛ヨリ出ツ累世大隅根占ヲ領ス十七代清盛ニ至リ文祿四年太閤秀吉公ノ命ニ依リ三國田地經界更正ノ時轉シテ當邑ニ徙リ爾來世々是ヲ領セリ根占ハ稱寢ノ字ヲ用ユ因テ前ニハ稱寢ナ家號トセリ二十四代清香ニイタリ小松ニ改ム

鹿兒島縣廳ヲ西ニ距ル事七里北ハ日置ニ接シ東ハ伊集院南ハ永吉西ハ海ニ對ス周廻五里三十五町二十間村落一吉利村

高二千二百二十三石二斗二升三合余士族九百五人男四百六十八人 女四百三十七人卒四百一十一人男二百九人 女二百二人平民千七百五

十一人男九百三人 女八百四十八人人員總計三千六十七人總戶數六百四十

吉利村



○御靈神社 創建ノ年月詳ナラス木坐像八体ヲ安置ス例祭九月十一日ナリ相傳ヘテ祭神鎌倉權五郎

ナリトイフ其他詳ナラス景政ハ相摸國鎌倉權頭景成カ一子ナリ後三年ノ役ニ鳥海彌三郎景政カ右ノ

眼ヲ射ル景政其矢ヲ拔スシテ彌三郎ヲ追ヒ遂ニコレヲ射殺セリ此事人口ニ膾炙ス和漢三才圖會出羽國島

ナ引キ景政カ目ヲ射シハ鳥海彌三郎ニアラフストアリ其實ヲ知ラス當所鳩野門ニ農夫アリテ此レヲ鎌倉ヨリ奉シ來レルモノ、苗裔ナリトテ

當社ノ祭祀ニ與カルカクテ此ノ農夫カ家代々偏盲ナリトソ和漢三才圖會ニ相摸國御靈社在ニ鎌倉一祭

神權五郎景政云々今俗悲眼病人祈ニ當社ニ有レ効ト見ユ同書出羽國鳥海山權現ノ條ニ俗傳曰云一有

川鎌倉權五郎景政云々被レ射ニ右眼ニ放ニ答矢一射ニ殺敵ニ後拔レ鐵至ニ此川ニ洗レ眼云々此川有ニ黃鰐魚一

眼眇也トアリ又大隅國菱刈郷ニ御靈神社アリテ祭神景政ナリ眼病患ル者當社ニ祈リ効アリトイフ本

田親盈薩摩神社考ニ一說本社山城國御靈社トイヘリト記セリ山城國御靈社ハ神社啓蒙本朝神社考等

ニ載セテ祭神八坐崇道天皇伊與親王藤原太夫人吉備公文屋宮田丸橋逸成藤原廣嗣火雷神トス是當社

ノ神体八坐ト云ニ符合セリ然レトモ土人ノ傳説ハ右ニイヘルカ如シ當邑ノ總鎮守タリ

○平野神社 同村城屋敷ニアリ祭神山城國平野同國久度社ナリ元祿十一年邑主小松丹波平清雄建立

ストイフ

○稻荷神社 奉祀瓊々杵尊倉稻魂命ニ坐ニテ平野神社ノ左側ニアリ小松氏累世崇敬シテ舊領根占ニ

在リシヲ寶曆三年癸酉六月小松帶刀清香當所ニ遷セリ例祭二月初午ナリ

○鬼丸神社 勝手ヶ城ニアリ祭神小松氏ノ祖稱寢右近太夫重長ナリ神鏡ノ背ニ鬼丸大明神天正八年庚辰三月十六日云々ト銘ス重長沒

後屢靈威ヲ顯ス故ニ建立セシトイフ初メ舊領小根占ニ祭レリ文祿四年重長ノ子重張轉シテ當邑ヲ領

スルニ及ンテコ、ニ遷セリ舊領小根占ニモ猶是ヲ祀レリ三月十一月共ニ十六日ヲ祭日トス

○建部神社 奉祀大己貴命鬼丸神社ノ南側ニアリ小松氏ノ始祖平清重舊領小根占ニ建立シテ家ノ神トセシヲ重張當邑ニ移リ此地ニ遷祀ス事ハ小根占ノ卷ニ詳ナリ

○日枝神社 鬼丸神社ノ北側ニアリ祭神近江國日吉神社ニ同シ小松氏累代崇仰シ舊領小根占ニ奉祀セシヲ當邑ニ移セリ每歲二月十一日初申ヲ以テ祭日トス

○帆神社 例祭二月十一月共ニ二日ナリ里俗云昔時當邑ノ洋中ニ於テ異國船破損ス其帆虛空ニ飛揚シ此所ニ落ツ種々靈異アリシニ因テ神ニ崇ムトイフ

○池王神社 神休唐人衣冠ノ木像三体ヲ安置ス 祭日二月十一月共ニ初酉ノ日ナリ同村ニ池アリテ俗ニ帆見ズガ池トイフ其傍ニアリ此所今海ヲ距ルコト三町許ナレトモ往古ハ海灣ニシテ湊ナリシトイフ異國ノ兵船此處ノ洋中ニテ覆没シ軍兵悉ク溺死ス其將三人ノ靈ヲ祀ルトイフ

○領家宅地 此地舊記ヲ按スルニ往古日置北郷ノ境ニテ公家武家ノ領地其界ヲ接シ公家領ニハ領家政所ヲ置キ武家領ニハ地頭所アリシナリ野經ノ上ニ領家宅地ノ遺蹟アリテ今陸田ナリ地名ヲ里俗道上下呼フ地頭所ハ領家宅地ヨリ北方半町許ニ地頭所門トイフアリ此所ナリトイフ領家トハ宇治關白頼通公ナリ

○勝手ヶ城 由緒傳ハラス

地理纂考四之卷 畢

薩隅日地理纂考五之卷

薩摩國

日置郡

申木野郷

當邑ハ日置郡ト薩摩トノ兩郡ニ係レリ上名村荒川村ハ日置郡ニ屬シ其ノ村ハ薩摩郡ニ屬ス往古ハ上名村荒川村ト薩摩郡ニ隸ケリト見ヘテ當邑冠嶽項峯院藏承久二年永仁五年等ノ文書ニハ薩摩郡ト記セリ

鹿兒島ヨリ成ノ方九里餘東ハ樋脇郷ニ接シ南ハ市來西ハ高江郷北ハ永利限ノ城ニ接ス周廻十三里二十九町一間村落四上名村下名村荒川村荒川村羽島村高八千二百四十七石五斗二升八合余士族千五百九十三人内男七百九十九人女七百九十四人卒二十人内男十二人女八人平民一萬四千二百九十三人内男七千三百人女六千九百九十三人人員總計一萬五千九百六十六人總合戶數三千三百二十

上名村

○冠嶽 カウリメケ 三岳アリテ東ハ入來郷南ハ市來郷西北當郷ニ屬ス東岳中岳西岳ト云東岳高五十余間中岳高二十間西岳高六十余間ナリ西岳ノ形狀風折烏帽子ニ似タリ土俗三岳ヲ併セテ冠岳ト稱ス一説ニ孝元天皇ノ御世秦徐福來リ玉冠ヲ留メシ故ニ名ヲ得タリトイフ此事鶴田郷紫尾ノ神社ノ卷ニ詳ナリ

○熊野神社 東嶽中嶽西嶽ノ三ヶ所ニ在リ祭神紀伊ノ國熊野社ニ同シ例祭年中六度正祭並ニ九月九日ナリ創建ノ年月詳ナ

ラス此地鎮國寺頂峰院トイヘル眞言ノ寺ニテ土人相傳ヘ用明天皇ノ勅命ニ因リ蘇我馬子宿禰建立セ
 リトイフ山中怪巖奇峰多シ東岳ヨリ西二町余ニ仙人岩アリ高サ二十余間西北絶壁ニテ削成セルカ如
 シ東南ハ樹木繁リテ其蔭ニ發路アリ絶頂ハ二十間横十間許平面ニシテ中史ニ小池アリ堅二尺横一尺
 五寸深一尺許水瀦テ四時増減ナシ硯ノ水ト名ツク童子此水ヲ以テ書ヲ習ヘハ筆ヨク進ムトイフ又中
 岳ヨリ西十丁余ニ怪岩アリ高サ三十間許ニテ地ヨリ十間許ノ處ニ洞窟アリ潤サ五間深サ三間高サ一
 丈許ニテ中ニ小祠アリ大岩戸權現トイフ霧島開闢彦山等ノ數坐ヲ奉祀ス是ヨリ又西十丁許ニ材木嶽
 アリ巖石襲重シテ材木ヲ積メルニ似タリ或ハ鬼ノ材木トモイフ此類ヒナホ多ケレト例ノ妖僧カ付會
 ナレハ皆畧シヌ此山天狗ノ栖所ニシテ怪異一ツナラス山上ニ火燃ヘ或ハ螺ヲ吹キ鉦鼓ヲ鳴シ或ハ山
 岳崩レ大木折ル、カ如キ音スル折々アリトイフ

頂峰院什寶 文書一通 島津忠宗異國降伏祈禱ノ事 承久二年申木野三郎平忠道忠道ハ此文書ニ薩摩國薩摩郡内串木村領
 主ト 一同通 壽永 年地頭椽大前宿禰花押大前氏ハ往古 答院等ノ郡司 一同通 寶元四年惣地頭兼郷地頭
 代左兵衛尉花押一同通 文明十四年藏人頭右中辨藤原元囚花押文書ノ旨皆佛事ニテ 爰ニ用ナケレハ畧ス 此外文書若干通アレ
 ト其古キヲノミ舉テ其外ハ畧シツ

異國降伏祈禱文書左ノ如シ是蒙古退治ノ 時ノ事ナリ

異國降伏御祈事去十月廿七日關東御教書今月廿日到來案文如レ此如レ狀者薩摩國一宮國分寺宗神社殊
 可レ致ニ精勤ニ之由相ニ觸レ之可レ令レ執ニ進卷數一畢者任レ被レ仰下之旨上可レ被レ致ニ御祈禱忠候仍執達如件
 正應五年十二月廿一日 左衛門尉花押

冠嶽別當住僧門中

釋 桂 庵

文明戊戌孟夏十有一日子隨ニ太守ニ遊ニ冠岳教寺ニ境佳而人傑也山冠又號レ仙昔秦徐方士駕ニ樓船ニ而求ニ
 藥於蓬萊之仙府ニ始來ニ于此地ニ脫ニ彼衣冠ニ而著ニ我釋服ニ遂相レ收以栖止焉山之巔有レ水可レ浸レ手雖ニ霖
 潦之夏、不レ添ニ其深、早亦無ニ曾乾ニ靈異匪一或以爲ニ蓬萊ニ殆不レ妄者乎今也不ニ營入ニ此佳ニ剩陪ニ貴遊
 之席ニ寔千載ニ一遇也不レ堪ニ觀拊之至ニ謹製ニ里語三章ニ爲レ記焉

徐福會下從海外上來 初知日域是蓬萊 仙園花木春常在 祝得邦君萬壽盃
 仙藥花 飛絃管樓 滿筵佳士喜清遊 主人有德境愈顯 一嶽高擎冠九州

從一神人來脫冠 仙工景象遠天壇 層巒萬丈絶巔水 雨不添深旱不乾
 冠岳薩之麗地也峻巖峭拔其巔貯一水清而窪者恰似硯池之形雖歷淫雨甚旱未嘗視其有乾溢一
 胥傳曰稚子幼童之學字也掬以供硯滴則無不能書者一故水名鳴海内一不亦奇哉山之主席作詩
 見示仍廣韻且述故事一

日上高巖宿霧開 連空青壁絶梯媒 兒童學字硯池水 筆下龍蛇送雨來
 ○串木野城 建久年中薩摩六郎忠直カ第三子串木野三郎忠道串木野ヲ領ス忠直ハ平姓ニテ川邊領主
 平次郎道房カ弟穎娃三郎忠長ト同姓ナリ累代國命ニ應セス忠道ヨリ第五代薩摩七郎忠秋ニ至リ島津
 貞久當城ヲ拔ク忠秋ハ知覽ニ遁ル文和四年九月二日阿多北方ノ領主鮫島蓮道知覽忠世忠世ハ忠秋ノ弟也等三條
 泰季ニ從テ串木野城ヲ攻ム島津師久知色城出水ニ在リ去年 師久此ヲ拔クヨリ兵ヲ引テ來リ救フ連戰五日遂ニ是ヲ破

リ走ラス此時家臣猿渡信重戰死ス島津立久ニ至リ川上又八郎忠塞ニ串木野ヲ與ヘ當城ニ移リ忠塞ノ孫上野介忠克カ時出水城主島津實久ニ屬シテ島津ニ反ス天文八年六月島津實久是ヲ伐ツ八月忠克降リ既ニシテ元龜元年島津中務家久ニ限之城ヲ與ヘ串木野ヲ管轄セシム天正七年家久日州佐土原ニ移リ其後地頭ヲ置ク舊記或ハ備木野ニ作ル

○舊壺屋 慶長四年ノ冬島津義弘朝鮮ノ降卒數十人ヲ率ヒ來リ始メ此所ニ居所ヲ與ヘ同八年ノ冬伊集院苗代川ニ移ス因テ此所ヲ舊壺屋トイフ

○芹ヶ野金山 寛永十七年金山ヲ幕府ニ請ヒ大隅ノ國横川ニ始テ建ツ其後國中諸所ヲ試ミ又此芹ヶ野ニ金山ヲ建ツサレト年ヲ逐テ金乏シ因テ天和ノ初メ是ヲ罷テ鹿籠金山ニ移スサルヲ元祿十一年幕府ヨリ金銀銅山ヲ試ムヘキノ命アリテ再ヒ此所ニ金山ヲ建ツサレト金乏シク遂ニ罷メタリシヲ此度更ニ相議シテ種々ノ器械ヲ設ケ大嵩ヲ碎クトイヘトモ地中縱橫ニ水道アリテ金脈ヲ得難シトゾ

○山神祠 芹ヶ野ニアリテ元祿年中建立ニテ金山壯ンナリシ時ハ大祭アリシトイフ奉祀大山祇命ナリ

○五段田川 水源樋脇郷ノ山中ヨリ出ツ當郷ヲスギテ本浦ノ海ニ入ル海口舟船舶繫ス

○照島 島平浦ノ海中ニアリ渚ヲ距ルコト一町許ナリ此島東西二町余南北一町余ノ小嶼ナリ俗ニ寺島ト號ス島上ニ松尾神祠ヲ建ツ例祭九月廿八日ニテ祭神大己貴命ナリ創建ノ年月詳ナラス島上樹木繁茂ス岸下ニ深潭二所アリ雄潭雌潭トイフ此島遠クハ野間嶽金峯山或ハ笠沙岬近クハ黒瀬ノ濱串木野村下名ノ海濱ニシテ照島ヲ等ヲ望ミ風景絶勝ナリ寛政二年三月國主島津齊宣臨遊アリテ此島ヲ驪龍巖ト名距ルコト辰巳方凡八町

ツケ侍醫川村宗澹ニ命シテ此三字ヲ島ノ大嵩ニ大書セシム此島海上ヲ押蔽スル故ニ島陰ニ舟船安泊ス絶頂ニ松尾神社アリ祭神創建詳ナラス

羽島村

○沖ノ島 地方ヨリ海上十八里ナリ周廻六丁許蒲葵樹多シ因テ蒲葵島トモイフ此島陰魚ノ集ル處ニシテ漁舟常ニ群集ス

○猪ノ口田神社 祭神及ヒ創建年月詳ナラス社司入枝某先祖陸奥國膽澤郡ヨリ負ヒ下リテ建立セシトイフ當邑ノ總社ナリ祭日九月九日

○諏訪神社 祭神二座 健御名方命 事代主命 正祭七月廿八日

創建年月詳ナラス文祿元年朝鮮ノ役ニ島津義久肥前名護屋ニ赴ク此時當邑ニ留リ此社ニ詣テ順風ヲ祈リ神樂ヲ奏シ一首ノ歌ヲ詠シテ神前ニ納ム序アリ左ノ如シ

文祿元年五月廿三日連日有_{干時義弘}逆風無_{有朝鮮}順風_以故祈_以順風於串木野諏方社_以ニ神樂_且復

爲_ニ法樂_一詠一首

夕涼み御山おろしにさそわれて繋きし船の出るみなどえ

○羽島崎神社 奉祀及創建ノ年月詳ナラス土人ノ説ニ天智天皇ノ皇妃大宮姫額娃ニ下リ給ヒシ時遺シ置レシ鏡ヲ神體ニ崇メ當社ヲ建立シテ鏡大明神ト號セシヨシイヘルハ妄説ナリ始メ海邊ニアリシヲ寛延元年社殿海笑ニ流失セシ故ニ遷座アリシトゾ

○鬘神社 奉祀創建共ニ詳ナラス土人ノ説ニ天智天皇ノ皇妃大宮姫額娃ニ下向ノ時當邑ヲスギ鬘

ヲ遺サレシヲ神體トシテ創建セシトイフ例ノ妄説ナリ信スヘカラス一説大已貴命ナリトイフ
西洋船ノ覬覦 正徳二年七月十七日西洋ノ大船當邑ノ洋中ニ留マル當時異船着岸ヲ禁ス執事肝付主
殿兼柄衆ヲ率テ申木野ニ至リ是ヲ追ントス至ニ及テ船既ニ去リ其ノ行方ヲ知ラス

物産

- 蔬菜 松露、香蕈、石防風、續蕈
 - 樹木 椎、櫛、檫、樟
 - 飛禽 雉、山雞、灘鷲
 - 走獸 鹿、野猪、猿、貉
 - 鱗介 棘鬣、金線魚、鱈、鯖、鉛錘魚、鉛錘魚、鯉、鰻、海鯧、梭魚、黃耆魚、鰱、鱸、鰻、鱔、鮓、鰱、鮒、鰈、鰻、蛤、章魚、烏賊魚、海鼠、龍蝦、海鼈
- 當邑漁戶甚多シテ人口三千五百余アリ故ニ漁セル魚モ種類多シ今大略ヲ採ル

同郡

日置郷

鹿兒島縣廳ノ西六里ニシテ往古一郷ヲ二ツニ分チ北郷南郷トイヘリ今其北郷ハ即當郷ニシテ南郷ハ
永吉吉利ノ兩郷ナリ東北伊集院ニ境ヒ南吉利ニ境ヒ西海ニ接ヌ周廻五里二十二町村落ニ 日置村 高三
千八百八十七石壹斗九升二合余士族千二百九十一人 男六百三十一人 卒四百四十六人 男二百三十九人 平民
四千九百八十二人 男二千六百二十四人 女二千三百五十八人 人員總計六千七百七十九人總合戸數千三百四十七戸

○八幡神社 奉祀天照大御神天津彦々火瓊々杵尊栲幡千千姬命ノ三座ニテ水引八幡新田宮ヲ勸誘セ
シトイフ九月十五日ヲ正祭トシ竹偶人ヲ作リ社殿ニ納ル所ノ大玉面ヲ著セ梅染ノ衣服ニ大ナル木刀ヲ佩ク 四輪車ニ乗セ里董ヲシテ前路
ヲ馳セシム又五月六日ニ祭リアリ土俗及ヒ隣郷ヨリ踊ヲ興行スルコト數隊ナリ既ニシテ神輿ヲ田原
地ヘ護リ行クノ舊式ナリ當郷ノ總社トシテ村民至テ崇敬セリ社傳ニ云初メ隣郷伊集院谷口村ニアリ
シヲ此ニ遷鎮セリト云

○熊野神社 同村中原ニアリ祭神紀伊國熊野社ニ同シ例祭九月九日ナリ當社ハ島津忠久薩隅日三國
ノ封ニ就キ下向ノ時海上風濤暴發シ船危カリシニ熊野ノ神ニ祈誓シ恙ナク着船アリシニヨリ從臣中
原某ニ命シテ爰ニ建立アリシト云傳フ

○刀立神社 祭神及ヒ創建ノ年月詳ナラスイニシヘ當郷ノ惣鎮守ナリシト云傳フ例祭二月三日十月
三日ナリ倍當社ノ左ノ山涯ニ石子塚トイヘル在リ石欄ノ中ニ大小ノ石千若ヲ積ミ其下ニ小キ壺ヲ埋
メ中ニ大豆程ノ石一ツヲ納ム是ヲ母石トイフ毎歳一石子ヲ生ス本社ノ祭日二月三日ニ社司原口其壺
ノ蓋ヲ開キ其母石ヲ出シ石子ヲ留メテ母石トス初柔軟ニシテ大サ米粒ノ如シ漸々堅硬年ヲ歷ルニ隨
ヒテ長大ナリ彼石欄ノ中ナルハ皆土人は是ヲ石子塚トイフ舊歲生セシナリトゾ妊婦此石ヲ平産ノ護符
トナスニ皆其驗アリ素ヨリ此神ノ氏子タルモノ難産セシコトナシトイヘリ

○諏方神社 同村ニアリ祭神建御名方命事代主命例祭七月二十三日ナリ此日里民太鼓踊及ヒ當郷漁
戶ノ者舞踊ヲ興行ス創建ノ年月詳ナラス

○松尾城 此地日置山田ノ兩村ニ亘レリ一書曰右大將賴朝當郷ヲ小野小太郎家綱ニ與ヘ世々傳頌

ス應永ノ頃ニ至リ伊集院長門忠國ノ第三男日置美作久影領ストアリ事實詳ナラス小野家綱ハ建久八年薩摩國園田帳ニ日置庄三十町同北郷内下司小野小太郎家綱トアリ同人ナルヘシ又一説ニ建久年中山田式部ト云者始メテ薩摩ニ來リ山田ニ住シ累代日置ヲ兼領ストアリ山田ハ則當郷山田村ナリ大永年中城主山田式部有親島津實久ニ黨ス時ニ島津忠良ノ威德日ニ盛ナルニ恐レ天文二年遂ニ忠良ニ降ル

○大川 水源ニケ所アリ一ハ伊集院飯牟禮村一ハ當郷日置村ヨリ出テ一水ト成リ當郷ト吉利トノ境ヲ經テ帆ノ港ノ海ニ入ル

○帆之湊 ノミナト 日置村ノ海濱ナリ古老ノ口碑ニ島津忠久始テ下向ノ時乗船此所ニ着シ爰ニテ帆ヲ卸シケル故ニ帆ノ湊ノ名アリト云フ

○下口浦 フロチ 帆之湊ニ續ケル一面ノ海邊ナリ忠久此處ヨリ上陸アリシニ因テ浦ノ名トナレリト云フ

同郡 市來郷 延喜傳式市來トアリ

鹿兒島縣廳ヨリ戌ノ方八里餘ニアリ往古ノ文書等ニ市來院トアリ東伊集院ニ界ヒ南海岸ニシテ西申木野ニ接シ北郡山樋脇ノ兩郷ニ接ス周廻十二里十六町三間村落八湯田村、湊村、養母村、川上村、伊高、萬九百七十二石六斗五升五合余士族三千二百十六人内男千六百四十一人女千五百七十五人卒四百八十三人内男二百四十人平民一萬二千七百二十二人内男六千四百八十一人女六千二百四十一人人員總計一萬六千四百二十一人總合戶數三千六百八十八

湯田村

○稻荷神社 祭神攝津國住吉ノ末社稻荷社ニ同シ島津忠久母丹後局當郷鍋ケ城ニ在リシ時承久三年建立ストイフ初丹後局攝津國住吉ニ於テ忠久ヲ生ム時ニ大雨ニテ暗夜ナリシヲ狐火暗キヲ照シテ白晝ノ如シ是稻荷ノ神ノ冥助ニ因テナリ一説島津忠久建立トイフ應仁年中島津忠國是ヲ鹿兒島ニ建立シテ今城下五社ノ一ナリ始メ祭神一座ナリシニ慶長年中島津義弘朝鮮新塞ノ戰ニ兩狐出現シテ冥助アリシ故ニ飯國ノ後ニ狐ヲ神ニ崇メ併セテ今三坐ナリ昔時ハ當社ヨリ四五町辰巳ノ方ニ鎮座在シニ天和三年其地ニ新田ヲ開キ今ノ地ニ遷宮アリテ舊地ニハ石ノ小祠ヲ建テ標トス祭祀年中四度正祭九月九日ナリ當社創建ノ時祭田十町八反其内八反ハ湯田村五反ハ大里村五反ハ伊作田村一町ハ大國國庫長ニアリシトソテ寄附セラレシニ後世ニ至リテ官ニ收入シ今ハ年々祭米ヲ供セラル當郷ノ宗社ナリ忠久奉納ノ鎧一領アリシヲ太ク損セシ故ニ寛政四年二月十五日官庫ニ藏メ其代リニ新鎧一領ヲ奉納セラル

○湯田温泉 同村ニアリ湯田ノ名ハ此溫泉ニ因テ得タリトゾ溫泉岡阜ノ下平地ニ出ツ湯性硫黃氣アリテ能疥癬ヲ治ス五ヶ所ニ浴池ヲ設ク城下及ヒ遠近ヨリ來浴スル者多シ

大里村

○嚴島神社 祭神三座市杵島姫田心姫湍津姫ニテ祭祀十一月廿七日ナリ丹後局下向ノ時海上風浪ニ遇ヒ誓願アリシニ困リ建久年中創建アリシト云フ社内ニ一尺余ノ船ヲ納ム土人相傳テ局ノ寄附ナリトイヘリ又同村佐保井トイフ所ニモ嚴島神社アリ建久中丹後局ノ建立ナリトモ又局ノ從臣重信某建立トモイヘリ今ニ至リ重信某氏ノ神トシテ祭祀ヲ行フ局重信某ニ與ヘタル眉尖刀ニ振テ後ニ一振ツ、重信カ家ヨリ嚴島兩社ヘ奉納セシニ寛政三年十二月官用トナリ其代リニ眉尖刀一振ツ、兩社ヘ寄

附セラル

○鶴岡八幡宮

○御靈神社

○今熊神社

○稻荷神社

○包宮神社

○日吉神社

○安樂神社

以上七社本社鎌倉鶴岡ニ在リ丹後局鍋ヶ城ニ在リシ時建仁三年建立ストイフ七社共ニ大里村ニ在リ大里トハ丹後局ノ居所ナリシ往古八幡宮ハ大社ニテ其余ノ六社ハ八幡ノ支社ナリシトイフ今ハ七社共ニ茅葺ノ小社ナリ

○薩摩渡瀬川 上流ハ伊集院ト當郷トノ境夫婦樟山ヨリ出テ養母村湯田村大里村湊村ヲ歴テ串木野境ニテ川上川ヘ合流シ海ニ入ル川上川ハ樋脇ト當郷トノ境小平逆瀬ノ兩所ヨリ出テ養母村川上村湊村ヲ過テ渡瀬川ニ入ル兩川合流ノ所ヨリ一町許下ニ土橋ヲ架シテ渡瀬橋ト云フ中島アリテ橋ヲ二ツニ分ツ長一町余ナリ橋上ヨリ眺望スルニ左右ニ水田アリ海邊ニ據田アリ又松林アリテ景色愛スヘシ此橋ヨリ下二町許ノ所ヲ薩摩渡リ瀬ト云フ此所往古ノ大路ナリシトゾ海口マテ一町余ナリ

○鍋ヶ城 往古市來氏市來ノ院郡司ニテ居城ナリシトイフ市來氏系譜ヲ按スルニ大藏姓ト惟宗姓ト

ノ二家アリテ共ニ市來院ノ院司タリ大藏姓市來氏ハ其支族政房ニ始マル其祖先後漢靈帝ノ裔孫阿智王ノ後ニ出ツ寶龜年中大藏政房始メテ薩摩ノ國ニ下向シ市來院郡司トナリテ當城ニ住居ス第四世十郎家房二女アリテ嗣子ナシ勢至御前因テ外孫惟宗太郎左衛門政家ニ娶セ政家ニ院司ヲ讓ルカクシテ政家其弟橋口次郎家忠家忠又山城トモミエ河上名ナリニ大藏姓ヲ胃サシメ政家ハ惟宗姓ヲ胃シテ子孫世々院司ヲ承襲ス惟宗姓市來氏系譜ニ曰傳禰惟宗民部大夫廣言晚年從ニ忠久ニ下向干薩州ニ領ニ市來院ニ在城ス焉因子孫世々傳レ之云々又曰廣言在ニ城于市來一以及ニ子孫ニ矣又土人ノ傳説ニ曰惟宗廣言ハ丹後局ト共ニ薩州ニ下向シ鍋ヶ城ニ在リトイフ此說信シ難シ惟宗姓市來系譜ニ曰惟宗親王ハ醍醐天皇ノ皇子ニテ即保宗性系圖與本ニ惟宗親王ノ裔大納言知國ヨリ出ツトアリ按スルニ廣言ハ當國ノ舊記ニ日向國司ニテ諸縣郡島津ヲ治所トセシヨシ見ヘタリ其ハ安國寺申狀云民部大夫ハ日向國司ニテ候ケル間島津ニ居住候民部大夫モ比木判官モ承久ノ兵亂ニウセ候ヌ云々山田聖榮自記云御養父民部大夫殿モ始ハ島津ニ居住アル歟島津殿ト奉レ申云々トアリ此事日向島津莊ノ條トアリニイヘリ參考スヘシ又建久八年薩摩國圖田帳ニ市來院百五十丁島津御莊寄郡地頭右衛門兵衛尉トアリ此右衛門兵衛尉ハ即島津忠久ナリ是等ニ依ルニ當時廣言ハ日向國司ニテ島津ニ居住シ市來院地頭ハ島津忠久ニテ院司ハ其頃大藏姓市來氏ナリサルヲ國人山本正誼カ花尾記ニハ忠久薩隅日ノ守護職ニテ此國ニ下リ局及廣言ヲ迎ヘ取リテ廣言ヲ市來院ノ地頭職ニ補シタリト記シタルハ更ニ據ル處ヲ知ラス恐クハ惟宗姓市來系譜ニ領ニ市來院トアルヲ廣言ト思ヒ訛レルナルヘシ又丹後局ノ遺跡モ悉クハ信シカタク傳ニ曰丹後局ハ右大將賴朝ニ寵セラレ懷妊ス平政子是ヲ妬ミ潛ニ鎌倉ヲ遁レ攝津國住吉ニ至リテ忠久ヲ生ムカクテ忠久近衛藤公ノ家ニ在ル事數年ニシテ後東國ニ歸ル因テ賴朝命シ

テ丹後局ヲ惟宗廣言ニ嫁セシム故ニ忠久モ母ニ從テ廣言ノ家ニ成長ス始廣言ノ室ハ畠山重忠ノ妹ナリ忠康ヲ生テ卒ス丹後局ハ其後室ナリ局又男子ヲ生ム忠季トイフ忠久ノ異父ノ弟ナリ因テ島津氏ヲ冒ス後若狹國ノ守護トナリ故ニ若狹島津ト號ス今ニ其ノ子孫若狹ニ在リトイフ忠康忠季承久ノ亂ニ戰死スカ、ル由緒ノアルカ故ニ廣言丹後局ト共ニ薩摩ニ來レリトイフ從來普通ノ説カクノ如シイマタ其明證ヲ得ス東鑑ニ丹後ノ内侍及丹後ノ局アリ同名異人カ又忠久チ一説ニ高倉宮ノ御子ナリト云ヘリ是ニ依ルニ頼朝ノ子トスルハ疑ナキニアラスナホ能ク考フヘシカクテ政家ヨリ第四世氏家人道歡意ハ和歌蹴鞠ヲ善クス後醍醐天皇ノ御時氏家在京シテ毎ニ禁廷蹴鞠ノ會ニ預リ薩摩市來流ト稱シテ其名ヲ著ハス今ニ市來流蹴鞠ノ書アリトイフ謠曲ニ鞠トイヘル謠アリ其謠曲ハ氏家都ニテ病死シ家臣左近允トイフ者形見ノ鞠ト文トヲ故郷ニ携ヘ下リシヲ作レリ市來氏代々内裏大番ニ役セシ事舊史ニ見ユカクテ市來氏世々國命ニ應セス氏家ヨリ三世久家ニ至リ島津立久ノ爲ニ亡サル事ハ鶴丸城ノ下ニ詳ナリ

○古墓 鍋ヶ城ノ中央ニアリ高サ六尺圍六尺文字ヲ刻セス誰カ墓ナルヲ知ラス土人ハ惟宗民部大夫廣言ノ墓ナリトイヘリ例ノ妄説ナリ

○丹後ノ局休憩石 イコヒシ 同村ニアリ薩摩渡瀬橋ヨリ五六町東ニ當リ往古ハ大道ニテ丹後局下向ノ時腰ヲ掛ラレシ石ナリトイフ林藪ノ中ニ幣帛ヲ建テ標トス此邊ノ地ヲ局ノ從臣重信某ニ與ヘシ所ナリトテ重信宅地ト呼ヘリ今ニ重信門ノ農民年々此石ヲ祭ルト云フ又休憩石ヨリ申方二町許木崎山ノ下ニ其時炊爨ノ所ナリトテ竈跡アリ石ニ竈ノ形殘ル圍三尺許ノ圓キ切石ナリ今其上ニ老櫛木アリテ其根彼石竈ヲ夾メリ茅葺ノ小社アリテ木崎ノ農夫是ヲ祭ル又休憩石ヨリ巳午ノ方五町余龜ヶ尾トイフ所ニ丹後局ノ休息セラレシ跡ナリトテ仙栢イヌキヲ植テ標トス其仙栢三抱余ノ大古木ナリ

○北條水 丹後局下向ノ時ノ井水ニテ其時ヨリ北條水ト唱ヘシトイフ由來詳ナラス今此邊ノ農夫ノ汲泉ニテ上水ナリトゾ井淺ク瓢ニテ汲ムヘシ

養母村

○重平山 此山東北ハ伊集院樋脇ノ群山ニ接シ遠クハ入來郷八重山ニ接ス

長里村

○春日神社 祭神大和國春日ニ同シ承久年中創建セシトイフ往古當邑ノ藤尾ツキノト云ヘル處ニ鎮座アリテ藤尾神社ト號ス島津貴久今ノ地ニ移シ春日ト改ム

○鶴丸城 城山ノ内諸城ノ名ヲ分チテ其間各堀切アリ當城ノ西ニ平城平城ニニ城ヲ分ツ北平城南平城ト云フ又西北ニ番屋城アリ此城ニ番屋北屋トイヘルニ城アリ又北ニ大根城アリ諸城ノ内當城最高シ番屋城是ニ亞ク諸城高キハ三十間低キハ十五六間アリ山下ハ水田或ハ深淵ニテ四面絶壁ナリ建武四年七月市來太郎左衛門時家官軍ニ應シ當城ニ據ル兵勢稍振フ島津孫三郎賴久兵ヲ率ヒテ當城ヲ攻ム八月城兵出撃シ石走大里村ニアリ赤崎湯田村ニアリ等ニ戰フ九月大隅助三郎兵ヲ引テ當城ヲ救フ賴久兵ヲ遣シテ伊集院郡本ニ戰フ既ニシテ復當城ヲ圍ム三條泰季兵ヲ引テ市來ヲ救フ守護ノ軍是ト戰フ事數十度アリ曆應三年八月島津貞久諸軍ヲ將ヒテ伊集院一字治城ヲ拔キ又當城ヲ攻ム市來時家降ル寛正三年市來久家又反シテ當城ニ據ル島津立久兵ヲ督シテ是ヲ討ツ久家其長子忠家ト共ニ逃亡ス一説久家等舉家舟ニ乗リ逃去リシニ舟覆リミナ溺死ストイフ市來政家市來郡司職タリシヨリ六世ヲ歴久家ニ至テ其宗統絶ユ今ノ市來氏ハ皆其庶流ナリカクテ大寺美作ヲ當郷ノ地頭トスカクテ天文八年島津越前新納常陸忠苗島津實久ニ黨シテ當城ヲ守リ閏六月十七日島津貴久諸軍ヲ將ヒテ

當城ノ平城ヲ拔キ復本城ヲ攻ム入來院彈正重聰來テ平城ノ捷ヲ賀シ其子重朝ヲ留テ貴久ヲ助ク二十七日重朝兵ヲ卒ヒ進テ大日寺口ニ至リ大日寺ハ鶴丸城ノ麓ニアリ城兵出擊シテ湯田町口ニ戰フ重朝利アラヌ樺山幸久鳥津忠俊蒲生宮内大輔等來リ救ヒ城兵ヲ敗リテ實久カ弟中務忠辰ヲ斬ル既ニシテ貴久本城ヲ圍ム新納忠苗能ク守リ六十余日ニシテ拔コトアタハス八月二十九日ニ至リ力盡キテ忠苗鳥津越前ト共ニ降ル群臣皆忠苗ヲ殺サント欲ス鳥津忠良曰臣其主ノ爲ニヌ是職ナリ何ゾ殺スヘケム耶トテ廻テ是ヲ赦ス

○總陣ケ尾 鶴丸城ヨリ辰巳五六町ニアリ貴久鶴丸城ヲ攻メシ時ノ營所ナリトイフ

湊 村

○旗揃所 ハタツロヒトコロ 天正中薩摩ノ兵龍造寺隆信ヲ討ムカ爲肥前國島原へ出陣ノ時此所ニ軍兵ヲ集メ旗揃ノ場所ナリトイフ

伊作田村

○嚴島神社 奉祀三女神ナリ三方ハ陸地ニ接シ建立ノ年月詳ナラス西ハ海上ニ臨メリ世俗誤テ此神ヲ竺セシハ浮屠ノ例ノ妄誕ニ出タルナリ

○江口濱 大河アリテ此海ニ入ル江口川ト云水源伊集院赤仁田當郷重平山ヨリ出ツ川口舟船ヲ繫泊ス漁戶ノ所住ナリ此地ノ西北ニ鄰リテ赤崎浦アリ丹後局鎌倉ノ由井濱ニ似タリトテ賞セシヨリ土人傳稱セリ此處ノ眺望西ハ海上甌島アリ南ハ加世田野間岳アリ風景頗ル佳ナリ

○吹上 當村神之川村湯田村湊村ノ沿海數里ノ間白砂堆ク連リテ積雪ノ如シ橫幅濶キハ町狹キハ半

町許ニテ加世田郷吹キ上ケニ異ナラス風景愛スルニ足レリ

神之川村

○神之川 カミノ 水源伊集院ノ山中ヨリ出ツ數里ヲ經當村ヲ過キ神之川浦ノ海ニ入ル海口濶サ二三十歩許ニシテ舟船繫泊ス朝鮮征伐ノ役ニ糧船多ク此浦ヨリ出シトイフ

○楯板 タテノイタ 養母村北山門農戶八右衛門カ家ニ古來楯板一枚ヲ傳ヘ藏ム由緒詳ナラス砲丸ノ痕ニケ所アリ其材櫻木ニ似タリ長サ三尺二寸許濶サ一尺三寸許厚サ五分許ナリ正面ニ鐵ノ筋金十四本ヲ堅ク張付テ釘ス筋金ノ幅四分許筋金コトニ相距ルコト三分許ナリ裏ハ牛皮ヲ張テ中ニ綿ヲ入レタリ又裏ニ柱アリテ轉軸ヲ施セリ長サ二尺八寸許ナリ柱ヲ後ニ開ケハ楯板上ニ安住ス

物 産

走 獸 鹿、野猪、猿、貉、馬

鱗介類 蜆、渡瀬川等ノ海口ニ産ス カモノタマゴ 海龜卵以上ノ二品當邑佳産ナリ 鱈、鯖、鮪、鯉、松魚

棘蟹、鱒、鍋蓋魚、鶏魚

薩隅日地理纂考五之卷 畢

薩隅日地理纂考六之卷

薩摩國

薩摩郡 倭名抄作薩麻

當郡ハ東伊佐始羅ノ兩郡ニ界ヒ南日置郡ニ續キ西海ニ出北高城出水ノ兩郡ニ界ヒ郡内ニ入采樋脇水利平佐隈之城高江東郷ノ七郷ヲ置ク

同郡 入來郡

鹿兒島ヨリ乾ノ方八里東蒲生蘭牟田ノ兩郷ニ境ヒ南郡山西樋脇郷ニ接シ北山崎郷ニ接ヌ周廻十一里
二十一町二十五間村落 副田村浦之名村 高五千四十一石四斗三升七合六夕八撮士族二千六百九十九人 男千三百六十九人
女千三百三十九人 卒二百四十二人 女百二十一 平民千六百三十八人 男八百三十一人 女七百七十二人 惣計人員四千五百十四人 惣合戸數九百二十五

○清色川 キヨシキ 水源二條ニシラーハ前河内川ト號シ裏之名村ノ山中ヨリ出一條ハ後河内川ト稱シテ蘭牟田郷ノ山中ヨリ出テ當郷裏之名村ノ中ニテ合流シ添田村ヲ過テ樋脇郷塔之原村ニ至リ川内河ニ入ル
裏之名村

○八重山 此山絶頂マデ二里余ニテ登路難ナリ秀峰餘多連リテ四郷蒲生、郡山、伊集院、樋脇ニ係リ常郷ノ地三分ノ一皆此山ナリ依テ八重山ノ名ヲ得タリ山中最高キヲ横尾岳ト呼フ是ニ亞クヲ長尾岳其次ヲ道之子岳トイフ彼横尾岳ニ登レハ四方豁然トシテ山海數十里ノ外ヲ望ム亦琉球諸島ヨリ來貢ノ船洋中ヨリ先ツ見ヘ初ルハ開聞峰嶺也ト此横尾岳ナリトソ

○鷹子岳 八重山ノ東ニ當リテ高岳ナリ

○鷹子神社 岳ノ半腹ニ平地アリテ其處ニ鎮鎮坐ナリ創建由緒詳ナラス木製ノ鷹三軀ヲ神體トス例祭九月廿九日十二月十七日ナリ

○舟見峰 絶頂ニ蘭牟田郷ノ境アリ此ノ峰連山ノ上ニ高ク秀テ峰上樹木ヲ生セス

○愛宕嶽 亦北嶽トモイフ絶頂ニ愛宕ノ小社アリ因テ名トス

○大宮神社 創建ノ年月詳ナラス祭神大物主神ナリ例祭二月三日九月九日十一月三日ナリ

○若宮神社 當社ハ入來ノ院平四郎有重ノ靈ヲ祭ル有重ハ舊領主入來院平次公重ノ弟ニテ弘安四年蒙古筑紫ニ寇セシ時兄公重ノ軍代トシテ弟平五郎致重四郎太郎重尙等ト共ニ兵ヲ率テ出軍シ六月廿九日筑前博多ノ海上ニテ兄弟共ニ賊ノ箭ニ中リテ死ス依テ其靈社ヲ此處ニ建立セシトソ

○廣瀬神社 當社モ入來院家十四代彈正少弼重豐ノ靈ヲ祭ル地名ニヨリテ廣瀬神社トイフ例祭八月十五日ナリ

○菅原神社 木場原ニアリ祭神菅原道真公ニテ例祭八月廿五日ナリ應永九年入來院彈正少弼重頼建立ス

○清色城 今作 清敷 亦入來城トモイフ一山ニテ周廻凡二十五町余高サ三四十歩山上ニ水田アリ 本丸四ノ城 中ノ城松尾 城及ヒ斥候之役ナト イフ地猶今ニ存レリ 東北ハ清色川城外ヲ抱キ西南ノ山下ハ深溪或ハ田地ニテ正面ノ一方馬背ノ如ク原野ニ接セリ入來院氏數代ノ居城ナリ

○淵上城 曆應ノ頃澁谷某居城ナリ澁谷ハ入來院ノ一族ナリ

○川床城 永祿ノ頃入來院加賀重嗣在家臣種田木工秀細居城ナリ

添田村

○湯河内温泉 或ハ入來温泉トイフ此地溪間ニテ周廻凡三町余温泉八ヶ所ニ湧出ス 俗ニ一ヲ御前湯ニテ和尙湯ニテ綱代湯ニテ 打區湯五ヲ川涯湯六ヲ南端湯トイフ此外ニ綱代湯ノ側 湯性鹽味アリテ且馨氣ヲ含ム故ニ俗ニ鹽湯ト稱フ其性亦南端湯ノ側トニニク處ノ湯澤アリ故ニ合テ八處ナリ 剛ナラス柔ナラス溫和ニシテ脾胃虛弱ノ人ニヨシ又諸病ヲ癒ス殊ニ瘴氣ヲ治スルニ功アリ依テ四方ノ病客遠僻ヲ厭ハス來浴スル者絶ス客舍ハ澗谷ノ内ニ若干軒ヲ連テアリ

○湯元神社 澗谷ノ東北一叢林ノ中ニアリ祭神大名牟遲少彦名神二柱ナリ例祭九月廿九日 浴客當社ニ功ノ速ナラム事ナインルニカナラスシルシアリトソ

○諏方上下神社 當社ハ應永三年藩人本田隼人入佐某建立ノヨシ舊記ニ見ユ亦明應九年拜殿造立ノ棟札アリ例祭七月廿八日此日裏之名添田二村ノ農民數百人鉦鼓ヲ鳴シ神前ニテ舞躍ヲナス參詣ノ貴賤多シ

○重來神社 當社ハ故領主入來院又六重時ノ靈ヲ祀ル例祭九月廿二日十一月廿三日ナリ重時ハ入來院氏第十五代ノ嗣ニテ武勇ノ聞ヘアリ慶長五年關ヶ原ノ役ニ島津義弘ニ從ヒ重時ノ從卒等餘多戰死

ス此時入來院彦左衛門東郷清太村尾善兵衛大迫彌四郎前田三郎次郎主從七人間道ヲ經テ退クニ敵軍ニ出逢ヒ悉ク戰死ス九月廿三日ナリ其后重時ノ靈屢顯レテ種々奇怪アルニ依リ當社ヲ建立ス始メ大隅國菱刈郡菱刈郷横瀬ニアリシヲ當時入來院氏湯之尾ヲ領セシ故ナリ後此處ニ遷セシナリ

物産

樹木 樟、櫛、樺、甘櫛、蚊母樹
走獸 鹿、野猪、猿

同郡 樋脇郷

鹿兒島ノ西北九里二十六町ナリ東入來郷ニ境ヒ南伊集院市來申木野ノ三ヶ郷ニ續キ西永利平佐ノ兩郷ニ接シ北川内川ヲ隔テ東郷郷ニ界フ周廻十三里八町二十六間村落三塔之原市比野村倉野村高六千八百二十五石三斗五勺八撮士族二千三十三人男千五百人 女千二十八人卒三十六人男二十人 女十六人平民二千九百四十三人男千四百八十七人 女千四百五十六人總計人員五千十二人戸數千九十三戸

常郷ハ始メ入來郷内ニテ市比野トイヒシヲ萬治二年ニ割テ一郷トナレリ
○樋脇川 入來郷清色川ノ下流ナリ當郷中村ノ内ニテ川内川ニ入ル

塔之原村

○一之宮神社 祭神大物主神ナリ創建ノ年月詳ナラス例祭二月二日十二月二日當社ハ始メ當村ノ鎮守神ナリシヲ萬治二年當郷ヲ建ラレシニヨリ貞享元年三月土人志ヲ合セ社ヲ新ニ造營シテ一郷ノ宗

社ニ崇メシトソ

○諏方神社 樋脇古城ノ跡ニアリ祭神信濃國諏訪ノ上下社ニ同シ創建ノ年月詳ナラス例祭七月廿七日ナリ此日近村ノ農夫悉ク金鼓ヲ鳴シテ舞躍ス

○若宮八幡神社 祭神應神天皇文明九年創建ノ棟札アリ例祭十一月三日ナリ

○三島神社 祭神詳ナラス例祭十一月四日應永三十三年丙午八月廿一日建立ノ棟札アリ

○天子神社 祭神詳ナラス例祭十一月朔日弘治年間建立ノ棟札アリ

○穗永神社 祭神上ニ同シ例祭十一月廿三日天正十三年二月建立ノ棟札アリ

○樋脇城 前面ハ深田ニシテ三方ハ谷川ナリ亦城ノ西南一町許ニ高城トイヘルアリ又西一町許ニ潤川ヲ隔テ助之城トイフアリ皆當城ノ砦ニテ入來院家一族居城ノ跡ナリ

○前田城 東面ハ樋脇川ニ臨ミ西北ハ深田ナリ城主詳ナラス

市比野村

後紀曰延曆二十二年三月庚子太宰府言大隅國桑原郡蒲生驛與薩摩國薩摩郡田尻驛相去遙遠迎送艱苦伏望置驛於薩摩郡櫛野村以息民苦一許之トアリテ此地古ノ驛亭ナリ

○市比野山 此山東南ハ入來郷八重山申木野郷冠嶽及伊集院郷市來郷ノ諸山ニ續キ高低斷續アリテ支山甚多此山中最高キヲ高平峰次ニ大平峰次西平峰次ニ藤内峰ニテ山中最高廣シ

○蓋山カント山トモイフ此山平原ノ中ニ在リテ其高サ三十間余周廻半里許ナリ

其形狀蓋鉢ノ如シ亦山足尾ヲ引テ簾ニ似タリ樹木繁茂シテ山下ハ多ク水田ナリ四方ヨリ望ニ其姿別

ナラス山上山下ニ市杵島姫ノ神社アリ祭祀三月四日ニテ此日遠近ヨリ參詣多シ
 ○市比野溫泉樋脇溫泉 此溫泉近古マテハ村里ノ農民耕耨ノ勞ヲ治ル爲ノ浴池ナリシヲ其効漸々ニ世
 ニ廣マリ頃年ニ至リテハ浴客多シ湯質灰汁アリトモイヒ又馨臭アリトモイフ溫泉清澄ニシテ茶ヲ煎
 テ其味更ニ變セス疝癩及ヒ脚氣ヲ治ス亦諸病ニモ功アリ浴場ハ二所ニアリテ上之湯下之湯トイフ其
 間六十間余ナリ上湯ハ田間ヨリ湧出ス下之湯ハ樋脇川ノ上流市比野川ノ岸畔巖際ヨリ湧出シテ湯勢
 甚壯ナリ川ニ臨ミテ浴池三ヲ設ク各竹筧ニテ水ヲ引キ寒熱ヲ自在ニス浴池ノ前後左右皆客舎ナリ
 ○湯ノ元瀑布 上之湯ノ東三十歩バカリニアリテ市比野川ノ上流ニテ瀑ノ高サ二間餘廣サ同シ程ナ
 リ上下二湯ノ末流皆市比野川ニ入ル
 ○市比野城 東南ハ深田ニ臨ミ西北ハ谷川ヲ帶ブ山上涌泉多シ入來院ノ一族東郷下總重且居城ノ跡
 ナリ

物産

蔬菜 香蕈、マヒダク 丁蕈
 樹木 鈎栗、イナカ 櫛、椎、榿、ユズ 榿、蚊母木
 走獸 鹿、野豬

同郡

永利郷

鹿兒嶋ノ西北十一里十八町ナリ東樋脇郷南串木野郷西隈之城郷北平佐郷ニ接ス周廻七里三十三町四

十四間村落百次村田崎 高二千六百七十二石九斗五升八合ニタ三撮士族千二百三十二人男六百九人 女六百二十三人
 平民九百五十人男四百九十四人 女四百四十七人 總合人員二千八百八十二人合戸數四百六十四建久八年圖田帳ニ薩摩郡永
 利十八丁地頭右衛門兵衛尉トアリ當處ハ初メ一郷ナリシヲ中古ニ害テ百次郷山田郷トイヒシカ
 小郷ナルカ故ニ此度古ニ復シ合並シテ郷名ヲ永利ト改ム依テ百次山田ノ兩村アリテ士族分居ス

百次村

○西嶽 串木野郷ノ界ニアリ岳ノ南面ハ即串木野郷ニシテ冠嶽ニ續キ頗ル高山ナリ

○諏方神社 信濃國諏訪上下社ニ同シ一村ノ鎮守ニテ例祭七月廿六日ナリ建立ノ年月詳ナラス

○生松神社 祭神菅原道真公ナリ神休 古鏡 例祭十一月三日ナリ往古ハ社殿極メテ壯麗ニテ奉納ノ詠歌及
 神寶等餘多アリシヲ百年許以前社頭ヨリ火發リテ燒亡セシヨシ云ヒ傳フ棟札ニ永祿十年大檀那平朝

臣重豊當地頭入來院淡路守重孝同息重相トアリテ創建ノ年月詳ナラス

○岩田城 一名ヲ上野城トモ稱ス上野太郎忠友居城ナリシトソ年間詳ナラス后ニ入來院淡路城主ナ
 リ元龜元年入來院重嗣島津貴久ノ武威ニ恐レ溢谷東郷高城祁答院等ノ一族ト胥議シ各領地ヲ出シテ
 貴久ニ降ル

山田村

○天乞神社 里俗祭神天照太神ナリトイフ例祭十一月四日創建詳ナラス

○石神社 神體大片石ナリ石質堅クシテ御蔭石ノ如シ鹿兒嶋及市來郷等ニ石神氏アリ皆此ヲ氏神
 トス傳ニ曰石神氏ノ先祖石神重助トイフ者奇石ヲ得テ奉崇セシカ如此大石トナリシトイフ一説ニ重

助ハ元澁谷東郷ノ一族ニテ朝鮮征伐役ニ肥前國ニ赴ク道ニテ重助カ足ノ指股ニ小石挾マリ採テ捨ケルニ亦挾ルカクノ如クナル事シバノナルニ因リ其石ヲ採テ見ルニ始メノ石ナリ奇異ニ思ヒ其石ヲ懷ニ納メ朝夕齋祀リシ朝鮮ニテモ度々ノ難戰ニ過クナカラシ故ニ歸陣ノ后神ト崇メクレハ其石年々ニ太クナリ又靈驗イテシルキカ故ニ氏ヲモ石神トアラタメシトイフ例祭十一月三日ナリ

○永利城 高サ四五丈周廻五町許城地ニ二ノ丸三ノ丸及取添等ノ蹟ヲ存ス當城ハ應永ノハシメ永利中務丞兼光城主ナリ其後島津山城守忠朝當城ニ據ル同廿五年十二月入來院彈正重長市來備後家親是ヲ攻ム忠朝出擊シテ是ヲ破ル重長家親嶋津久豊ニ援ヲ請フ久豊佐多久信ヲ將トシテ重長等ヲ助ク重長等又當城ヲ圍ム忠朝救ヲ諸所ニ求ム是ニ於テ求麻眞幸河邊等ノ援兵來ル久豊是ヲ聞親大兵ヲ督シテ三方ノ援兵ヲ破ル忠朝城ヲ棄テ限之城ニ走ル

○大石ヶ平 オホイシガヒラ 亦陣之尾トモイフ野岡ニテ應永廿六年入來院重長市來家親陣營ノ跡ナリ

○清水ヶ岡 しみずか 小阜ニテ下ニ清泉涌出ス因テ稱ス此地モ古陣營ノ跡ナリ

同 郡

平 佐 郷

鹿兒嶋ヨリ西北十二里余ナリ東樋脇南永利西限之城西北水引北東郷ノ五郷ニ接ス周廻九野二十九町八間村落五 平佐村 天辰村 倉野村 楠元村 久住村 高四千八百七十三石一斗八升二合四夕九才士族千八百九十八 男九百三十四人 女九百五十六人 男三十一人 女二十六人 平民二千二百三十三人 男千二百一十一人 女千八百二十二 總計人員四千五百五十八人惣合戸數八百七十八戸當郷ハ舊天辰平佐ノ兩村ナリシヲ明治三年樋脇郷ノ内中村楠元倉野ノ三村ヲ割テ平佐ニ隸ク

平 佐 村

○稻荷神社 奉祀 倉稻魂命 大山祇命

創建ノ年月詳ナラス當郷ノ總鎮守ニテ例祭九月十九日ナリ

○白羽神社 奉祀 天白羽ノ命 火雷命

白羽町ノ東川内川ノ南岸ニアリ三代實錄貞觀二年三月廿日庚午薩摩國從五位下白羽火雷大神ニ授從五位上トアル是ナリ町ノ名ヲ白羽 今白和 ト唱フルモ此神社アルカ故ナリ創建ノ年月詳ナラス慶長年中ノ棟札ニ當社ハ始メ今ノ處ヨリ申ノ方四町許ノ地ニアリシヲ天正十五年豊臣關白公征西ノ時民屋ヲ都テ放火ス其餘炎ニ罹リテ社殿燒亡シケルヲ慶長六年二月領主北郷三久今ノ地ニ遷セリ

○白羽町 今作白和 限之城向田町ニ續キテ橋ヲ境トス向田町ハ南北ニ通り白羽町ハ向田町ノ半ヨリ東ニ通りテ鐘木形ナリ賣店軒ヲ列ネテ最賑ヘリ

○平佐城 一名諫訪之尾城ト云城ノ東ニ諏方神社アルカ故ナリ今此城蹟林阜ニシテ高サ僅ニ四丈余周廻十八町ニ足ラス東ハ原野ニ接シ他ノ三面ハ水田ニ臨ム應永ノ頃島津山城忠朝居城ナリ天正十五年豊臣關白公西征ノ時ハ桂神祇忠助城主タリシ公親大軍ヲ帥テ肥後國佐敷ヨリ薩摩國出水ニ到リ四月廿五日船ヨリ川内川ノ海水引郷京泊浦ニ入り流ニ逆テ師ヲ高江郷猫嶽ニ駐メ公ハ水引泰平寺 當城ヲ距コト北方二十町許 ニ移ル諸城風ヲ望ミテ降ル時ニ桂忠助 天性偶儻ニシテ膽畧人ニ謀タリ獨リ城ヲ閉テ固ク守ル 城兵僅ニ三百計同月廿八日小西攝津守行長脇坂中務少輔安治九鬼大隅守嘉隆等大兵ヲ卒ヒ來テ當城ヲ圍ミ衆ニ令シテ急ニ攻ム城兵奮戰シテ敵軍死傷甚多シ然レトモ敵多勢ニテ攻撃益急ナリ

城主忠防ハ牙城ニ居テ桑門ヲ會シ宴樂喜慰シテ敢テ出ス時ニ兵卒走リ來リ告曰敵軍競ヒ進ミ城兵既ニ勞ル敗レムコト須臾ニアリ早ク來リテ令シ給ヘトイフ忠防從容トシテ問テ曰谷山紀伊宇都和泉已ニ戰死セリヤ卒曰爾士未タ死セス城壁ニ在テ防戰甚壯ナリ忠防曰爾士未タ死セスハ敵ヲ拒クニ足レリトテ自若トシテ酒ヲ飲ム九鬼嘉隆カ麾下ニ伊勢國ノ住人何某ト呼ハリテ戰フ者アリ臂力絶倫當ル者ナシ城中ヨリ高木帶刀刀ヲ挿テ走リ出刃ヲ接シテ遂ニコレヲ斬殺シ城ニ入ニ及テ敵兵追逼リ共ニ城中ニ付入ムトス谷山次郎右衛門^{紀伊}春田主水阿久根權介等能ク戰ヒ敵ヲ退テ軍ヲ全シテ城ニ入ル此日辰ノ上尅ヨリ軍始アリ申ノ下尅ニ及ヒ敵ノ首ヲ獲ルコト三百餘級ニシテ城愈堅固ナリ是ヨリ敵敢テ攻ス時ニ國主修理太夫義久關白公ト和議相決ス故ニ人ヲ使シ忠防ヲ諭シテ城ヲ下ラシム忠防更ニ屈セストイヘトモ君命ヲ重シ五月二日泰平寺ニ至リテ關白公ニ謁ス公忠防カ忠勇ヲ感シ實壽ノ短刀ヲ與ヘ同廿八日泰平寺ヲ發シ當城ニ入ル

△藤崎通並井穴 平佐城ノ南ノ山下ニ一路アリ東ヨリ西ニ通ス是ヲ藤崎通トイフ又井穴ハ城ノ西麓藤崎通ノ西ニテ九鬼嘉隆當城ヲ攻ケル時城將宇都和泉谷山紀伊藤崎通ニ邀ヘ鬪フ和泉輕卒ヲ率ヒ間道ヲ經テ敵ノ後ナル井穴出前後ヨリ狹ミテ擊ムトス時ニ嘉隆ノ後軍進ミ來テ是ヲ支ヘ大合戰アリシ跡ナリトソ

△田平 平佐城ヲ距コト北三町許ナリ九鬼嘉隆平佐城ヲ責シ時小西行長後援トシテ陣營ノ跡ナリトソ

○鳥追^ヒ之森 隈之城郷ノ増小川ノ掖ニアリ往古日暮長者トイヒシ人ノ子花若ノ墓處ナリトイフ委

クハ隈之城ノ段ニイフベシ

天 辰 村

○碓山^{イカリヤマ}ノ城 應永年中島津貞久居城トス其後島津家臣酒匂久景河田慶喜等當城ヲ守ル曆應二年六月廿日薩摩國阿多領主谷山隆信鮫島家藤等國命ニ應セス澁谷ト兵ヲ合セテ當城ヲ圍ム二十一日是ヲ攻ル事急ナリ時ニ鳴鑼矢水引郷新田宮ヨリ飛來リテ敵軍ノ中ニ落ツ城中神助ナリトシテ奮戰甚シ敵軍遂ニ敗レ退テ入來郷淵上城ヲ保ツ

倉 野 村

○稻穗神社 祭神詳ナラス例祭三月三日十一月三日ナリ永正年中創建ノ棟札アリ

久 住 村

○久住城 本丸二丸三丸等ノ蹟アリ北ノ方川内川ニ望ミ東原野ニ接シ西南水田繞レリ亦城ヨリ東三四町ニ野首城西ノ方十町許ニ雲之上城西北八町許ニ清水城亦其北四町許ニ小鹿倉城等ノ跡アリ皆當城ノ砦ニテ古ヘ入來院刑部居城ナリ

楠 元 村

○諏方神社 祭神信濃國上下諏方神社ニ同シ例祭五月五日七月廿二日ナリ天文三年三月創建ノ棟札アリ

物 産

器 用 鳥銃、磁器 天辰村ニ陶器場アリ漢土南京ノ製法ヲ傳フ、籠爐、^{カゴヒバチ}籐笠^{タケノコカサ}

鱗介 鯉、鮒、鱸

同郡

限之城郷

鹿兒島ノ西ニ距ル事十二里余東平佐東南永利南串木野西高江北水引ノ五ヶ郷ニ接ス周廻七里三十五町六間村落三宮里村 高六千二百石餘士族二千十八人男千四人 女千十四人卒七十五人男四十二人 女三十三人平民四千四十九人男二千七十一人 女千九百七十八人人員總計六千四百四十二人戸數千三百四十軒

○川内川 當郷ト水引郷トノ境ヲ流ル委クハ水引郷ノ卷ニ云ヘリ

東手村

○向田町 六カブ市中頗ル繁昌ス又町ノ北ノ端ハ彼川内ノ大河ニ臨ミ賣買ノ舟船多ク此處ニ來泊ス毎月四日毎ニ近郷近村ノ土民各土産ノ品ヲ持來リテ市ヲ出ス過半ハ蘭蔴ナリ川内川ノ左右ノ入江ニ土民多ク蘭ヲ植テ蔴ヲ製ス此地ノ名産ナリ亦此町中ニ驛場アルカ故ニ往來ノ旅人多ク此地ニ宿ル

○諏方神社 同村ニアリ祭神鹿兒島諏方社ニ同シ例祭七月廿五日ナリ此日農民金鼓ヲ鳴シテ躍ヲ奏ス舊記ニ當社ハ國主修理太夫義久兵庫頭義弘建立ナリトアリ

○熊野神社 祭神紀伊國熊野ニ同シ修驗圓覺建立ナリトイフ時代詳ナラス國主兵庫頭義弘征韓ノ役ニ祈願アリテ此山ノ竹モテ旗竿ヲ製セシトイフ

○日暮之里 ヒラサレノサト 縱二町余横一町余ノ岡ニテ日暮之城又日暮殿トモイフ今林叢或ハ陸田トナレリ此處日暮長者ノ居住セシ舊地ナリトイフ鳥追ノ謠ニ「此日暮ノ里ト申ハ前ニハ大河流レ末湖水ニツ、ケリ

云々トアルハ即此處ニテ大河トハ彼川内川ヲイヒ湖水トハ下流湖水ナシタル大灣高江郷ノワチヲイヘルナリ亦花若ノ墓トイフモアリ此處ヨリ五町ハカリ北ニテ平佐郷ノ内ナリ上ニ糠ノ大樹生繁リテ俗ニ追鳥ノ森トイフ古ハ此木殊ニ繁茂シテ田畝ノ妨トナリシニ依テ天明元年ニ伐除シカ今亦其伐株ヨリ枝ヲ生シテ森トナレリ亦日暮長者ノ從臣左近允カ宅地ノ蹟モアリ地名ヲ左近允トイフ日暮之里ヨリ一里ハカリ西ニテ西手村ノ内其山中ニ左近允カ墓トテ小石ヲ築タル塚アリ當郷士族原田ガ祖先左近允カ所縁ナリシトテ今ニ此家ヨリ洒掃ヲ勤ム

西手村

○二福城 コフク 當郷古城址ノ中此地最高クシテ周圍モ亦大キナリ應永ノ頃嶋津山城守忠朝居城ス后元龜ノ頃ニ至リテハ入來院重副城主タリ

○都城 城主及ヒ由緒詳ナラス

宮里村

當村ハ往古一郷ニテ新田八幡宮ノ神領ナリ八幡宮神職權執印氏カ古文書ニ建仁四年二月十日宮里郷地頭散位紀ノ正家トアリ正家ハ權執印家ノ人ナリ亦建久八年薩摩國圖田帳ニ薩摩郡宮里郷七十丁内社領七丁五段安樂寺領社領一丁彌勤寺領トアリ土人傳云新田宮ハ始メ當村ニ鎮坐アリシ故ニ宮里トイフトイヘリ亦權執印氏モ始此處ニ住居シテ宮里ヲ名乘リ其時ヨリ權執印職ヲ勤メシトソ亦御手川トテ小カナル流アリ此ハ神社アリシ時ノ御手洗ナルヘシ

○志那尾神社 奏祀 級戸邊神シナトヘノカミ

當社始メ今ノ社頭ヨリ西ノ方四五町許ノ處ニ鎮座アリシヲ屢川内川洪水ノ難アリシニ依テ寛永四年丁亥十一月ニ遷宮アリシトソ其舊跡今陸田トナシテ神領ニ充タリ此事正徳六年ノ上梁文ニ在リ三代實錄貞觀二年三

月廿日薩摩國從五位下志奈毛神授從五位上トアルハ此ナリ倍コノ志奈毛ハ志奈尾ナルヲ尾ノ冠ノ脱タルナリ例祭二月三日此日ヲ土人土開打植祭ト云十二月三日此日ヲ土堅祭トイフナリ

○諏方神社 祭神信濃國上下諏方ニ同シ例祭七月廿日創建年月詳ナラス

○宮里城 舊記ニ宮里郡司孫九郎久保トアリ又天正四年ノ舊記ニハ宮里ノ領主平田平二郎ト見ヘ同

八年ニハ宮里地頭本田東市正ナト見ヘタリ是等ノ居城ナリケン

○安養寺俗ニ鉢巻城トイフ 川内川ニ臨メル高阜ナリ周廻十町程高サ六十間余ニテ巔上平坦ナリ此處關白

秀吉公西征ノ時ノ陣營ナリ巔ニ堀切ノ蹟アリテ遠ク望メハ頭上ニ鉢巻シタルカ如シ因テ俗ニ鉢巻城トイフ昔時此所ニ寺アリテ安養寺トイヒシトソ

物産

藥品 枳殼、茯苓、金銀花

走獸 猪、鹿、貉、兔

鱗介 鯉、鮎、鰻、香魚、龜

同郡

高江郷

鹿兒島ノ西北十三里十八町ナリ東隈之城郷南申木野郷ニ境ヒ西ノ方海ニ出北水引郷ニ接ヌ周廻八里十町三尺村落高江村 久見崎村 高三百六十三石余士族千六十一人男五百三十九人 女五百三十二人 卒四百九十一人男二百一十七人 女二百六十二人 平民千六百二十二男五百二十八人 女五百三十四人 人員總計二千六百十四人戸數六百一軒

高江村

○高江新田 川内川ノ南岸ニテ舊大ナル水灣ナリ即チ前ニ云ル鳥追ノ謠ニ九州薩摩國云云前ニハ大河流レ末ハ湖水ニツケルトアル地ナリ貞享年中其灣ヲ填テ田疇ト爲シ濶サ十二間長サ六町余石塘ヲ築テ水難ヲ防ク世ニ高江新田ト號ス

○諏方神社 祭神信濃國上下諏方神社ニ同シ創建ノ年月詳ナラス一郷ノ總社ニテ例祭七月廿八日ナリ

○志那尾神社 祭神級戸神ナリ創建年月詳ナラス例祭二月二日

○峰ヶ城 川内川岸畔ニアリ應安ノ頃國主嶋津氏久始テ是ヲ築キ家臣山田式部三郎忠房ヲ城主トヌ同年六月廿三日入來院彈正重門俄ニ兵ヲ發シ自ラ岸ニ緣テ城ニ登ル城兵是ヲ禦キ重門飛石ニ中リテ死ス入來院ノ一族祁答院高城東郷等ノ三氏兵ヲ合セテ來リ攻ム城遂ニ陥リ忠房戰死ス

○猫嶽 隈之城郷宮里村ト高江村トノ境ニアリテ高嶽ナリ北麓ニ川内川流レテ要害ノ地ナリ巔ニ登レハ平佐郷ヨリ水引中郷永利隈之城等ノ地眼下ニ見ユ天正十五年關白秀吉公西征ノ時從軍ヲ率ヒテ是ニ陣シ后水引郷泰平寺ニ移リテ本營トシ此地ニ斥候ノ兵ヲ置キ諸軍ヲ指揮ストイフ巔上東西十間南北十六間余ノ平地ニテ堀切等ノ址アリ

○猪子嶽 猫嶽ヲ距ルコト子ノ方二町余ニシテ野岡ナリ猫嶽ニ連リテ遙ニ低シ巔ニ隍址アリテ當時陣營ノ址ナリ

○大峰本城

○檢見ヶ城

右ノ三城高江村ニアリイツレモ今陸田トナリテ何ノ頃某ノ城ナリシコト詳ナラス

久見崎村

○久見崎 文德實錄フミヤキ挹前ニ作ル挹ハ字書ニ酌也トアリ毛詩ニ酌酒ト見ユ前ハ古史ニ崎ト
通シ用フ古事紀ニ笠沙之御前或ハ天武天皇紀ニ山崎ヲ山前トアル類ナリ 川内川ノ海口ニシテ東京泊
浦ニ對岸ス川口ノ幅數十町ニシテ大小船泊繫ノ要津ナリ固船手ノ役所アリシヲ近年鹿兒島ニ移シテ
今人家ノミ殘レリ海陸ノ眺望此アタリノ第一勝ナリ

○孝女福依賣 文德實錄曰壽仁三年秋七月丙辰賜薩摩國孝女挹前福依賣爵三級終ニ其身ニ旌ニ表門
閭ニ依賣天性至孝父母年耆八十老病著レ牀無レ子唯有ニ女ニ福依賣扶ニ持左右ニ掌レ藥ニ二十余年備力致レ養
晚夕辛勤容顏焦瘦觀者憐レ之福依賣雖レ云ニ野旅ニ閑ニ於禮儀ニ恭ニ敬父母ニ有レ所ニ謫稟ニ必正レ色作レ聲末ニ
曾褻惰ニ矣

大日本史列女傳曰福依賣薩摩國民家之女也父母老無ニ男子一家又窮戚備力以養ニ父母ニ致レ勞二十余
年雖レ生ニ長於草野ニ略閑ニ禮儀ニ恭ニ敬父母ニ未ニ曾褻惰ニ仁壽中賜ニ爵三級旌ニ表門閭ニ白尾國柱曰按古
之時天下之民鰥寡孤獨貧窮老廢者收養給待皆有ニ其法ニ又孝子順孫義夫節婦志行聞ニ國郡ニ者旌ニ表門
閭ニ悉除ニ課役ニ詳ニ國史律令ニ見ヘタリ皆王道ノ善政ナリ云々福依賣唯勞ヲ致スノ二十有余年ノミ
ナラス性行淑謹幽閑貞靜内不レ忘ニ恭敬ニ外不レ失ニ禮容ニ則都雅ノ良貴トイヘトモ多ク讓ルヘカラス西
荒邊鄙ノ女子ニシテ此婦德ノ至美ヲ備ヘタリ宜ナル哉天子寵章ヲ授ケ榮爵ヲ賜フコト國ノ光ト謂ツ

ヘシ故ニ余往年依賣ノ事蹟ヲ咨ヒ訪トイヘトモ世遠ク人亡ヒ舊聞遺忘今存スルモノナシ可惜哉孝義
錄曰薩摩國薩摩郡高江郷久見崎村水主惣左衛門仲喜太郎二十五歲寛政元年孝行者褒美同所伊勢五郎
十九歲同時褒美同娘名不知十四歲同時褒美以上三人者トモ此福依賣同地ニシテ孝行ヲ以テ名ヲ青史
ニ播ス事併昔ノ績マテ今更ニ引出シテ云々信ニ少緣ナラヌ事ナラスヤト云ヘリ實ニ然リ仁壽三年ヨ
リコトシ明治四年マテ年ヲ數ルニ千十有九年ナリ其間桑田變シテ碧海ト成リシモ多カルヘシ獨其名
ノ朽サルハ孝ノ至リ盡セレハナリ眞ニ天下ノ龜鑑トスヘシ

○船魂神社 船手ノ跡ニアリ祭神住吉大神ナリ享保十二年創建ニテ祭日二月三日ナリ

○茂山 久見崎村船手ノ跡川内川ノ入江ニ臨メル山ナリ綠樹繁茂シテ山色美シ故ニ茂山ノ名ヲ得タ

○柳櫛神社 祭神詳ナラス一説開聞神社ニ同シトイフ額挂柳之櫛ヲ齋郷祀ル依テ社號トス土俗農業
及ヒ船ノ神ト稱シテ近郷近村ノ土人崇敬ス例祭二月二日ナリ

物産

- 走獸 野猪、鹿、貉、兔
- 飛禽 雉、山雞、鴛鴦
- 鱗介 鮪、松魚、鯛、鯉、魷、鮓、鰻、龜

薩隅日地理纂考六之卷 畢

薩隅日地理纂考七之卷

薩摩國

薩摩郡

東郷郡

薩摩國田帳曰東郷別府五十三町二反内云々下司在廳道友或ハ郷司名主在廳道友トアリ
道友ハ大前氏ニテ世々東郷ノ郡司ナリシヲ實治二年澁谷太郎光重鎌倉ヨリ此地ニ來リ大
前チ亡シテ是ヲ領ス委クハ下ニ云フベシ

鹿兒島縣廳ヲ距ル事亥方十四里アリ東山崎郷南川内川ヲ隔テ樋脇及ヒ平佐郷ニ境ヒ西ハ水引高城ノ
兩郷ニ接シ北阿久根野田高尾野ノ三ヶ郷ニ分界ス周廻十六里四十間二尺村落九 淨淵村 田海村 白濱村
山田村 烏丸村

斧淵村

○諏訪神社 奉祀、建御名方命、南刀美命、一郷ノ總社ナリ棟札ニ明德三年壬申當社造立澁谷薩摩
前司入道沙彌重佛 重佛ハ東郷重親ヨリトアリ傳曰始當郷ノ總社紫美神社ナリシヲ澁谷氏第五世東郷若狭重
親當社ヲ建立シテ總社ヲ改メシトイフ

○五社神社 祭神五坐、伊勢大神、八幡大神、春日大神、加茂大神、建比大神
延寶七年ノ棟札アリ實治二年澁谷太郎光重薩摩ニ來リ兄弟五人アリテ當社ヲ建立シ各崇敬スル處ノ

神ヲ一柱ツ、會祭ストイフ

○鶴ヶ岡城 高サ三十間餘周廻三十五町許ナリ一名ヲ國見城マタ遠見ヶ尾トモイフ本丸二ノ丸南城山崎城高城川原城等ノ名ヲ分ツ當郷ハ往古在國司大前某世々郡司ニテ斧淵城ヲ治所トシ其一族斧淵或ハ時吉ヲ以テ氏トス舊記ニ建久ノ初在國司小太郎道氏ト見ユ又建久八年圖田帳ニ東郷別府ノ中ニ時吉二十五町七段高城郡ニ時吉十八町薩摩郡ニ時吉六十九町此外邪答院伊集院ノ兩所ニモ時吉云々トアリテ合セラ二百十一町餘本地頭在廳道友マタ本郡司在廳道友或ハ郷司在廳道友トアリテ此外ニモ同名ノ見ヘタルハ皆同人ニテヤカテ此書ノ奥書ニ權大前在判トアルモ同族ナリ又舊記ニ建久年中東郷郡司時房マタ弘安年中東郷在國司道副トモ見ユ斯ノ如ク數世國司或ハ郡司ヲ承襲セシヲ其後澁谷太郎光重大前氏ニ代リテ東郷ヲ領ス光重ハ其先秩父ノ支族澁谷庄司重國カ子ニテ鎌倉ニ仕ヘ薩摩國邪答院入來院東郷高城ノ五ヶ郷ニ封セラシテ光重男子六人アリ長ヲ重眞トイフ或ハ武藏守實重ニ作ル父ト同シク鎌倉ニ在テ將軍ニ仕フ次ヲ早川次郎實重或ハ實保第三吉岡三郎重保或ハ重直第四大谷四郎重茂或ハ重諸第五曹司五郎定心第六落合六郎重貞ト号ス實治二年ノ春光重次子實重以下ノ五子薩摩ニ下リ兄弟五人五ヶ郷ヲ分領シ實重東郷ヲ領シ當城ヲ治所トス家号ヲ東郷ト改ム光重初メ封ニ就クニ及ンテ在國司大前氏東郷ヲ去ラス澁谷ト爭戰止ム時ナシ實重ヨリ三世東郷重親ニ至リ國司入道大前道超豪富ニシテカツ武勇アリ勢ヒマスノ壯ニシテ重親力ヲ以テ爭ヒ難キヲ慮リ其弟氏重ニ家ヲ讓リ盟テ曰重親嗣子ナリ我生テ大前ニ勝事能ハス死シテ泉下ノ鬼トナリ彼ヲ滅サムトテ土中ニ埋メラレテ死ス時二二十年ナリ一説ニ重親實重ノ馬ニ乘リ土穴ニ墮入リテ死ス既ニシテ道超病ニ臥シテ死ストイフ此事ナホ親神社ノ條ニイフベシ其後遂ニ東郷ヲ一統シ同族蔓延シテ近境ヲ侵

掠シ多年國命ニ應セス世ニ是ヲ澁谷黨ト云フ元龜年中ニ至リ島津貴久ノ武威ニ服シ一族相議シテ悉ク島津家ニ降ル此時ノ領主東郷重向ナリ貴久其罪ヲ許シテ東郷ヲ與フ重向嗣ナシ天正五年島津中務家久二男重虎ヲ嗣トス時ニ四歲謙德丸トイフ後忠直ニ改ム同十五豊臣秀吉公下向ノ時僅ニ十五歲當邑ヲ去リ日向國佐七原ニ寓居ス是ニ因テ同十六年島津圖書忠長ヲ移シテ領主トシ忠長是ヨリ先申長ノ地頭ナリ後宮之城ヲ加増アリテ慶長五年忠長彼地ニ移リ東郷ヲ兼領ス同十九年故アリテ東郷ヲ除セララルカクテ寛永十年日置ノ領主島津彈正久慶兼領セシヲ延寶八年領主島津左衛門久竹カ請ニ因リテ舊領日置ニ移シ此地直隸トナレリ

○新城 寛永十年島津久慶島津忠長ニ代リテ東郷ヲ領シ治所ヲ此所ニ移セシ故ニ新城ノ名アリ

○原之城 東郷重親カ時ニ國司方ノ將西川某野某島丸某三人當城ヲ守ル重親屢攻戰ストイヘトモ城堅固ニシテ多年陷ル、事能ハス重親一夜稻荷神社ノ靈夢ヲ蒙リ不意ヲ攻テ遂ニ城陥ルト云フ

○國司城 亦斧淵城トモイフ往古國司大前氏代々居城ナリ建久八年十二月鎌倉ノ御教書ニ在國司内裏大番來春云々トアルハ大前道胤ナリ

○司野 此地伊佐郡山崎郷ノ通路ニテ列木ノ松原ナリ左右ハ田野ニテ人モ處々ニアリ此地高敞ニシテ南ハ入來樋脇兩郷ノ諸山相連リ其連山ノ奥ニ串木野冠岳ヲ遙ニ望ミ西ハ松林ノ岡阜ニテ眺望殊更ナリ倍此邊ヨリ水引郷或ハ高城郷屋形ヶ原ノ邊マテ掛テ薩摩ノ國府ナリシカ故ニ司野或ハ國司城等ノ名ヲ殘セルナリ

島丸村

○紫尾神社 奉祀 伊弉册命、大穴持命、少彥名命 一説瓊々杵尊彦火火出見尊 鶴草不合尊トモ云フ 創建ノ年月詳ナラス文明十二年庚子歲修造ノ棟札アリ

田海村

○紫美神社 祭神前ニ全シ文安元年甲子卯月澁谷薩摩平重隆造立ナリ又慶長九年甲辰三月島津忠長再興ノ棟札アリ往古東郷ノ總社ナリシト云フ

○親神社 チカ 領主東郷重親ノ靈ヲ祭ル重親ハ東郷氏三世ノ孫ナリ大前氏ニ敵シカタク死シテ後ニ亡サムトテ谷淵村淵脇山ニ入定ス年二十五ナリ其時重親甲冑ヲ着シ蘆毛ノ馬ニ騎リ誓曰我歿後靈驗ヲ著スヘシト 重親事實上章鶴岡城 其後紫尾神山ノホトリナル鳥曰ノ大木ニ毎夜神燈ヲ現ス故ニ其弟太郎左衛門氏重當社ヲ建立シ重親ノ親ノ一字ヲ取リテ親大明神ト號ストイフ永祿十二年平重綱再興ノ棟札アリ 重綱ハ重親カ 後裔ナルヘシ

○日吉神社 祭神大山咋神元和二年造立ノ棟札アリ

中郷村

當村ハ始メ東郷ノ内ニテ一村ナリシチ中古分チテ一郷トシ郷名チ中郷ト呼ヘ古ニ復シテ東郷ニ併テ一村トス

○諏方神社 鹿兒島ノ總社諏方ノ神靈ヲ迎祭ス創建ノ年月詳ナラス例祭七月廿八日ナリ

○霧島神社 大隅國噲呷郡霧島神社ヲ迎祭ス年月詳ナラス

藤川村

○菅原神社 菅原道真公ヲ奉祀ス例祭八月廿五日ナリ創建ノ年月詳ナラス土人ノ傳説ニ曰道真公太宰帥ニ左遷シ給ヒ猶後難ヲ恐レテ潜ニ薩摩ニ下リ此地山水幽邃ノ境ナルニ依テ潜居シ玉ヒ遂ニ此處

ニテ薨シ玉フ因テ此處ニ葬リ當社ヲ建立スト云フ神社ハ石階ヲ登ル事二十餘間ニシテ其山上ニアリ土人此地ヲ北野ト號ス前後岡嶺相連リ前ニ谷川アリテ藤川トイフ社地稍寬平ニシテ櫻楓松杉多シ鳥居ノ北ノ側ニ古松一株アリテ石ノ井垣アリ菅公ヲ葬リシ所ナリトイフ 又一説ニ鳥居ヨリ七八間許ニ古松樹アリ此地葬所ナリトモ云 又社ノ南二十八町許ニ小鷹トイフ地アリマタ社頭ノ南一里半ニ鳥嶺トイフ一名ヲ菅原越トイフ阿久根ヨリ藤川ニ趣ル山路ナリ菅公筑前ヨリ薩摩ニ來リ出水高城等ヲ經テ彼鳥嶺ヲ越ヘ小鷹ニ至リ此地後ハ山ニ倚リ前ハ谷川ニ臨ミ山水ノ清幽ナルニ愛テ隱栖シ玉ヒシ跡ナリトテ却テ此地ヲ天神宅地ト云リサテ小鷹ノ内ニ今ニ宰府ト唱フル地アリテ是ヲ菅公ノ從臣居宅ノ跡トス又社頭ヨリ申會方二十五町許ニ寺小路トイフ所アリ 宰府ヨリ卯方 五六町ナリ 此所ニ梅ノ古木一株アリ土人崇敬シテ神木ト稱ス菅公此所ニ一宿シ給ヒ公ノ自植ナリトイフ此地今農夫ノ宅地ナリ其花淡紅ニシテ社頭ノ傍ナル梅ニ同シ 海樹 ハ下ニ 詳ナリ 又社頭ノ前面三四町ニ水田ヲ隔テ山アリ木戸口ト號ス其山櫻楓多シ是モ菅公自植ナリトイフ正保正年延寶七年社殿再興ノ棟札ヲ藏ム文化十二年乙亥二月島津齊宣又是ヲ再興アリテ郡山郷花尾神社ノ神官井上某ニ祭嗣ヲ命ス又菅公ノ畫像一軸 菅公自筆 寶殿ニ藏メタリシヲ是ヲモ井上某預リテ花尾ニ安置ス 是ヨリ以前鹿兒島ノ士東郷九右門此畫像ノ損セム事ヲ恐レ彼カ家ニ納メタリシチ 官命アリテ今花尾社ニ藏レリ九右衛門ハ往古當郷ノ領主東郷重親等カ後裔ナリ 神寶及ヒ古文書許多アリシヲ關白秀吉公下向ノ時兵火ニ罹テ盡ク燒亡ストイフソモノ菅公ハ延喜元年正月廿日大宰權帥ニ左遷シ給ヒ同三年大宰府ニ於テ五十九歲ニテ薨シ給ヒ安樂寺ニ葬ルカクラ村上天皇ノ天曆元年菅公ノ社ヲ京都北野ニ建ラレ同九年天滿天神ノ神號ヲ授ラレ一條天皇ノ正曆五年ニ勅使ヲ大宰府ニ立ラレ太政大臣正一位ヲ贈ラル此外菅公ノ事跡ハ正史ニ詳ナルヲ斯ノ如ク土人ノ口碑ニ殘レルハイカニ

ト按スルニ藤川モ往古安樂寺領ニテ寮府ヨリ官吏ナドノ來リシヲ菅公ニ訛リ傳ヘケム薩摩國圖田帳出水郡出水郷老松庄二十四町四段安樂寺領トアリテ老松天神社アリ又日向國圖田帳ニ諸縣郡馬關田庄六十三町安樂寺領ト見ヘテ其處ニモ天滿宮アリ是等ト同シク安樂寺領ニハ一社ヲ建立アリケム

老松庄馬關田庄天滿宮ノ事ハ其條下ニ舉ゲル

馬關田ハ今郷名ヲ眞幸ト改メ
△梅樹 當社境内華表ノ北三十間許ニアリ土人相傳ヘテ菅公親植給ヘリトイフ其本一殊ニテ枝先キ地ニ垂テハ其處ニ根ヲ生シ四方次々カクノ如クニシテ數千株ノ如ク今ハイツレカ其本株ナルカヲ知ルヘカラス其廣サ四段余ニ及ヘリ花ハ淡紅ニシテ滿開ノ時ハ錦繡ヲ布ケルカ如ク又清香馥郁トシテ遠ク薫ル宛モ仙家閨苑ノ景狀ニ擬スヘシ梅林世ニ多シト雖モ未タ斯ノ如キヲ聞カス毎年多クノ實ヲ結フト云ヘトモ更ニ苗芽ヲ生スル事ナシ又神ノ忌給フトテ核ヲ拾ヒ採ル事ヲ堅ク禁シタリ此梅樹ノ古リタルヲ以テ當社ノ久シキヲ察スルニタレリ世ニ是ヲ藤川梅ト稱シテ四方ニ名高シ花ノ候ハ云モ更ナリ常ニモ路ノ遠キヲ厭ハス詣ル輩絶ヘス又海陸共ニ旅ニ赴ク者梅核ヲ申請ヒ懷中シテ守リトシ返リテ返献スルノ例ナリ若シ怠ル者ハ神罰アリトテ此ヲ嚴ニス 或人去ル文政ノ頃官命ニ因リテ琉球ニ渡海ス時持行シテ逆風ニ遇ヒ橋船ヨリ或ル小島ニ揚リシニ程ナク本船ハ壞レ船中ノ品悉ク沈没スカクテ便船ヲ得テ琉球ニ渡リシニ一日皮龍一ツ涙ニ隨ヒテ流レ入ル取リ揚テ即チ開キ見ルニ彼燈壇ナリケリ是神靈ノ然ラシム處ナリトテイタク敬拜シ任終リ飯リテ則チ返献ス又國守齊宜ノ室往年當社ニ詣テシ事アリ此時梅ノ大枝路ニ横タハリテ神前ノ通路ヲ塞キタリ有司相議シテ伐リ除カムトスレトモ神慮ヲ恐レ猶豫シテ決セス夜明ケテ見レハ其枝已ト起キ直リテ聊モ通路ニ障ハラフ此ハ其時關レル有司親見スル所ナリ

物産

○藤川岳 當郷ノ東北ハ群山重疊シテ鶴田郷紫尾山ニ連レリ藤川岳ハ惣名ニシテ其中ニ鳥栖峰津田星峰眞谷峰寺ノ高山アリ山林幽邃ニシ異木良材多シ

器用紙

藥品 枳殼、茯苓、半夏、桂辛、金銀花

樹木 櫛、甘櫛、榧、檜、羅漢松

飛禽 雉、山鷄、鴛鴦、鳧

鱗介 香魚、鱸、鯉、鮎、鱒、鰻、鰻

走獸 猪、鹿、猿、貉、獺

同國

甌島郡

甌島

當郷ハ上下二ツニ分レテ島形南北ニ長ク北ヲ上トシテ南ヲ下トス上甌ト下甌ト相離レテ上下相距ル事一里二島ノ間ヲ伊牟田迫戸トイフ潮流甚急ニシテ汐時ヲ以テ通船ス上甌ハ島形方ニシテ山林少ク四面ニ海灣多クシテ長澤アリ下甌ハ南北長ク東西短ク大形山林ニシテ海灣ナシ二島ニ皆海岸ニアリ風島若干本島ノ外ハ人家ナシ

鹿兒島ヨリ西海陸二十四里上甌島島周圍十四里三町余村落八 中甌村 里村 江石村 平良村 高千五百十

二石六斗六升二合余士族四千十一人内 男二千五百人 平民一萬千六百六十一人内 男五千八百六十一人 人員總

計一萬五千七百七十二人總合戶數三千四百七十五續日本紀寶龜九年十一月ノ紀ニ甌島ト見ヘマタ子敷

ニ作ル和名鈔甌島 注古之 又唐書波耶小王云々トアリ按スルニ續紀孝謙天皇神護景雲三年十一月庚寅

天皇臨軒薩摩國正六位下甌華人麻比古授正六位上トアリ波耶ハ準ニテ小王ハ其會長ヲ謂ルナル

ヘシ一説武備志ニ天堂トアルヲ甌島 倍島名ヲ甌トイヘルハ中甌島ノ中ニ東西へ潮ノ通フ海門アリテ串瀬ト

云フ其内ニ甌形ノ巨嶺アリ島民是ヲ甌大明神ト稱ス是ヨリ出タルヘシ因テ思フニ串瀬戸ノクシハ甌

ノ略語ナルヘシ續紀實錄五年十一月壬子ノ紀ニ曰遣唐第四船來ニ泊薩摩國甌島郡一其判官海上真人三
 狩漂ニ着耽羅國一被ニ島人畧留一但錄事韓國連源等陰謀解纜而去率遺衆四十余人而來略又曰第一
 船海中斷ニ船艙一各分主神津守宿禰國唐并唐判官等五十六人乘ニ其艦一而著ニ甌島郡一又三代實錄曰貞觀
 十五年五月廿七日庚寅先是本宰府言去三月十一日不知何許人一船二艘載ニ六十人一漂ニ着薩摩國甌島
 郡一言語難通問答何用其首崔宗佐大陳潤等自書曰宗佐等渤海國人國王差ニ入大唐一賀平徐州一海路浪
 險漂蕩至此國司推ニ驗事意一不責ニ公驗一所書年紀亦復相違疑是新羅人僞稱ニ渤海人一竊來ニ邊境一歟
 領ニ將二船一向レ府之間一船得レ風飛レ帆遁逃是日勅渤海遠蕃飯順於我一蕞爾新羅久挾ニ禍心一官レ令上府
 國司官司審加中推勘上實是渤海人須下加ニ慰勞一充糧發飯一若新羅凶黨全禁ニ其身一言上兼令下管内諸國重
 鎮警守ト大日本史後二條天皇正安三年十二月十一日丙子前相摸守北條貞時奏ニ元兵寇ニ薩摩子敷島云
 云異稱日本傳曰嘗聞ニ藤原經長記一正安三年十二月十日異國賊船來ニ干薩摩子敷一者一艘凡海上船可ニ
 三百艘一此爲ニ寧一山後事一而元史不見蓋世祖因ニ於我一廿三年罷征ニ日本一遂死而後已成宗繼立使ニ一
 山一而一山不レ飯故浮ニ巨艦一候ニ我動靜一又薩摩國圖田帳ニ甌島四十町内沒官御領千葉介上村二十四町
 本地頭在應道友下村二十町本地頭藤師丸トアリ此上村下村ハ今ノ上甌下甌ナルヘシ寛永十九年七月
 十七日日本人三人アリテ南蠻人六人ヲ擁護シ當島ノ海岸ニ匿居セシ者アリ島人はヲ捕ヘテ訊問スル
 ニ金一貫七十錢銀六百三十六錢ヲ藏ム以テ官ニ告ク遂ニ幕府ニ達シ異國人トモニ九人ヲ長崎ニ監送
 ストイフ土人野ニ耕シ海ニ漁シ織布製品ヲ産業トス人口繁殖シテ民居稠密ナリ倍此島下甌ノ地ハ層
 山複嶺連綿シテ絶ヘス其高峰ノ第一ナルヲ敷潮岳トイフレニ御岳又大岳トモイフ次ヲ青潮岳トイヘリ上甌島

ハ山林少クシテ郊野多シ高山ヲ牟禮岳トイフ其ノ次ヲ大蔵岳トイヘリ凡此島ノ形狀怪巖奇石連リ唐
 嵩ノ山水ニ能ク似タリ

平良村

○甌神社 當村串瀬戸ニ在リ即チ前ニイヘル甌大明神ニテ島ノ宗社ナリ俗ニ甌岩ト云祭神詳ナラス
 或ハ海神ナリトイフ中甌村ト平良村トノ間一二町許ノ海門ニテ東西ノ潮水相通シテ涸潮ノ時ハ接壤
 ナリ甌岩ハ中甌ノ方ナリ崑石ノ上ニ聳テ其高サ三十尋許其形チ宛モ甌ノ如シ是ヲ神體ニ崇メテ別ニ
 社殿ナシ祭祀九月九日ナリ祭日ニハ必ス蜥蜴トカゲニ似タル奇魚海渚ニ飛上ルト云土人其魚ヲ呼ンテ龍ノ
 駒ト稱ス

○新田八幡神社 奉祀 瓊々杵尊

同村ニ在リ嘉祥二年水引郷新田宮ノ社司官里壹岐神体ヲ奉シ來リテ創建ストイフ祭祀ハ九月十九日
 ナリ天正十五年以來再興ノ棟札存ス

○講本神社 同村市浦ニ住リ祭神詳ナラス往古領主小川某小川氏事跡龜鶴城ノ卷ニ詳ナリ始テ當嶋ヘ渡海ノ時市浦ヘ
 着船シテ暫ク滞留シ既ニシテ治所ヲ定ム故ニ此地ニ當社ヲ建立スト云祭祀九月廿四日トス社號其意
 ヲ得ス

○東浦 當島ノ北面ニシテ舟船泊繫ノ海灣ナリ上甌ニ渡ル者必ス爰ニ舟ヲ入ル俗ニ里村ノ入江トイ
 フ此所往古小川氏島主タリシ時ノ治所ナリトイフ

○眺浦 同村瀬上ノ海邊ニアリ海渚ニ海鼠池及ヒ旗間池嶽崎池等アリ此海邊沙渚平遠ニシテ碧石多

ク盆石ヲ産ス島ノ嘴遠ク海上ニ突出シテ天草島及ヒ肥後薩摩ノ遠山ヲ望ミ又櫻島岳ヲ雲際ニ望ミテ
海陸ノ風景上甌第一ノ勝地ナリ慶安五年國主光久當島ニ渡海シ梶原某カ家ニ宿リテ此浦ニ遊ヒ絶景
ヲ賞セシトゾ土謠ニ御縁曲アリ此時ニ始ルトイフ

○海鼠池 眺浦ノ海邊ヨリ池マテ半町許池ノ周圍一里廿二町深サ十四尋餘ニテ潮水出入セス池ノ内
ニ海鼠ヲ産ス此海鼠尋常ノ種ト異ニシテ其味絶品ナリ故ニ此島ノ名品ト稱ス海鼠初冬甚小シ春ニ至
リテ次第ニ長大ナリ夏秋ハ復小キニ復ル故ニ春三月頃ニ至リ村民舟ヲ浮ヘテ是ヲ魚ヌ復海鼠池ノ東
僅ニ二步許ヲ隔テ一池アリ旗間池ト云周回十九町四間深サ八尋兩池ノ間ハ通路ナリ此池僅ノ間ヲ隔
テ更ニ海鼠ヲ産セス

○中甌港 中甌村ニアリ海岸遠ク南ニ突出シテ港口ヲ擁抱ス島中頗ル輻湊ノ良湊ナリ往古唐船漂着
ノ時モ此港ニ泊繫セシトイフ

○浦内港 此港瀬上桑浦ノ兩浦ニカ、レリ周回一里許ノ海灣ニテ其狀チ江湖ノ如シ風濤ノ思ヒナシ
トイヘトモ舟船ノ出入ニ便ナラス

○平港 同村ノ南面ナリ往古ハ此村ヲ矢島トセシトゾ人家漁釣ヲ以テ業トス此所始港ナク土人風濤
ノ難ヲ患ヘシニ鹿兒島ノ士長崎ハ右衛門隆近當島ニ祗役シ此海邊ニ大池アルヲ見テ其池ヲ港ニ開カ
ン事ヲ官ニ啓シ報可ヲ得テ寛政十一年三月ヨリ崑ヲ碎キ地ヲ鑿リ三年ニシテ其功畢ル港口横十步深
サ一丈三尺周廻十町四十步港内ノ深サ五丈餘舟艦ノ出入自在ヲ得テ風濤ノ思ヲ免レ隆近カ功勞永世ニ及ヘリ
此港人烟繁昌ナリ

○大炊中將墓 里村ニアリ中將ハ正三位中將藤原賴國卿ナリ後陽成天皇ノ御世慶長十四年七月松木
少將宗隆卿ト共ニ猪熊待從ノ事ニ坐セラレ硫黃島ニ流サル宗隆ハ飛鳥井雅庸卿ノ親戚ナルカ故ニ飛
鳥井家ヨリ國主ニ書ヲ贈リテ慰勞ヲ乞ハル因テ兩人ヲ甌島ニ處ク同十八年三月十日病ヲ卒ス賴國島
土梶原藤右衛門宗政カ女ヲ妾トシテ女子ヲ生ム此女島士本田親豊ニ嫁ス因テ本田カ子孫世々祭事ヲ
主ル始メ松樹ヲ植テ標トセシテ其松枯テ今山茶ヲ植タリ按スルニ知譜拙記ニ賴國ハ權大納言賴經ノ男
ニテ慶長三年左中將正三位同十四年流罪同十八年五月硫黃島ニ卒ス三十七ト記セリ五月卒ストアル
ハ都ニ聞ヘシ時ナルヘシ公卿補任ニ慶長三年從三位藤原賴國廿左中將正月五日叙正三位云々トアリ
○松木少將墓 同處西昌寺跡ニアリ自然石ヲ建テ標トス寛永四年戊辰八月廿二日當島ニテ沒ス事ハ
上章ニ云ルカ如シ梶原宗政家譜ヲ按スルニ賴國沒後其妾梶原氏ガ女ヲ寵シテ二女一男ヲ生ム長女ハ
早世シ二女ハ島津家久ニ仕ヘ承應二年痘ヲ患ヘテ死ス男ヲ少兵衛ト云フ松木氏ヲ冒ス其子伊兵衛嗣
子ナシ知譜拙記ヲ按スルニ松木家ハ中御門家ノ事ニシテ硫黃島ニ流サレシ人系譜ニ見ヘス權中納言
宗滿ノ第三子宗信兄宗則ノ養子トナリテ少將從四位下ニ拜任セリ時代此人ニ當レリ

○龜鶴城 里村ニアリ往古島主小川氏世々ノ居城ニテ其趾今陸田ナリ又辰己方ニ水田ヲ隔テ古壘ア
リ上古甌隼人ノ居城ナリト云甌隼人ノ事始ニ見ユ小川氏系譜ヲ按スルニ其祖先日野宰相宗賴ヨリ出
タリ宗賴故アリテ武藏國ニ配流セラル是ヨリ其子孫武藏國ニ住ス宗賴ノ子宗親武藏ノ國ノ内ヲ領シテ其家族
同國ニ繁殖シ平山季重稱毛入道等其支族ナ
リ右大臣實朝公ノ時小川右衛
門尉直高相模國二ノ宮ヲ領ス其後承久ノ亂ニ小川小太郎季能北條義時カ軍ニ從ヒ官軍ノ裨將甲斐宰相範義
ヲ斬ル其功ニ因リ義時甌島及肥後益城郡ノ内七十町ヲ與フ其子小太郎季直始テ甌島ニ下リ小川小太郎
甲斐宰相範

義ヲ斬シハ承久記是ヨリ世々承襲ス古文書ニ小川郡司或ハ地頭小川某云々ナト見ヘタルハ皆此子孫ナリ
 北條九代記ニイフ是ヨリ世々承襲ス古文書ニ小川郡司或ハ地頭小川某云々ナト見ヘタルハ皆此子孫ナリ
 將軍家ヨリ文書 元弘建武以來ノ亂ニ小川氏足利ニ屬シ處處々ノ役ニ武功アリシ事舊記ニ見ヘタリ季直ヨ
 數通此家ニアリ
 リ第十三代中務マテ凡四百余年甌島ヲ領シ來リシニ文祿年中所々ノ邑主ヲ移封ノ時中務ヲ田布施ノ
 内高橋ニ改易シ千石ヲ與ヘ
 中務男千ナク其後家絶セシニ中務カ智伊勢内記ニ男長次郎ニ田祿五百石ヲ與ヘテ中務カ
 後ヲ嗣カシム内記官ニ乞テ以テナリ既ニシテ島津久命ニテ長次郎ヲシテ有馬丹波カ後ヲ嗣シ
 メ其弟喜兵衛中 曾木甚右衛門酒匂兵衛門ヲシテ當島ノ代官タラシメ慶長十六年本田伊賀守ヲ甌島ノ地
 務カ後ヲ嗣ク
 頭トス是ヨリ世々地頭ヲ置テ島事ヲ宰ラシム

物産

土石 硯石 上甌島小島村ニ出ツ絹品ナリ
 鱗介 松魚、松魚脂 此他雜魚多シトイヘトモ松魚ヲ以テ島民産業ノ第一トス

同郡

下甌村

上甌島ヲ距ル事僅ニ一里周回拾五里村落六
手打村 青瀬村 長濱村 間幸田村 高二千六十六石六斗七升二片浦村 瀬々之浦村

手打村

○手打港 手打ハ地名ナリ海形固ヨリ灣曲ヲナセルウヘニ又灣内ニ港堤ヲ設ケ舟舶繫泊ノ便リヲ善クス當村ノ良港ナリ

○瀬尾瀑布 水源此地ノ瀬尾山ヨリ出ル故ニ名ヲ得タリ水勢大ナラストイヘトモ其高キ事凡三十余

間東ニ向ヒテ三段ニ落ツ下ノ一段ハ大岩ノ滑石ニテ幾節ニモ水分レ落テ白練ヲ余多垂タルカ如シ瀑
 ノ下ハ一面ノ平石ニシテ瀑潭ナク流水其上ヲ走り下流海ニ入ル此海口ヲ青瀬トイフ左右岡阜ニテ
 大樹翠ヲ交ヘ風景愛スヘシ海上ニ船ヲ浮ヘテ望メハ上中二段ノ瀑布山翠ノ中ニ彩ヲ分チ景狀殊更ナ
 リ

瀬々浦村

○瀬々浦 俗ニ志々浦トモイフ海東諸國記ニ世々九浦トアル九ハ乃ノ誤リニテ即チ此所ナリトイヘ
 リ其是非ヲ知ラス此浦下甌島ノ西面ニシテ岸壁千尺直立シ怪嶺奇石萬能ノ奇觀ナリ海岸ヨリ五步許
 海中ニ中礁ト呼フ礁アリテ其高サ六十間周廻二町許リナリ此邊波浪殊ニ高クシテ漁船モ容易ク過難
 シ又此浦人家ノ邊ヨリ海上二町許リニ玄礁ダカス巖トイヘル双岩アリテ海門ノ如ク相並ヘリ兩巖共ニ
 其高サ五十間周圍一町許兩巖相距ル事二三間ニシテ舟船其間ヲ往來ス

○八艘穴 瀬々浦ノ海岸ナリ穴ノ口西ニ向ヒ其廣サ漁舟八艘ヲ繫泊スヘシ故ニ名ヲ得タリイカナル
 大風トイフトモ此所ニ舟ヲ入ルレハ更ニ難アル事ナシ然レトモ此洞穴ニ入り舷ヲ敲ハ雷ノ如ク轟キ
 岩洞崩ル、カ如クナルユヘニ恐レテ船ヲ入ル、者稀ナリトゾ

○精靈洞 同浦ノ海濱崖下ニアリ深サ二間廣サ二間余方ニテ底ニ清水アリ土人精靈水トイフ土俗古
 來ヨリ相傳ヘテ黃泉國ヘノ通路ナリトイフ七月盂蘭盆ノ前後ニハ洞口ノ邊草花左右ヘ靡キ伏テ踏分
 タルカ如シ靈魂ノ來往セル跡ナリト云フ

○蓮花池 伊牟田村ニアリ周廻三百二十余間ニテ蓮池ナリ滿開ノ時ハ白赤色ヲ交ヘ其香四方ニ薰リ

テ其景愛スヘシ

○新田神社 天文四年ノ棟札ニ水引八幡新田宮ノ末社ヲ勸請ストアリテ祭神詳ナラス一説ニ神功皇后應神天皇玉依姫ノ三坐ナリトイヘリ大永三年小川伊勢守天文四年小川豊千代丸修造ノ棟札ヲ藏ム往古下甕島ノ總社ニテ祭祀九月十九日ナリ

側之宮 本社ノ左右ニ一社宛在リテ共ニ側之宮ト號ス一社ハ祭神詳ナラス一社ハ六王大明神ト號シ神体六坐アリ然レトモ神號ハ詳ナラス

○諏訪上下神社 奉祀信濃國諏訪神社ニ同シ創建ノ年月詳ナラス鰐口ニ永享五年ノ銘アリ又文龜三年癸亥八月日奉氏遠江守公季再興ノ棟札ヲ藏ム當島ノ總社ナリ往古甕島上下ノ總社ナリシトイフ例祭八月廿八日ニテ士族四人社司ト共ニ八月廿五日ヨリ參籠シ社前ノ弓場ニテ墓目ヲ射ルヲ舊例トス當社神事記一卷アリテ文安三年ヨリ文祿四年マテハ上下ノ甕島ヨリ官吏祭祀ヲ司リシヨシ見ヘタリ又鰐口ニ永正五年大仲氏敬白云々ノ銘アリ

○大多羅神社 瀬々浦ノ中大内浦ニアリ神体靈石四ツ木像四体ヲ安置ス神功皇后三韓征伐ノ時此浦ニ軍船泊繫アリシニ因テ建立ストイフ按スルニ大多羅姫ハ神功皇后ノ御名息長帶姫ヲ誤レルニテ祭神神功皇后其外ノ七坐ハ武内大臣ヲ始メ供奉ノ人々ナルヘシ大内浦ノ名モ此地ニ御上陸アリシ跡ナルカ故ニ負ヘルニヤアラン今畧シテ内浦トイフ創建ノ年月詳ナラス例祭十一月十四日ナリ

末社 山神社 蛭兒社 此兩社本社ノ境内ニアリ

○矢房神社 同浦ニ在リ神体靈石四ツヲ安置ス神功皇后三韓征伐ノ時泊繫アリシニ因テ建立ストイ

フ祭神創建詳ナラス

○青潮神社 同所青瀬ニアリテ神鏡一面ヲ納ム背ニ富士山ヲ鑄付ケタリ祭神創建詳ナラス

○敷潮神社 長濱村ニアリ往古島主小川氏ノ一族長濱村ヲ領シテ建立ストイフ祭神及建立ノ年月詳ナラス

物 産

産物硯石ノ外上甕島ニ同シ

布 帛 葛布、白絲、綿、麻絹、棧留

器 用 蘭席

飲 食 葛粉、蕃薯

藥 品 海人草、天門冬、枳殼、異種厚朴

薩隅日地理纂考七之卷 畢

薩隅日地理纂考八之卷

薩摩國

伊佐郡

伊佐ノ郡名和名抄其外ノ古書ニ見ヘス往古宮之城及ヒ鶴田大村佐志黒木蘭牟田山崎七ヶ郷ノ地ヲ合セテ郡答院トイヘリ建久八年薩摩國圖田帳ニ郡答院百十二町内島津御庄寄郡没官御領地頭千葉介富光五十四町本郡司熊同丸倉丸三十町本主龍岡太郎道男時吉十五町本名在藤道友得末十三町本名主肥後國住人江田太郎實秀トアリ又郡答院ノ北ニ接シタル牛山郷ヲ牛屎院ニ百六十町内島津御庄寄郡右衛門兵工尉永松二百四十町院司元光幸万五千五百町島津御庄方辨濟使木寄十五町名主前内舍人康友光武五十町名主九郎太夫國吉トアリ此兩院ヲ今伊佐ノ一郡トス此事伊佐郡伊作郷ノ卷ニ云リ參考スヘシ

當郡ハ東南薩摩國薩摩郡ニ境ヒ西同國出水郡ニ接シ北日向諸縣郡丑方大隅菱刈郡ニ接ス郡内牛山、佐志、黒木、鶴田、宮之城、山崎、大村、蘭牟田ノ八ヶ郷ヲ置ク

同郡

宮之城郷

島津圖書傳食邑ナリ其始祖ヲ左兵工尙久ト云島津貫久ノ季弟ナリ尙久鹿籠ヲ領ス慶長五

鹿兒島縣廳ヨリ戌亥ノ方十一里十八丁余ニアリ東ハ佐志大村ノ兩郷ニ接シ西南山崎西北出水北鶴田太良牛山ニ接ス周廻十四里二十六町十間村落八屋地村 船木村 虎居村 平川村 高八千五百八十八石八斗三升八合余士族二千四百七十六人男二千二百十人 女二千二百六十六人卒千八十二人男五百六十六人 女五百十六人平民五千五十八人男二千六百四十一人 女二千四百一十一人人員總計八千六百八十八人戸數二千二十七

○上宮岳 出水郷上宮岳ノ東面ナリ當郷及ヒ出水山崎鶴田ノ諸郷ニ盤根シテ此邊第一ノ高山ナリ委シクハ出水郷ノ卷ニ出タリ

○轟之瀧 當郷虎居村ト時吉村トノ境ニテ大瀧ナリ水源諸縣郡飯野郷及ヒ肥後ノ山中ヨリ出テ則川内川ノ上流ナリ里俗宮之城轟ト稱ス此所曾木瀧ヨリ六里下流ニテ其間ニ激流多シトイヘトモ更ニ此轟ニ並フ所ナシ左右ハ巖壁ニシテ水面マテ高三丈許屏風ヲ建タルカ如シ幅十五六間長六七町其急流斜メニ上下ノ高低相反スル事其二十余度ニ及ヘリ激浪雷ノ轟クカ如ク其色雪ニ似タリ舟ヲ下スニ其迅速ナル事一瞬目ノ間ニテ熟練ノ者ニ非サレハ過ツ事アリトゾ上ル時ハ傍ニ支流アリテ其ヨリ上流ニ曳登ル久見崎ノ海口ヨリ漕船此瀑下マテハ通フトイヘトモ瀑上ニ至ルコトヲ得ス便利ナラサルカ故ニ往年島津久通宮之城古領主舟船ノ運送セムコトヲ謀リ石ヲ斫リ岩ヲ崩クトイヘトモ水勢壯大ニシテ其功ヲ遂ス然ルヲ天保壬寅ノ年藩吏相議シテ更ニ轟ノ大巖石ヲ碎キ數年ヲ經テ其功ヲ遂ケ今水上六里曾木ノ瀑下マテ容易ク舟船往來ノ自由ヲ得タリ

○穴川 水源太良郷長野村ニ發シ數里ヲ經當邑時吉村ト佐志郷トノ境ニテ川内川ニ入ル

○豊川 水源當邑船木村ノ山中ニ發シ虎居村ニ至テ川内川ニ入ル

○船木川 水源二所アリ共ニ宮之城舊牧内ヨリ發シ二水合流シ船木村ニ至テ川内川ニ入ル

○中福良川 水源二所有リ一源ハ當郷求名村ニ發シ一源ハ大良郷長野村ニ發ス兩水合流シテ鶴田神崎村ニ入り川内川ニ會ス

虎居村

○九尾野牧跡 周廻三里余ナリ往古此牧野ノ頂上ニ鉾ヲ建テ牧神ニ崇メシ故鉾之尾トモ稱ス澁谷光重カ孫澁谷良重此地ヲ傳領シテ始テ此牧ヲ建ツ澁谷氏亡ヒテ慶長年中島津左衛門歳久是ヲ領シ牧馬マシ繁殖ス島津光久追風ト名付テ秘藏セシ名馬アリ此牧ノ産ナリシトゾ

○虎居城 傳ニ云往古大前某初テ此城ヲ築キ虎居城ト名ケテ是ニ住ス一名ヲ宮之城トイフ舊記ニ康治年中祁答院又太郎道助又建久中年祁答院又太郎大前道秀共ニ祁答院ノ郡司タリ此外薩摩國圖田帳ニ祁答院云々本主道房及ヒ本主名主在應道祁トアルモ同族ナルヘシ又建永ノ頃班目六郎橋以廣入道聖惠トイヘル者出羽國ヨリ祁答院ニ入部シ其裔孫班目兵衛尉泰基祁答院ニ地頭タリ實治二年ノ春吉岡三郎重直澁谷太郎光重ノ弟三子重直或重保ニ作ル鎌倉ヨリ來リ祁答院ノ地頭ニテ世々當城ニ住シ下城ト改メ祁答院ヲ以テ氏トス是澁谷五家ノ一ナリ澁谷五家ノ事ハ東郷ノ卷ニ詳アリ重直ヨリ十四世河内良重暴逆ニシテ忠良ノ舊臣ト雖モ心ニ愜サル時ハ或ハ追放或ハ戮辱スルコトソノ數ヲシラズ永祿八年ノ冬良重上宮山ニ登リテ狩ス良重カ妻島津氏薩摩守義虎ノ姉嫉妬ノ恨常ニ深ク良重ヲ殺サンコトヲ謀ル同九年丙寅正月十五日良重城ニ飯ル島津氏手自盛膳ヲ備ヘ杯酒ヲ進ム良重ノ沈醉昏倒スルヲ待テ島津氏劔ヲ撫テ良重ヲ刺殺ス家臣村尾龜三トイヘル小童是ヲ見ルニ忍ヒス島津氏ヲ刺殺ス祁答院氏十四世星霜三百余年ニシテ宗祀斷絶ス一族入來院又五郎重豊祁答院ヲ併ハス衆服セス多ク島津貴久ニ内應ス是ニ因テ貴久兵ヲ遣シ祁答院ヲ取リ地頭ヲ闕牟田ニ置ク其後天正八年島津左衛門歳久ニ祁答院ヲ與ヘ歳久當城ニ移ル同十五年五月豐太閤水引泰平ノ營ヨリ軍ヲ旋シ山崎城ニ入り當城ノ形勢ヲ窺ハンカ爲ニ軍士五十二騎當郷諏方ノ原ニ來ル歳久ノ歩卒馳進シテ騎馬ノ士六騎ヲ斬ル殘兵山崎ヘ走ルヲ逐テ牛ノ渡リ瀨ニ至ル殘兵地

理ヲ熟セス深沼ニ陥リ或ハ馬ヲ斷厓ニ馳落シ散々ニシテ本陣ニ退ク歳久諸臣ヲ集メテ關白ノ威風草ノ優カ如シトイヘトモ歳久ニ於テハ更ニ恐ル、事ナシトテ郭外ヲ固メ態ト九尾ツレタリ今九尾或ハ錦ノ尾トイヘリ宮之城佐志大村接界ノ所ニアリ山崎ヨリノ險岨ヲ關白ノ通路トナシテ少モ動搖セス又家臣本田四郎左衛門九尾ノ山中ニ伏シ關白ノ乘輿ヲ射ル六矢ヲ發ツトイヘトモ恙ナクシテ從者創ヲ蒙ル關白當城ノ界ヲ過キテ鶴田ニ宿ス其後歳久關白ノ爲ニ自殺シ領地除セラル當時ノ事狀帖佐瀧ケ水ノ條ニ詳ナリ同四年八月廿六日北郷左衛門時久入道一雲本領都城ヲ轉シテ常郷ニ移リ時久ヨリ其孫長千代丸マテ三代此城ニ住居シ同五年長千代丸舊領ニ復シテ同年十二月島津圖書忠長常郷ヲ領ス

○松尾城 康應ノ頃澁谷氏一族澁谷二郎三郎義鎮當郷ニ在リ永祿年中大隅藩生ノ城主範清澁谷良重ニ黨シ島津貴久ニ反ク弘治三年四月範清落城シテ宮之城ニ來リ良重ニ寄寓ス良重助扶ヲ加ヘ當城ニ居ラシム永祿十二年巳巳五月貴久諸將ニ命シテ祁答院新兵衛カ曾木長野城ヲ攻ム此時範清澁谷旗下ノ將トシテ援兵ニ來ルトイフ

○推込 推込ハ地名ニテ川内川筋ニアリ澁谷出羽重茂ノ時大重惡四郎出水ヨリ來テ下之城ヲ攻ム戰利アラスシテ惡四郎及ヒ一族二百余人此所ニ溺死ス故ニ推込ノ名ヲ得タリトゾ

○森原城 大前氏居城ナリトイフ由緒詳ナラス

○鎮ノ尾 豐關白此所ヲ通行ノ時鎮ヲ留メシ跡ナルカ故ニ名ヲ得タリトゾ其跡今猶殘レリ

○諏方之原 此所ニテ島津歳久歩兵豐關白從軍ノ騎兵六人ヲ討捕シトイフ事ハ上章ニ云リ

○牛渡瀬 舟木村ノ中ニテ小川ナリ下流ハ川内川ニ入ル歳久ノ歩兵豐關白ノ斥候五十二騎ヲ追入レシ跡ナリト

イフ此外古城跡數ヶ所アリトイヘトモ事蹟詳ナラス

○舊領主島津久胤世功碑 當村舊宗寺ノ址ニアリ領主第六世島津圖書久胤祖先世功ノ碑文ヲ林春齊ニ請ヒ碑石ヲ墓前ニ建ツ其文曰

島津久通祖先世功碑並銘 弘文院學士林史撰

原夫鎌倉右幕下執閩國兵馬之權郡國置守護職猶朝州牧封建之類也然或不更世或歷數世而移他邦獨島津忠久文治年中自爲薩摩大隅日向三州守護至今襲封廿世星霜五百年綿綿傳稱忠久者右幕下薛子也嫡々承續歷十五主以至貴久其庶族枝葉相分立家以爲世臣猶列國公孫公族之類也貴久弟曰尙久天文弘治之間貴久平國中叛亂尙久從軍顯勇擢爲副將其子忠長仕國主義久又爲副將領薩南之騎步天正年中攻肝付氏拔數城以功補隅州肝付串良地頭職擊伊東氏於日州中矢被疵屢與豐後大友氏戰勳勞拔群義久賞之以爲州老天正十二年救肥前有馬與龍造寺隆信大戰於高來島原斬敵三千余級肥前國平肥後豐後亦望威風其勢壓九州十五年春關白豊臣秀吉帥大軍到筑紫所向無敵如破竹義久請降秀吉許之得全薩隅及日向舊封自是義久屢入洛忠長從之謁秀吉而爲留於洛召於茶亭加眷遇飯國時義久勞之授薩州東郷地其後又爲質到伏見城秀吉賜宅地忠長曰微臣常以長仕島津本家爲誓願蒙恩許遂素志則爲幸遂辭不受文祿二年秀吉征朝鮮義久使其弟義弘帥軍渡海時義久既老故義弘代監國事義弘子忠恒亦預朝鮮之行忠長爲輔佐義久賞之授采地一萬石此後加祿數矣慶長元年日本諸將攻南原城忠恒使忠長飯薩摩催兵翌年再赴朝鮮三年十月大明軍援朝

鮮聞義弘忠恒於泗川新塞一忠長力戰得首級一敵斃至然踞坐不_レ動義弘使數百騎救_レ之敵敗而退忠長從義弘追進五六里斬首三萬八千七百級舉世以爲大捷其冬班_レ軍到筑前博多義弘逢_レ官使淺野長政曰泗川之勝忠長功也長政握_レ忠長手曰聞_レ卿名久果播_レ勇名於異國士林而目何以加_レ之我今與_レ勇士同_レ席不亦悅乎義弘授_レ寶刀於忠良且加_レ采地四年從_レ忠恒_レ飯_レ薩摩時部下伊集院忠真叛義弘使_レ忠良討_レ之有_レ切五年義在_レ洛爲_レ石田三成被_レ誘共圍_レ伏見城_レ陷_レ之進至_レ濃州_レ未_レ幾東照太神君至_レ自_レ東關原一戰石田伏_レ討義弘敗走此時小西氏亦黨_レ石田_レ被_レ誅其家士等守_レ肥後國宇土壘_レ加藤清正攻_レ之義久遣_レ忠良_レ救_レ宇土_レ既而圍_レ國悉服_レ太神君_レ天下_レ一統義弘脫_レ難飯_レ國蟄居忠長守_レ出水_レ嚴_レ警衛_レ又加_レ采地_レ授_レ祁答院宮之城地頭職_レ七年忠長爲_レ義久使_レ价_レ赴_レ洛謁_レ太神君_レ黨_レ罪曰義弘有_レ石田_レ非_レ素有_レ逆心_レ唯牽_レ時勢_レ不_レ得_レ已而已其詞理細陳_レ神君許_レ之不_レ問而促_レ義久入洛_レ然病不_レ能_レ發使_レ忠恒代到_レ京拜_レ謁_レ神君_レ忠長從_レ焉賜_レ鷹馬_レ及_レ飯_レ國又有_レ酒肴之賜_レ此行一家之危如綫然幸蒙_レ厚恩_レ忠恒賜_レ御諱字_レ改_レ稱家久保_レ薩隅_レ二州日向之郡_レ復如_レ舊忠長勳勞於_レ是藉甚義久義弘共閑居忠長雍髮改_レ名紹益_レ十五年十一月九日沒_レ於薩州_レ歲六十忠長曾在_レ洛之間有_レ暇遊_レ大德寺_レ參_レ禪話_レ又就_レ飛鳥井藤雅庸_レ傳_レ和歌之藝_レ以得_レ印證_レ忠長子曰_レ忠直_レ後改曰_レ忠倍_レ隨_レ父來_レ往於京洛伏見朝鮮南原城之戰_レ得_レ首級_レ伊集院之叛身勞_レ軍務_レ宇土之役竭_レ力接戰發_レ矢放_レ銃殺傷許多既而忠長自_レ東鄉私邑_レ移_レ鹿兒島_レ使_レ忠倍居_レ東鄉_レ慶長十三年五月十八日先_レ父而沒歲三十二忠倍之弟曰_レ忠在_レ後改_レ元久_レ少仕_レ義弘_レ赴_レ朝鮮_レ而泗川之役桃戰之間忠長殆危久元等數輩類發_レ矢禦_レ之敵退忠長得_レ免慶長四年養_レ於同寮新納忠直_レ嗣_レ其家_レ爲_レ薩州百次地頭_レ五年自_レ薩趣_レ伏見_レ途

聞_レ石田起_レ亂急馳到_レ濃州_レ從_レ義弘_レ既而關原戰敗久元力戰死者若干與_レ義弘_レ相失歷_レ日踟躕入_レ京匿_レ舊識者宅_レ從_レ十纜_レ四人東兵搜求甚急久元微服潛_レ於近衛信尹君第_レ躡_レ年飯_レ薩摩_レ得_レ逢_レ主君_レ屢加_レ祿勳_レ事十四年兄忠倍歿忠長使_レ久元去_レ新納氏復_レ本姓_レ以爲_レ己嗣_レ十七年十二月國主家久產_レ男久元射_レ篡目箭_レ家久授_レ名刀及良馬於久元_レ十九年六月家久以_レ久元_レ爲_レ州老_レ授_レ采地_レ一萬三千六百六十石_レ元和四年使_レ久元統_レ薩隅放務_レ辭_レ之不_レ許元和五年春_レ台德公入_レ洛家久述職執_レ謁久元亦幸拜_レ台額_レ及_レ飯_レ國賜_レ御衣_レ此後江城拜謁之時亦爲_レ例七年家久在_レ國行_レ犬追物射禮久元兼學_レ此禮式_レ得_レ其法_レ故此時勳_レ檢見_レ寬永元年家久嫡男光久元服久元爲_レ理髮_レ有_レ名刀之授_レ光久者是今國主羽林中郎將也其餘臨時受_レ畫幅茶器等重器_レ三年家久侍_レ一條城_レ行幸_レ昇_レ進中納言_レ以高_レ家門_レ七年四月十八日大猷公枉_レ駕於黃門江戶櫻田第二十一日_レ台德公責臨每度久元率_レ家久所_レ獻_レ之良馬於庭_レ以渡_レ官廐司_レ其餘饗應之儀久元統_レ掌之_レ且獻_レ雄劍時服於兩公_レ各有_レ時服白銀之賜_レ十四年之冬肥前國島原郡耶蘇峰起久元帥_レ薩州軍_レ往會_レ官使_レ羽林亦自_レ汪戶_レ到_レ軍中_レ時廣門病_レ於薩州_レ羽林依_レ官使之旨_レ往省_レ之久元從焉十五年二月黃門易_レ實三月島原賊平四月羽林赴_レ江府_レ久元從焉五月官命使_レ光久繼_レ家久遺蹤_レ賜_レ薩隅及日向之郡_レ如_レ舊時久元等家臣數輩聞_レ台諭之旨_レ羽林登_レ營拜謝久元等亦獻_レ刀服_レ拜_レ台額_レ時辱_レ玉晉_レ家久老成可_レ惜焉汝輩能輔_レ佐光久_レ勉_レ旃久元等稽首服膺而退經_レ日羽林使_レ久元齋_レ黃門遺器名劍短刀畫幅茶器_レ就_レ元老弟_レ奉_レ獻_レ大猷公_レ既而久元飯_レ國二十年六月十二日沒_レ於薩_レ歲六十三久元自_レ壯年_レ談_レ禪頗聞_レ秘要_レ好_レ騎射_レ師_レ世業者_レ極_レ其蘊奧_レ又有_レ茶癖_レ義弘熟_レ其事_レ授_レ其式久元_レ與_レ國主_レ有_レ同族之親_レ而爲_レ二三世老臣_レ有_レ功有_レ勞故羽林殊禮重_レ之其在_レ

國聽乘肩輿出入城庭上舉國皆倚賴之其子久通嗣家元和二年十二月元服黃門授刀時義弘老猶存矣舉馬賀之寬永四年從黃門初到江戶滯留之間師荒木氏受馭法傳其書十四年秋黃門嬰病久通日夜陪侍憂心形于色及其困篤使久通赴江城及發召久通汝能聞我所言東行就元老執政達台聞乃口授曰其舊病無藥餌之效故參府之期既過中心憂之太切抑想往事亡父義弘逼時勢逆豎幸蒙太神君恩宥得全家門至於今然不能報其萬一而臨終在近遺念不少長子光久得蒙左右指南竭上誠此所庶幾也久通到府啓元老白之九月十日久通應召登營元老傳鈞旨曰黃門疾病不怏然遠發使价台慮感悅能服良藥保養則可得效齡未爲極老再會可期乃賜御書殊加御手書且賜時服道服於久通拜戴之乃發途十月飯國復命可謂堪專對之事也久通常慰凡今諸侯隔年宿衛江府我太守亦其列也在府之營各競華美用度不足則借於富商其息錢經年益倍如此則不能支積久之基者必矣是以居國之日費私財使下識氣良工作要器入山谷探金穴求銀坑遂察其氣至寬永十七年於薩州長野山中得沙金即歷上裁深探木穴由是工商不招來集國中賑喜先以所得之金償所借者而用度稍不之衆皆謂久通能謀保國之本者也十九年久通從羽林來江城以久元病故代之攝事正保元年授家老職田辭之不許其歲羽林携琉球國使以到江城賀幼君降誘羽林以琉球使登營拜詣日光神廟畢事久通與琉球使飯國二年久通遂補州老如久元時四年十一月十三日大猷公御覽犬追物於武州王子村館是羽林累年所經營而其騎射練習久通訓導之此儀絕而不行者既久矣無貴賤皆以爲武事壯觀大猷公與嗣君共賜時服於久通而羽林亦授刀慶安二年琉球使又

至江城拜禮之儀如前時羽林有虛疾使久通以彼使詣日光山明曆二年今大君命光久縱繫國中金山羽林使久通東行拜謝上就執政啓之登營奉拜台顏而反命頃年羽林漸老改薩摩守而稱大隅守令嗣綱久既有子成長曰綱貴今薩摩守是也久通或候江府或在國海陸千里從三主之交代然每有重事殊參府勳之寬文十一年琉球貢使又至久通護之往還其儀如先年久通武事之暇志於文字既以射法爲家之業兼傳馭法暇日與弘文學士林叟執交先是寬永系圖編輯時久通爲國主使與叟議其家譜且叟往日侍犬追物御覽之席末退會久通作倭字記今行于世久通依久元遺訓輯錄島津家事實以爲八卷號世錄記就叟訂正之又作征韓錄六卷就余求序其在江府或來訪以問字或寄詩以請和一曰拜聖堂表恭敬心及飯國寄納琉球國香案於聖堂其志可謂厚也寬文十二年請致仕然猶預議兩國大事延寶二年臘晦不祿年七十一嫡子久胤繼家自久通存時來江府登城拜台顏至是代父執國事自尙久至久胤六世爲兩國巨擘而其積善之慶貽其孫謀豈其故國有番木之謂而已哉同姓世臣永與宗主共保國傳家至於無疆也久胤與叟不渝也交有碑詞之約寄家譜懇請類繁故叙其世系事實大概申之以銘

銘曰

文治始封 薩隅開國 本根貞固 支葉蕃息
 出張瓜牙 入爲羽翼 海雲飛揚 邊塵拂拭
 勢壓筑陽 名動韓域 見義而勇 慮事能得
 備嘗險難 仰服武德 劍戲之衛 騎射在式

馬嘶^ニ東風^一 船繫^ニ西極^一 一家六世 其儀不^レ忒
延寶戊午之春 島津久胤立^レ之

平川村

○惡四郎石 ^{アラレツク}大重惡四郎軍兵ヲ卒ヒ出水ヨリ來テ澁谷出羽重茂ヲ攻ム遂ニ虎居村推込ニ於テ溺死ス
其石塔ナリトイフ

○新城 ^{シノビヤツ}同村ニアリ澁谷遠江久重居城ト云傳フ由緒詳ナラス

湯田村

○八幡神社 奉祀 應神天皇 神功皇后 玉依姬 武内宿禰

社傳ニ壽永年中祁答院ノ惣領守ニ鶴岡八幡ヲ迎祭ストイフ文明三年辛卯仲冬再興ノ棟札ヲ藏ム内陳ニ太刀鎧其外武器ヲ納メタリ祭日ニ神輿川内川ノ上流ナル川原ニ濱下リノ式アリテ神官賣劍二振ヲ奉シテ神輿ノ左右ニ扈從シ或ハ神幣ヲ捧ケ或ハ神舞ヲ奏ス是日詣人甚多ク或ハ軍外ニ市店ヲ構ヘ遠近ヨリ男女老若群參ス

△實什 太刀二口 ^{一口備前兼光在銘}島津義弘朝鮮出陣ノ時ノ奉納一口 ^{無銘相傳ヘテ青江作ト}島津歲久奉納

△三十六歌仙額一收 裏ニ天正九年辛巳五月十六日奉^ニ寄進^一島津左衛門督歲久ト記セリ

△鎧四領 一領ハ義弘朝鮮渡海ノ時ノ奉納 一領ハ中納言家久朝鮮渡海ノ時ノ奉納 一領ハ島津歲久奉納 一領ハ北郷長千代九奉納トイフ 鎌鎧一柄 義弘奉納 銀幣歲久室奉納 怒^{カウキコ}狓 文明十一年トアリテ以下分明ナラス 神輿 應永云々地頭澁谷遠江久重ト記シタリ

求名村

○白山神社 奉祀詳ナラス祭日十一月十八日棟札ニ明應十年卯月九日トノミアリテ創建審ナラス

○箭武佐神社 例祭十月五日ナリ棟札ニ大永五年霜月建立トアリ

○山神社 同村ニアリ奉祀大山祇命祭日十一月七日天文二十四稔重建ノ札ヲ藏ム

○菅原神社 屋地村ニアリ例祭八月廿五日木像ノ背ニ應永六年三月吉日施主愛遠作者正勤ト記セリ

物産

衣服 麻 此地ノ名産ナリ世ニ宮之城苧ト號シテ賞美ス

器用 紙、皮鞋

鱗介 鯉、鮒、鱸、香魚、鱒、鰻、龜、鼈

食禽 雉、鳧、鴛鴦

同郡

黒木郷

島津主計久實食邑ナリ始祖ナ島津豊後季久トイフ島津久豊第三子ナリ豊州家ト號ス初メ大隅國帖佐ヲ領ス文明十八年十一代島津忠昌季久ノ子修理忠廉ニ日向國飯尾島ヲ與フ忠廉ヨリ第四世豊後忠親伊東義祐等ト屢戰テ永祿十一年途ニ其地ヲ失ヒ都ノ城篠池ニ寓居ス島津義久忠親カ子豊後朝久ニ大隅國平房市成ヲ與フ平房ハ市成ノ隣邑百引ニ平房村アリ是ナリ朝久カ子豊後久賀カ時寛永十一年黒木ニ轉ス

鹿兒島縣廳ヨリ亥方九里ナリ東ハ桑原郡山田ニ隣リ南北大村ニ接シ西ハ佐志ニ接ス周廻五里廿四町二十間村落^{黒木村} 高千五百四十石三斗五升八合余士族五百四十五人 男二百七十七人 女二百六十八人 卒三十七人 男三十三人 平民三百三十五人 男百六十七人 女百六十八人 人員總計九百七十七人 戶數二百二十一

○黒木峰 クノキダケ 當邑第一ノ高山ニテ群山ノ上ニ秀ツ土人入來郷八重山ニ其高サ類ストイフ

○大王神社 祭神 大物主命

創建ノ年月傳ハラス當邑ノ總鎮守ニテ正祭十一月八日ナリ

○菅原神社 元和五年建立ストイフ祭祀八月二十五日ナリ

○諏方神社 慶長五年建立トアリ祭祀七月二十七日

○高峰山 タカミネ 餅上峰 モチカミダケ 當邑ノ地連山層嶂相接ス中ニ黒木岳ニ亞テ高キハ此ニ峰ナリ

○長江瀑布 ナガエ 當郷ト大村郷中津川南方トノ境ニアリ大村ノ卷ニ詳ナリ

物産

藥品 金銀花、茯苓、瓜蒌實

樹木 杉、樟、黄櫨、楮、櫛、椎

走獸 猪、鹿、兎

飛禽 山鷄、雉、鶉、鳶、鴛鴦

同郡

山崎郷

鹿兒島縣應ヨリ西北十里ニアリ當郷卯方大村辰巳間牟田午方入來未申樋脇西方東郷戌方高尾野亥方

出水子方宮之城ニ接ス周廻十四里十八町二十四間村落五 山崎村 久富木村 白男川村 高四千八百三十一石

八斗五升壹合士族六百二十三人 男三百三十七人 女二百八十六人 平民三千三百四十二人 男千七百六十二人 女千五百八十八人 人員總計三千九百

六十五人戸數九百四十八

泊野村

○上宮岳 北峰鶴田郷紫尾山ノ頂キニシテ當郷及ヒ出水宮之城鶴田郷ノ四郷ニ分界ス巔ニ上宮神社

アリテ出水ニ屬ス巔ノ辰己ノ方八町上下ノ地名ヲ宮床ト呼ヘリ當郷ノ内ニテ往古此處ニモ上宮社鎮

坐アリシト云リ 上宮社ノ事出水郷ノ卷ニ詳ナリ

山崎村

飯富神社 奏祀 倉稻魂命

創建ノ年月詳ナラス祭日ニハ闔村ヨリ祭祀ヲナシ大鼓踊ヲ興行ス拜殿ニ飯富大明神五字ノ額ヲ掲ク

例祭ハ十一月十日七月十日ナリ

○稻荷神社 奉祀倉稻魂命正徳三年再興ノ棟札ニ初メ當郷城山ノ側ニアリシヲ野火ノ災ニ罹リ此所

ニ改建セシヨシヲ記セリ例祭十一月十八日ナリ

○山崎城 宮之城通路川内川ノ上流ニ臨メル一山ナリ往古大前氏 大前氏ノ事ハ宮之城ノ城跡ニイヘリ 所領ナリシヲ澁谷出

羽重氏 澁谷氏ハ東郷ノ卷ニ詳ナリ 祁答院ニ封セラレ重氏第三男澁谷重直山崎ヲ領ス文明十七年九月八日守護方ノ軍

當城ヲ攻メシ時牧峯 當城ヨリ午方凡十六町許 ニ屯シテ山崎城ニ對セシヨシ舊記ニ見ユ其後島津貴久ノ威徳ニ服シ

テ澁谷一族悉ク降參ス天正十五年丁亥五月關白秀吉公平佐城ヲ發シ飯陣ノ時川内川ヲ廻リ當城ニ入

ル時ニ島津歳久居城宮之城ノ形勢ヲ窺ンカ爲ニ軍士五十二騎宮之城ニ入ル歳久ノ歩兵二騎ヲ討取リ

殘兵山崎ニ走ル此ノ事宮之城ノ卷ニ云リ山崎マテ宮之城ヨリ一里平佐城ヨリ凡四里ナリ

久富木村

○稻富神社 奉祀 倉稻魂命 例祭七月二十三日

天正年中久富木村城主久富木山城守造立ノヨシ元祿十年再興棟札ニ記セリ 山城守ハ即下ノ久富木城主ニ久富木山城重金ト見ユ是ナルヘシ
毎年確日ニ大鼓踊ヲ興行ス

○諏方神社 奉祀 建御名方命 事代主命

享保十四年丁未八月再興ノ棟札ニ久富木邑之寄主澁谷重受之代應永三十癸卯年始草ニ創於此村ト記シタリ重受ハ當郷ノ舊記ニ澁谷公重弟彦次郎重氏三世ノ孫次郎太夫重受トアリ祭日七月廿三日大鼓踊ヲ興行ス

○久富木城 當邑ノ舊記ヲ按スルニ昔時澁谷出羽公重弟彦次郎重氏久富木村ノ領主ニテ當城ニ居住シ久富木ヲ以テ氏トシ天正ノ頃ニ至リ久富木山城重金城主ト見ユ

○松昆城 久富水城ノ南ニ續キテ土人久富木ヲ本城トイヒ當城ヲ小城ト呼フ境内久富木ニ比スレハ稍廣シ

○牧峯 山崎久富木兩村ノ境ニアリ文明十七年ノ秋守護方ノ軍山崎城ヲ攻シ時島津修理忠廉陣營ニテ即前ノ山崎古城ノ條ニ云ル牧峰是ナリ

二渡村

○高城 澁谷氏一族東郷氏重第七男東郷六郎ノ居城ナリ六郎後ニ二渡ヲ以テ家號トス

○白男川城 白男川村ニアリ東郷氏重第五子白男川次郎四郎居城ナリ

○栗脇城 同村ニアリ事蹟詳ナラス

物産

衣服 麻、裘扱苧及ヒ鐵引ヲ製ス

藥品 枳實、金銀花、茯苓

飛禽 雉、山鷄、鳧、鶉、灘瀬

走獸 野猪、鹿、兔、貉

鱗介 鯉、鮒、香魚、鰻、鱈、龜、鱧、鱒、鱈、鱈、川蝦

花卉類 山茶 久富木村ニアリ其花大ニシテ葩紅ク蕊白ク甚艶美ナリ土人法圓寺山茶ト號ス往古此所ニ法圓寺トイヘル寺アリシニ因テ名ヲ得タリトゾ

同郡

大村郷

鹿兒島縣廳ヲ距ル事北方十里十八町午方蘭牟田申方山崎戌方宮之城子方佐志寅方黒木ノ五郷ニ接ス
周廻七里三十一町三十六間村落 南方村 北方村 上手村 下手村 高六千四百九十三石五斗五升八合三夕士族千百十八人
男五百五十八人 女五百六十八人 卒九十一人 男五十四人 女四十一人 平民二千二百二十二 男千八十七人 女千三十五人 人員總計三千三百三十一人 戸數七百六十七

上手村

○大居神社 奉祀及創建ノ年紀詳ナラス一説ニ祭神天照皇太神手力雄命豊秋津姫命ナリトイフ往古

ヨリ當郷ノ鎮守ニテ例年九月三日ヲ祭日トス

南方村

○長江瀑布 ナガエ 當郷南方村ト黒木郷トノ境ニアリ水源二ツアリテ一ツハ當郷ノ山中ヨリ出テ一ツハ黒木郷ヨリ出ツ南方村ニテ兩川合流シテ瀑トナル川中ニ大岩アリテ瀑水兩派ニ分レ落ツ高サ十一間三尺瀾サ八間余瀑潭ノ深サ僅ニ一間余ナリ左右ノ巖崖ニ櫻楓及ヒ紫藤躑躅多ク春秋俱ニ其風景愛スヘシ下流ヲ南川トイフ此邊ニ長江トイヘル聚落アリ故ニ里人長江ノ瀑布ト號ス下流佐志郷ヲ過キ川内川ニ入ル

○島津歲久石塔 島津左衛門督歲久ノ石塔ナリ凡五六年ニ一回闔郷ノ諸民塔前ニ於テ舞躍ヲ興行ス當郷ノ壯觀ニシテ詣人且物見人多シトゾ

○大村城 一名ヲ永福城ト呼フ初メ大前氏ノ居城ニシテ康永ノ比太村太郎居城ト舊記ニ見ユ 大前氏ノ及ヒ宮ノ城ノ事ハ東郷條ニイヘリ 寶治二年早川次郎實重兄弟五人鎌倉ヨリ薩摩ニ來リ東郷高城祁答來鶴田入來院ヲ分領シ

大前氏ト合戦數年ニ及ヒ大前氏遂ニ勢ヒ衰ヘ早川カ一族祁答院ヲ一統シ同族大村又次郎諸重ヲ大村ノ城主トス 諸重ハ澁谷遠江久重ニ子ナリ 諸重子澁谷駿河重知同族ト心ヲ合セ其勢強大ニシテ四境ヲ侵掠ス島津元久屢兵ヲ發ストイヘトモ服セス又文明十七年九月元久兵ヲ發シ當城ヲ攻ム戦利アラシテ軍ヲ班ス

○新城 此地大村城ヨリ巳午方諷方山及溪流ヲ隔タリ里民澁谷河内良重居城ナリトイフ今ニ濠塹ノ跡或ハ礎ノ類存セリ良重ハ澁谷五家ノ一ニテ祁答院氏十四世ナリ

○松尾城 四方懸崖ニテ西南ハ川ニ臨ミ東ニ高岡アリ山上縱横三町許今白田ナリ城主詳ナラス

物産

器用 火繩、縣内ニテ當郷多ク是ヲ製ス上品ニシテ他ニ勝レリ故ニ大村火繩ト稱ス

紙、藥品、枳實、茯苓

飛禽 雉、山鷄、鶉、鶉ハ此地ノ名産ニシテ其聲他ニ勝リテ高シ人はヲ賞シ大村鶉トイフ

鱗介 龜、鼈、鰻、川蝦、鮒、鮓

同郡

蘭牟田郷

標山氏舊食邑也其始祖ハ島津忠宗第五子安藝實久ニ出ツ實久始勝岡郷標山ノ邊ヲ領ス因テ氏トス勝岡ノ卷古城ノ條ニ詳ナリ

鹿兒島縣廳ヨリ西北八里十八町余ニアリ東ハ蒲生ニ接シ南入來ニ隣リ西山崎ニ界ヒ北大村ニ接ス周廻五里十八間村落一 間半 田村 高千六百九十八石六斗七升六合余士族千九十六人 男五百九十五人 女五百一十一人 卒五十八人

男三十二人 平民三百七十三人 男百八十一人 女百九十二人 人員總計千五百二十六人戸數三百五

○山王岳 蘭牟田村古里ニアリ當郷第一ノ高山ナリ山下ニ日吉神社アリテ俗ニ山王ト號ス

○日枝神社 山王岳ノ麓半腹ニアリ 神体鏡背ニ神像アリ 近江國日吉神社ニ同シ正月朔日十一月初申ノ日ヲ以テ

祭日トス當郷ノ宗社ナリ創建ノ年月詳ナラストイヘトモ土人相傳ヘテ大古ノ神社ナリトイフ昔ハ醫王寺トイヘリ別當寺アリテ其跡今猶存セリ

△神泉 當社ノ左掖樟樹ノ傍ニアリ御手洗トイフ春ノ央ヨリ湧出シテ秋ノ央ニ水涸ル夏ハ水勢多ク

社前田地ノ用水ヲ助ク

△白髭神祠 本社ノ右側ニアリ祭神猿田彦命ナリ